

早 稲 田 遺 跡
桜 林 遺 跡
西 田 遺 跡
発掘調査報告書

1988

山 形 県
山形県教育委員会

わせだ
早稻田遺跡
さくらばやし
櫻林田遺跡
にしぱやしだ
西林田遺跡

発掘調査報告書

昭和63年3月

山形県
山形県教育委員会

序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和62年度に実施した、平田町「早稻田遺跡」・「桜林遺跡」・「西田遺跡」の緊急発掘調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の進展に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。県経済と県民福祉の向上を目的とする諸開発事業と、県民ひいては国民の文化遺産である埋蔵文化財については、状況に応じた適切な対処が望まれているところです。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり今後も埋蔵文化財の保護と活用のため努力を続けていく所存です。

終わりに、本調査に御協力を賜わりました関係各位、並びに地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

昭和63年3月

山形県教育委員会
教育長 小野 孝

例　　言

1 本報告書は、山形県教育委員会が山形県農林水産部の委託を受け、昭和62年度に実施した「昭和62年度県営ほ場整備事業・中平田東地区」に係る「早稲田遺跡」・「桜林遺跡」・「西田遺跡」の緊急発掘調査報告書である。

2 調査期間

早稲田遺跡　自 昭和62年6月1日～至 昭和62年7月10日（延27日間）

桜林遺跡　自 昭和62年7月10日～至 昭和62年9月8日（延38日間）

西田遺跡　自 昭和62年8月18日～至 昭和62年10月23日（延48日間）

3 遺跡の所在地

早稲田遺跡 山形県鮎川郡平田町大字石橋早稲田

桜林遺跡 山形県鮎川郡平田町大字桜林字大坪・惣田

西田遺跡 山形県鮎川郡平田町大字桜林字西田

4 調査体制

調査主体 山形県教育委員会

調査担当 山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者　主任調査員 佐々木洋治（山形県教育庁文化課 埋蔵文化財主査）

同 佐藤 庄一（ 同 係 長）

同 野尻 侃（ 同 主任技師）

早稲田遺跡

現場主任 名和 達朗（ 同 技師）

調査員 庄司 功

桜林遺跡

現場主任 名和 達朗（ 同 技師）

調査員 庄司 功

西田遺跡

現場主任 伊藤 邦弘（ 同 瞽託）

調査員 庄司 功

同 斎藤 宏

事務局事務局長 後藤 茂彌（山形県教育文化課 課長）

事務局長補佐 土門 紹穂（ 同 課長補佐）

事務局長 菅原 徳嘉(同 芸術文化主査)
佐藤 大治(同 文化財主査)
長谷部恵子(同 主 事)
氏家 修一(同 主 事)
高橋 春雄

5 掘図縮尺は、遺構については1/20・1/40・1/120・1/200、遺物については1/3、1/6を基本とし、それぞれにスケールを示した。図版の遺物は1/3、1/6、1/10とした。

挿図中・表中及び本文中に記号は、SB—建物跡・柱列跡、SD—溝跡、SE—井戸跡、SK—土壤、EP—柱穴、RP—土器、W—木、S—石、●—遺物出土地点を示す。
挿図中の方位は、磁北に合わせた。

6 本報告書の作成については、名和達朗・伊藤邦弘・太田 優・斎藤克典が担当し、挿図・図版については、渡辺清子・鈴木良子・徳正宣子・西村純子・武田一子・木村博子・前田和子・松本時子・徳永裕子・大久保良重・篠原光子・阿部正子・井上みさ子・栗原岐子・澤田恵美子・塩野明子・鈴木邦子・須藤ゆり子・高崎くに子・升谷繁子・町田厚子・吉田直子が、これを補助した。

本書の編集は、阿部明彦・名和達朗・伊藤邦弘が担当し、全体は、佐々木洋治が総括した。

目 次

| | |
|--------------|----|
| I 調査の経緯 | |
| 1 調査に至るまでの経過 | 1 |
| 2 調査の経過 | 1 |
| II 遺跡の概観 | |
| III 早稲田遺跡 | |
| 1 遺跡の層序 | 6 |
| 2 遺構と遺物の分布 | 6 |
| 3 遺構と遺物 | 9 |
| IV 桜林遺跡 | |
| 1 遺跡の層序 | 13 |
| 2 遺構と遺物の分布 | 13 |
| 3 遺構と遺物 | 14 |
| V 西田遺跡 | |
| 1 遺跡の層序 | 34 |
| 2 遺構と遺物の分布 | 35 |
| 3 遺構と遺物 | 35 |
| VII まとめ | |
| 参考文献 | |

挿図目次

| | |
|-----------|---|
| 第1図 遺跡位置図 | 2 |
| 第2図 遺跡全体図 | 3 |
| 早稲田遺跡 | |
| 第3図 土層断面図 | 6 |

| | |
|-------------------|----|
| 第4図 調査区全体図 | 7 |
| 第5図 遺構配置図 | 8 |
| 第6図 建物跡・井戸跡・土壤（1） | 10 |
| 第7図 土壤（2） | 11 |
| 第8図 遺物実測図・拓影図 | 12 |
| 桜林遺跡 | |
| 第9図 土層断面図 | 13 |
| 第10図 調査区全体図 | 15 |
| 第11図 遺構平面図（A・B地区） | 17 |
| 第12図 S B45建物跡 | 19 |
| 第13図 S B46建物跡 | 21 |
| 第14図 S A100柱列跡 | 23 |
| 第15図 土壌（1） | 23 |
| 第16図 土壌（2） | 24 |
| 第17図 土壌（3）・井戸跡 | 25 |
| 第18図 土壌（4） | 26 |
| 第19図 溝跡（1） | 27 |
| 第20図 溝跡（2） | 28 |
| 第21図 遺物実測図（1） | 30 |
| 第22図 遺物実測図（2） | 31 |
| 第23図 遺物実測図（3） | 33 |
| 西田遺跡 | |
| 第24図 層序図 | 34 |
| 第25図 調査区全体図 | 35 |
| 第26図 遺構配置図（A区） | 37 |
| 第27図 遺構配置図（B区） | 38 |
| 第28図 遺構配置図（C区） | 39 |
| 第29図 S B200建物跡 | 40 |
| 第30図 S K131 | 41 |
| 第31図 S K150 | 42 |
| 第32図 S K195 | 43 |
| 第33図 土壌・ピット（A区） | 44 |

| | |
|-----------------|----|
| 第34図 土壌・ピット（B区） | 45 |
| 第35図 溝跡 | 46 |
| 第36図 S X177 | 47 |
| 第37図 遺物実測図（1） | 50 |
| 第38図 遺物実測図（2） | 51 |
| 第39図 遺物実測図（3） | 52 |
| 第40図 遺物実測図（4） | 53 |
| 第41図 遺物実測図（5） | 54 |
| 第42図 遺物実測図（6） | 55 |
| 第43図 遺物実測図（7） | 56 |
| 第44図 遺物実測図（8） | 57 |

図版目次

早稻田遺跡

- 図版1 早稻田遺跡遠景（北から） 調査前状況
 図版2 調査状況（トレンチ） 調査状況（面精査）
 図版3 調査状況
 図版4 土層断面
 図版5 B地区全景 C地区全景
 図版6 S B28 E B1
 図版7 S K18 S E19（1）
 図版8 S K19（2） S E19（3）
 図版9 S K20（1） S K20（2）
 図版10 S K21 S K26
 図版11 出土遺物（1）
 図版12 出土遺物（2）
 図版13 出土遺物（3）
 桜林遺跡
 図版14 桜林遺跡遠景（南西から） 土層断面

- 図版15 調査状況 (A地区) 同上
- 図版16 調査状況 (A地区) S B45
- 図版17 S K33・S B46・S A100 S B46・S K56・S K57
- 図版18 E B23 E B24 E P25 E B26 E B27 E B28 E B38
E B39
- 図版19 E B40 E B41 E B42 E B43 E B48 E B49 E B50
E B51
- 図版20 E B52 E B35 E B36 S K12 S K16 S K19 S K23
S K33
- 図版21 S K56 S K57 S D11 87—30G土層断面 B地区全景(南から)
- 図版22 E P76 E P77 E P95 E P96 S K60 S K61 S K62
S K63
- 図版23 S K65 S K66 S K67 S K68 S K69・74 S K75 S K76
S K77
- 図版24 S E64調査状況 S E64板材検出状況
- 図版25 S E64底面曲物検出状況 同上 曲物
- 図版26 S D72
- 図版27 S D72
- 図版28 S D72
- 図版29 S D72
- 図版30 出土遺物(1)
- 図版31 出土遺物(2)
- 図版32 出土遺物(3)
- 図版33 出土遺物(4)
- 図版34 出土遺物(5)
- 図版35 出土遺物(6)
- 図版36 出土遺物(7)
- 図版37 S E64 曲物
- 図版38 S E64 縦板(1)
- 図版39 S E64 縦板(2)
- 図版40 S E64 縦板(3)
- 図版41 S E64 縦板(4)

図版42 S E 64 縦板（5）

西田遺跡

- 図版43 西田遺跡近景（南東から） 調査風景（B区）
- 図版44 A区遺構検出状況（北から） A区遺構掘り下げ状況（南から）
- 図版45 B区遺構検出状況（南から） B区遺構掘り下げ状況（南から）
- 図版46 C区遺構掘り下げ状況（西から）
- 図版47 S B200建物跡検出状況（東から） S B200建物跡（北から）
- 図版48 S A198柱列検出状況（東から） S A198柱列（西から）
- 図版49 S K48土壤（南から） S K162土壤（東から）
- 図版50 S K131土壤（西から） S K150土壤（西から）
- 図版51 S K195土壤土層断面（北から） S K195土壤（北から）
- 図版52 S X177落ち込み（西から）
- 図版53 S D141溝跡（東から） S D139溝跡（西から）
- 図版54 E P31 E P32 E P33 E P34 E P35 E P36 E P37
E P38
- 図版55 E P39 E P40 E P41 E P42 E P43 E K159 E P160
E P161
- 図版56 E P326 E P328 E P329 E P330 E P336 E P337
E P338 E P340
- 図版57 R P10 R P19 R P21 R P60 R P22 R P23 R P29・30
R P48・49
- 図版58 出土遺物（1）
- 図版59 出土遺跡（2）
- 図版60 出土遺物（3）
- 図版61 出土遺物（4）
- 図版62 出土遺物（5）
- 図版63 出土遺物（6）
- 図版64 出土遺物（7）
- 図版65 出土遺物（8）
- 図版66 出土遺物（9）

表 目 次

| | |
|--------------------|----|
| 早稻田遺跡 | |
| 表-1 遺構計測表 | 11 |
| 表-2 土器計測表 | 11 |
| 表-3 土製品・石製品・木製品計測表 | 12 |
| 桜林遺跡 | |
| 表-4 遺構計測表 | 22 |
| 表-5 土器計測表 | 32 |
| 西田遺跡 | |
| 表-6 遺構計測表 | 49 |
| 表-7 石製品・木製品計測表 | 57 |
| 表-8 土器計測表（1） | 58 |
| 表-9 土器計測表（2） | 59 |

I 調査の経緯

1 調査に至るまでの経過

平田町には、昭和61年度に発掘調査を行った「桜林興野遺跡」を始め34カ所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されている。また同管内の郡山地区は、地名が示すとおり歴史的に興味がもたれるところである。

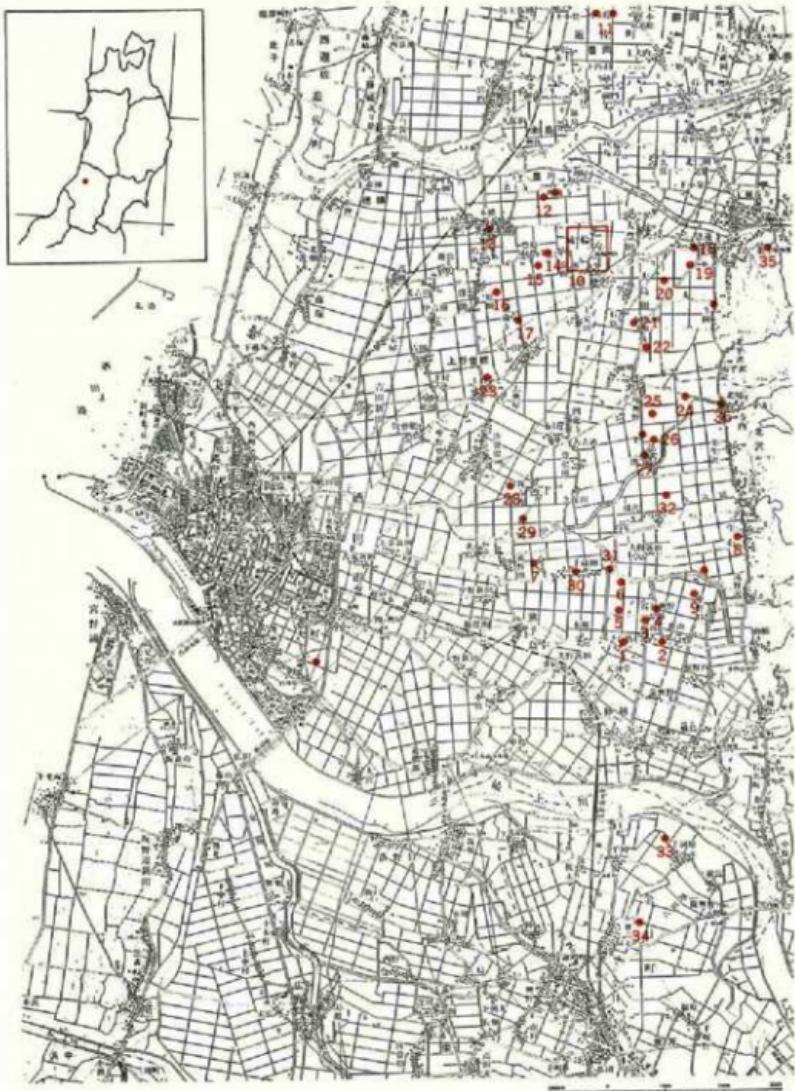
ここに昭和62年度県営ほ場整備事業・中平田東地区が計画され、山形県教育委員会では遺跡保存の観点から開発事業との調整を図るために、昭和61年9月10日に山形県農林水産部農地建設課との聴取りを行い、同年10月9・13・14日に分布調査による試掘調査を実施した。その結果、事業計画区域である平田町石橋地区の北側及び桜林地区の北東側から遺物の出土がみとめられた。また隣接する西田地区について表面踏査を行ったところ、まとまった遺物の散布がみとめられ、試掘調査により新たに遺跡の存在が確認された。この新規発見の「西田遺跡」を含む「早稻田遺跡」「桜林遺跡」の3遺跡が計画区域内に係ることが確認された。この内容を基に、最上川右岸土地改良事務所・大町溝土地改良区・平田町教育委員会等の関係機関による協議を重ねた結果、山形県教育委員会が主体となり3遺跡について緊急発掘調査を実施する運びとなったものである。

2 調査の経過（第2・4・10・25図）

調査は、グリッド設定から入る。基準線は、早稻田遺跡調査区のほ場整備計画農道センター大割杭（R-2）を基準に、そこからセンターラインに直交する線をX座標40、同線上を北へ2m移動した点に直交する線をY座標20とし、単位5×5mの座標を設定した。桜林遺跡・西田遺跡についてもグリッドの座標番号は、それぞれ0から始めたが、3遺跡とも近隣する位置関係であることから、方眼の単位方向は一致するように設定した。各マス目の番号区分は、北西隅の番号数字で表わした。磁北との方向は、N-12°-Eを測る。

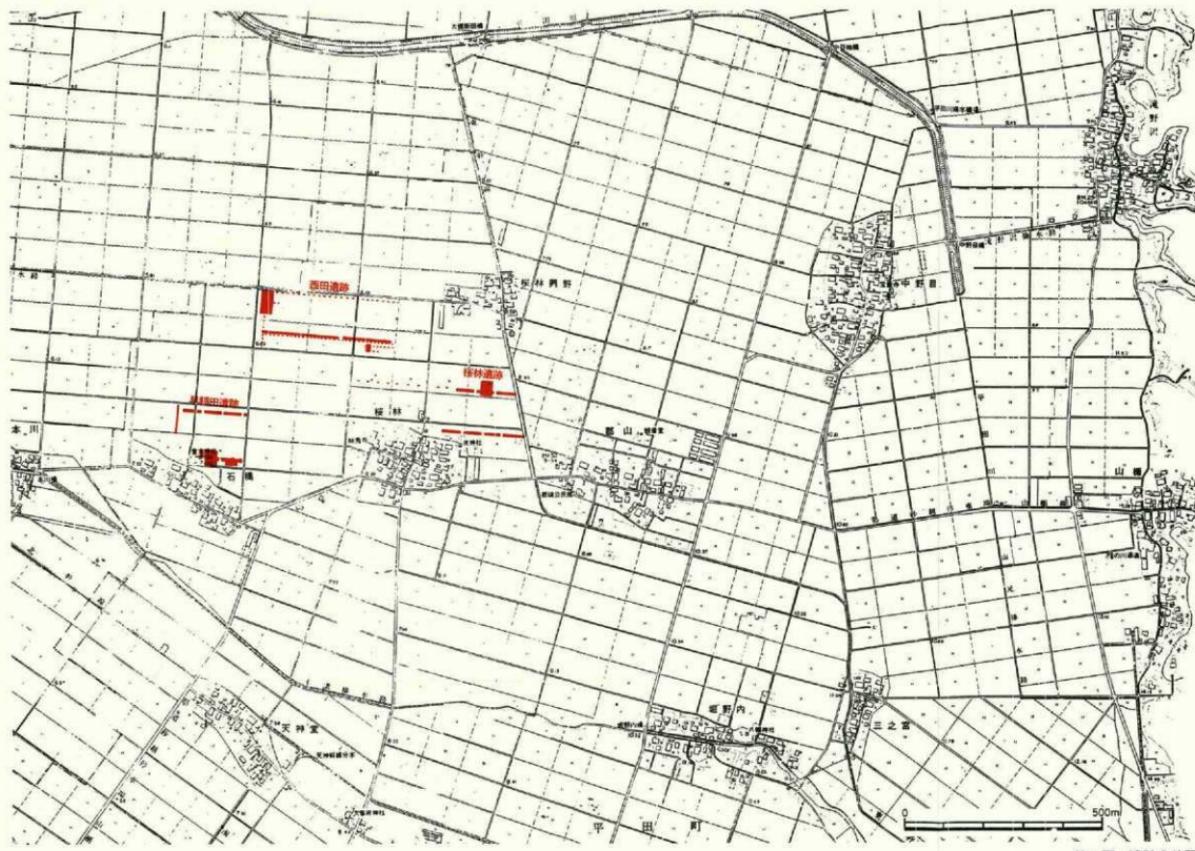
発掘に際しては、当初から重機を利用する計画のため、各遺跡について手掘りによる1m幅のトレンチを入れて遺構・遺物の範囲・深さについて調べた。次に重機を用いて計画農道・排水路及び面拡張区域について粗掘りに入った。それを基に順次手掘りによる面精査に移り、掘り下げ・面削りを重ね遺構・遺物の確認面及びその範囲の把握を行った。また、その作業と併行して、検出できた遺構・遺物についての写真撮影やセクション実測・登録等の記録を隨時実施した。

調査後半からは、記録を主とする作業に移行し、全体写真撮影・平面実測・レベリング等を行い、各遺跡の現地説明会を経て調査の全日程を終了した。



| | | | | |
|--------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 1 早稻田遺跡 | 2 桜林遺跡 | 3 西田遺跡 | 4 桜林興野遺跡 | 5 手藏田6・7遺跡 |
| 6 手藏田10・11遺跡 | 7 熊野田遺跡 | 8 生石2遺跡 | 9 生石4遺跡 | 10 史跡城輪御跡 |
| 11 下小山遺跡群 | 12 新田目B遺跡 | 13 新田目城跡 | 14 盛原遺跡 | 15 豊原B遺跡 |
| 16 駒田遺跡 | 17 安田遺跡 | 18 斑叶谷地遺跡 | 19 史跡堂の前遺跡 | 20 後田遺跡 |
| 21 藻田遺跡 | 22 俵田遺跡 | 23 上曾根遺跡 | 24 上ノ田遺跡 | 25 境興野遺跡 |
| 26 北田遺跡 | 27 間B遺跡 | 28 新青庭遺跡 | 29 南興野遺跡 | 30 手藏田2遺跡 |
| 31 手藏田12遺跡 | 32 高阿弥田遺跡 | 33 千河原遺跡 | 34 甘六木遺跡 | 35 八森遺跡 |
| 36 北境遺跡 | | | | |

第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡全体図

II 遺跡群の立地と環境

1 地理的環境

「早稻田遺跡」「桜林遺跡」「西田遺跡」の3遺跡は、山形県北西部に広がる庄内平野の東部に位置する飽海郡平田町に所在する。

庄内平野は、南北約50km、東西約10km、面積にして約590km²を有し、県内最大の広がりを持つ。東側は出羽丘陵に接し、西側は日本海に接する。平野西端には、遊佐町吹浦に端を発する庄内砂丘が鶴岡市湯野浜まで約35kmの連なりを見せ、その面積は平野総面積のおよそ10分の1である約55km²を測る。平野中央には、最上川が広い氾濫原を形成しながら西流し、穀倉地帯を潤す源として、日本海に注ぐ。平野部は（1）庄内北部河間低地（2）酒田北部三角州（3）庄内北部砂丘に細分される。さらに本遺跡群の立地する河間低地には、自然堤防、後背湿地、狭義の河間低地が含まれる。

飽海郡平田町は、平野部と丘陵部からなり、特に山林は町域の66%を占める。当遺跡群が立地するのは西端突出部分の平野部北側で、酒田市に隣接する。地目は、一部宅地を含む他は水田で占められる。部分的に自然堤防の微高地がみられ、ここを中心にして各集落が営まれて来たものと考えられる。遺跡群の点在する当地域の標高は約7m～9mを測る。

2 歴史的環境

北を日向川、南を最上川によって挟まれたこの地域には、現在まで約60ヵ所の古代遺跡が確認されている。それらの多くは律令体制に置かれた村落と考えられている。さらに平安時代の出羽国府に擬定されている国指定史跡「城輪柵跡」、出羽国分寺とも考えられている「堂の前遺跡」、「三代実録」仁和三年条の「旧府近側高敞之地」とされる「八森遺跡」などがある。一方近年の調査では、遠賀川系の弥生土器を含む大量の弥生土器が発見された「生石2遺跡」があり新資料を提示した。

当遺跡群の所在する地域には、飛鳥・郡山など古代に由来する地名が残り、郡山に関しては、古代出羽国飽海郡衙の最有力据定地でもある。さらに飛鳥神社は、宝亀5年（774）に大和国高市郡飛鳥神社から勧請されたことを社伝は伝え、また新山神社ははじめ最勝寺と称し、天平11年（739）の創建と新光山縁起は伝える。隣接する遺跡では、生石4遺跡、手藏田遺跡群、本川遺跡、山楯遺跡などがある。昭和61年度には本遺跡群の北に位置する「桜林興野遺跡」が調査され、城輪柵跡成立よりさかのほる時期の古代村落の在り方として注目されたことは記憶に新しい。これらの事からも、古代出羽国を考える上で重要な地域と言える。

III 早稲田遺跡

1 遺跡の層序（第3図）

層序は、3つに分けられる。A～F地区までの調査区があるが、遺構・遺物を検出したB・C地区では、酸化・グライ化の違い等によりさらに5つに細分できる。

遺物包含層は、水田耕作土下のII a層で、III a・b層上面精査の際出土した。遺構確認面は、III a・b層上面である。各層は、耕作ないしは水田盤下げ等によるものか、起伏のある面を呈する。調査段階でも、帯状にのびる土色変化がみとめられた。また、A・D～F地区は、グライ化が強い様相を呈する。特に、本川地区北側に隣接するD地区付近は、以前の苗代で深く盤下げを行っているということである。

2 遺構と遺物の分布（第5図）

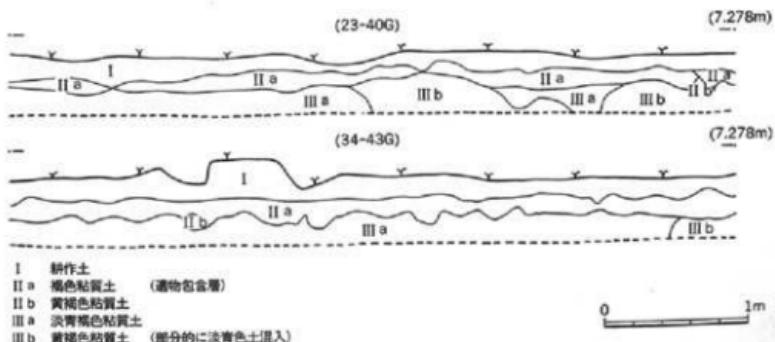
全体に遺構・遺物の確認数は、少ない。A～Fの調査区のうち、確認できたのはB・C地区である。

A地区は、調査区北側に位置する。土壤及び溝状のプランが検出できたが、II層の覆土を示すことから自然の凹凸か、新しい時期のものと考えられる。

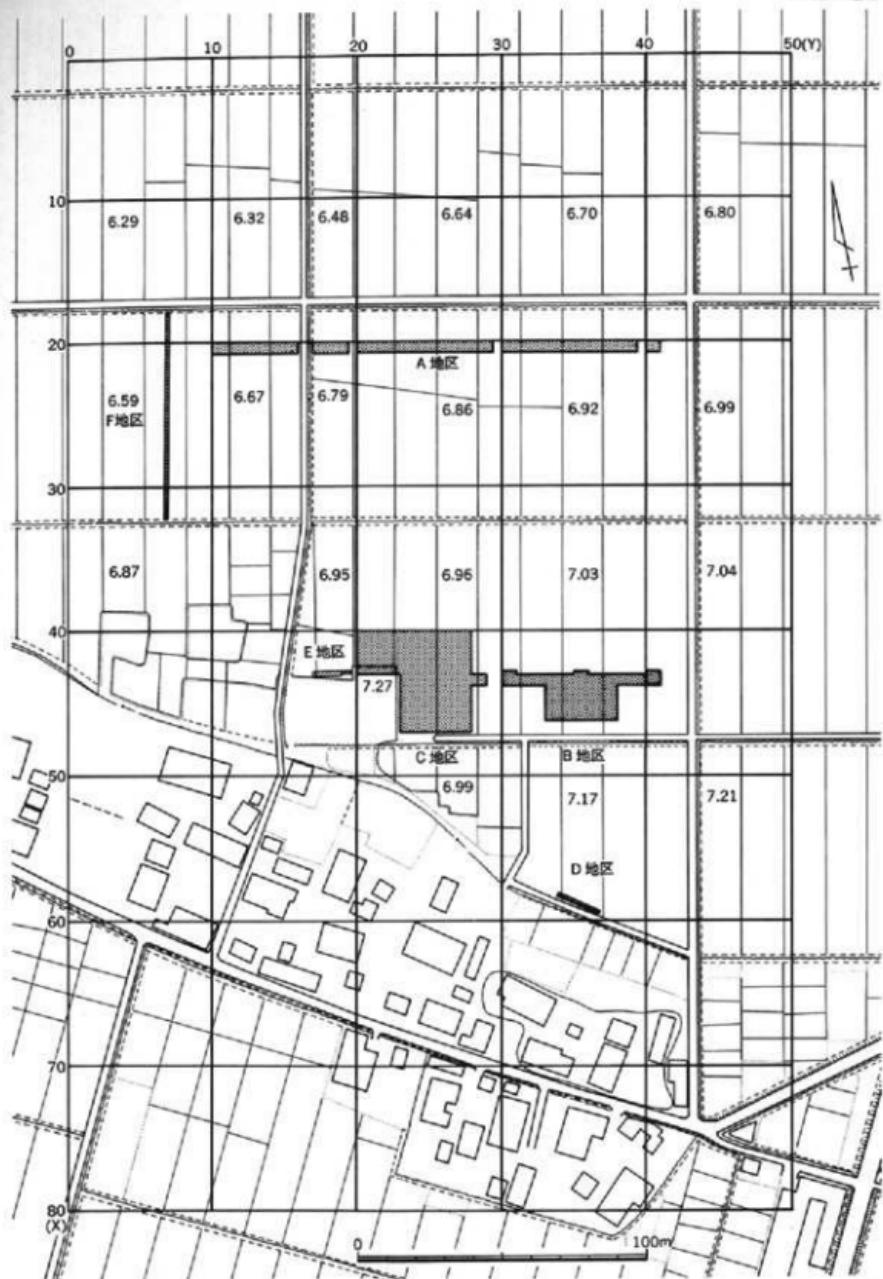
B・C地区は、トレンチを南北に拡張した部分である。B地区からは土壤・溝状遺構（A地区類似のものか）、C地区からは建物跡・柱穴・井戸跡・土壤が確認できた。また、B地区の西側、32-43Gから弥生土器の蓋が1点出土したのが注目される。

各遺構は、調査区の南側に分布する。C地区北側には、直線的な溝状に走るプランがみとめられることから、水田盤下げ等による削平を受けているものと推定する。

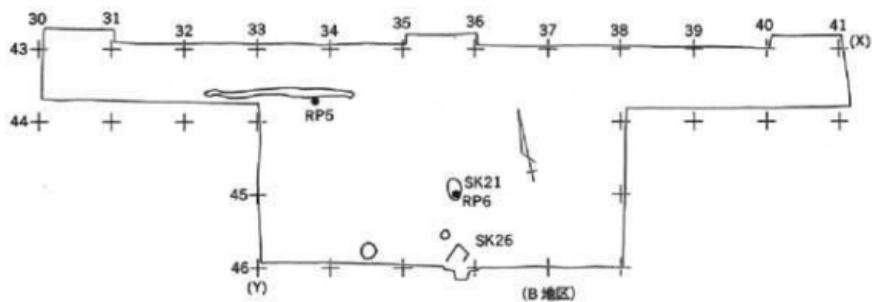
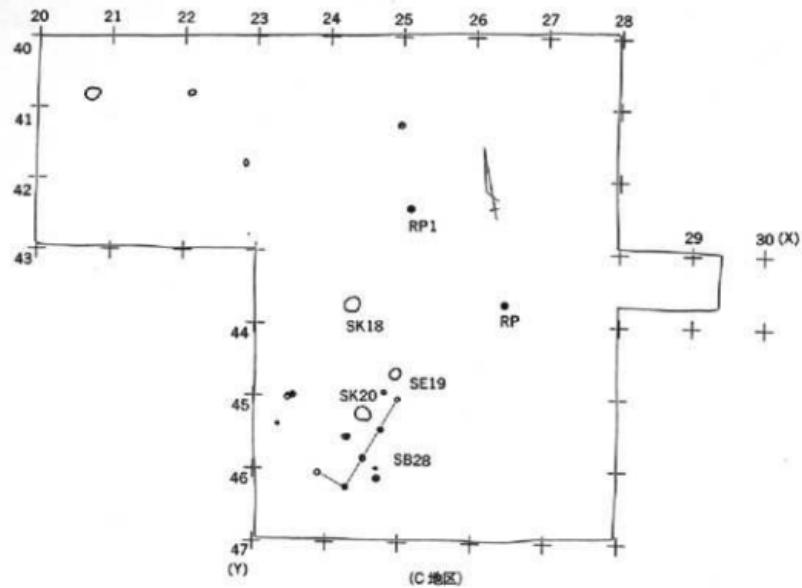
D～F地区は、遺構に把握できるものは未検出である。



第3図 土層断面図



第4図 調査区全体図



0 10m

第5図 遺構配置図

3 遺構と遺物

検出遺構数は、柱穴3・井戸跡1・土壤4である。柱穴からは、建物跡1棟が想定できた。但し、部分確認である。各遺構については、表-1にまとめた。

S B28建物跡（第6図 図版6）

C地区南西に位置する。調査したのは、3本の柱穴で桁行3間である。建物跡全体は未検出であるが、南北棟建物跡の一部と考えられる。柱間距離は、桁行2.4m(8尺)を測る。主軸方向N-41°-Eである。柱穴は径30cm前後、深さ14~17cmである。プラン確認段階で、EB2・3から径11~13cmのアタリと思われる土色変化がみとめられた。また、EB1は板材が斜めに入っており、状況から柱を支える礎板と考えられる。

時期は、出土土器が未検出で明らかでないが、周辺の遺物内容から平安時代の所産と推定する。

S E19井戸跡（第6図 図版7・8）

S B28北側に位置する。略円形の平面形で、縦板や横桟等はみとめられず、壁際に沿って曲物破片が確認された。また、覆土の中位及び底面からは自然石が多数出土した。

出土遺物は、須恵器・赤焼土器の破片のみで、平安時代の所産である。

土 壤（第6・7図 図版7・9・10）

B・C地において2基づつ検出された。B地区ではS B28の北側、C地区では調査区南側に位置する。大きさは径100~176cmで、深さは15~66cmを測り、浅いもの（SK21・26）と深いもの（SK18・20）、平面形は円形（SK18）と椭円形（SK20・21）とに分けられる。

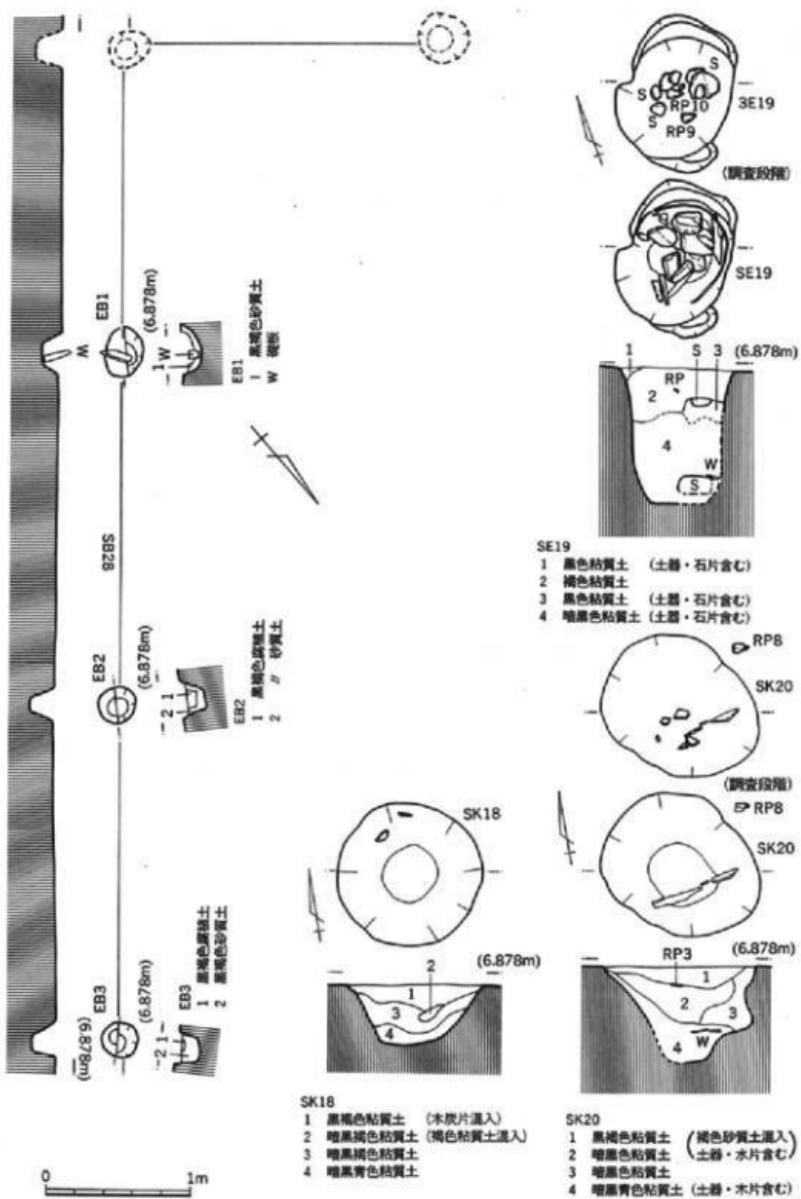
出土遺物の内容は、ほとんどが破片資料である。SK18は、土師器・須恵器・赤焼土器、SK20は、中世陶器、SK21は、須恵器が出土し、その内容から時期は平安時代と中世に分けられる。SK26は、横臥の獸骨が出土した土壤で、時期詳細は不明である。

出土土器・陶磁器（第8図1~10 表-2 図版11・12）

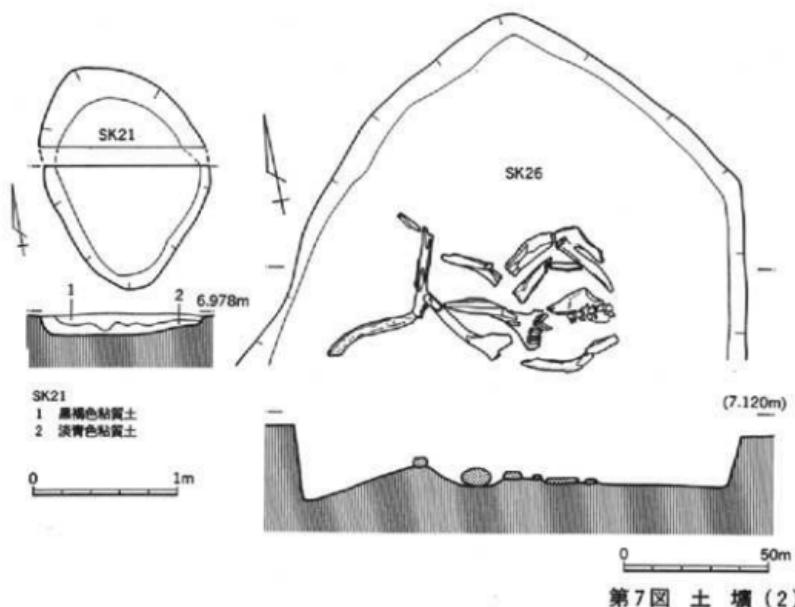
出土総数約570点を数え、須恵器・赤焼土器が多い。図示できたのは、須恵器・赤焼土器・中世陶器・弥生土器で、数量は少ない。須恵器は、壺・蓋・高台付壺・壺である。うち壺1は、口径・底径が比較的小さく回転糸切り離しで、2~5は、ヘラ切り離しである。赤焼土器は、壺・鍋・壺である。中世陶器は、厚手の鉢（8）・壺で、回転（8）と静止糸切り離しである。弥生土器は、小片1点であるが、変形工字文を施す蓋である。

土製品・石製品・木製品（第8図 図版13 表-3）

輪状土製品・円盤状石製品・箸がそれぞれ確認された。遺構に伴うものは、未検出で11・18以外はA地点出土である。



第6図 建物跡・井戸跡・土壤 (1)



第7図 土 壤 (2)

表一 1 遺構計測表

| 番号 | 地区名・層 | 規格(cm) 長径×短径 | 深さ (cm) | 壁 | | 備考 |
|--------|-----------|-----------------|------------|---|---|-------|
| | | | | 直 | 傾 | |
| E B 1 | 24-45-II | 34×26 | 14 | 直 | い | 鐵板をもつ |
| E B 2 | 24-45-II | 25×25 | 17 | 急 | 傾 | |
| E B 3 | 24-45-II | 25×24 | 17 | 急 | 傾 | |
| S K 18 | 24-43-III | 100×100 | 41 | 直 | い | |

| 番号 | 地区名・層 | 規格(cm) 長径×短径 | 深さ (cm) | 壁 | 備考 |
|--------|-----------|-----------------|------------|---|----------------|
| S E 19 | 24-25-III | 100×73 | 94 | 直 | P R 9+10 動物 |
| S K 28 | 24-45-III | 112×93 | 65 | 直 | P R 2+3 |
| S K 21 | 35-44-III | 158×112 | 15.8 | 直 | い |
| S K 26 | 35-45-III | (176)×(121) | 25 | 急 | 傾 底部に骨 |

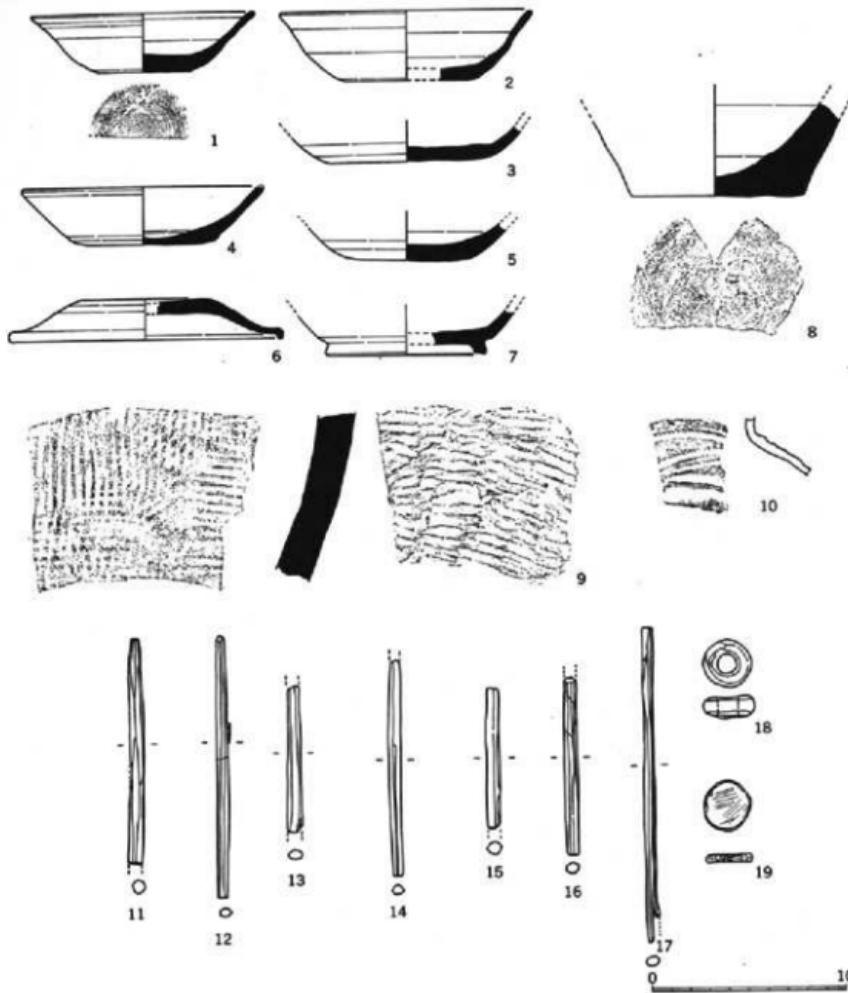
※ () 内の数字は、部分遺構計測値を示す。

表一 2 土器計測表

| 種 類 番 号 | 回 数 番 号 | 規 別 | 器 種 | 出土位置 | 法 量(cm) | | | | 備 考 |
|------------------|------------------|--------|--------|-------------------|------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | | 口 径 | 底 径 | 高 度 | 厚 度 | |
| 8-1 | 11-3 | 圓盤形 | 坪 | 32-43-II (116) | 49 | 31 | | | |
| 8-2 | 11-4 | x | x | 32-43-II (130) | 688 | 36.5 | | | |
| 8-3 | 12-13 | x | x | 32-43-II | | 32 | (21) | | |
| 8-4 | 11-6 | x | x | 35-43-II (121) | 73 | 30 | | | |
| 8-5 | 12-8 | x | x | 35-43-II | | 62 | (19) | | |

| 種 類 番 号 | 回 数 番 号 | 規 別 | 器 種 | 出土位置 | 法 量(cm) | | | | 備 考 |
|------------------|------------------|-------------|--------|-------------------|------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | | 口 径 | 底 径 | 高 度 | 厚 度 | |
| 8-6 | 11-5 | 圓盤形 | 直 | 32-43-II (143) | | | | (21) | |
| 8-7 | 12-11 | x | 扁 平 | 32-43-II | | | 83 | (21) | |
| 8-8 | 11-7 | 中 筒 | 鉢 | S K 20-F | | | 98 | 49 | R P 3 |
| 8-9 | 12-15 | 圓盤形 | 直 | S E 19-F | | | | | |
| 8-10 | 11-1 | 深 牛 頭 | 直 | 32-43-II | | | | | |

※ () 内の数字は、図上復元による概算値ないし推定値を示す。



第8図 遺物実測図・拓影図

表一3 土製品・石製品・木製品計測表

| 序 番 号 | 団 版 番 号 | 種 別 | 種類 | 出土位置 | 計測値(cm) | | | 浮 団 番 号 | 団 版 番 号 | 種 別 | 種類 | 出土位置 | 計測値(cm) | | |
|-------------|------------------|--------|----|----------|----------------|---------------------|-------------|------------------|------------------|--------|-----|----------|----------------|---------------------|-------------|
| | | | | | 全 長 (実寸) | 長 大 幅 (相対) | 最 大 厚 | | | | | | 全 長 (実寸) | 長 大 幅 (相対) | 最 大 厚 |
| 8-11 | 13-22 | 木製品 | 箸 | 34-45-II | (115) | 8 | 6 | 8-16 | 13-17 | 木製品 | 箸 | 27-30 | (91) | 7 | 5 |
| 8-12 | 13-21 | # | # | 31-30-II | 113 | 6 | 5.5 | 8-17 | 13-16 | # | # | 14-29-II | 163 | 6 | 5 |
| 8-13 | 13-20 | # | # | # | (75) | 7 | 4 | 8-18 | 13-23 | 土製品 | 輪状 | 33-43-II | 25 | 24 | 11 |
| 8-14 | 13-20 | # | # | 13-20-II | (112) | 6.5 | 6 | 8-19 | 13-24 | 石製品 | 円盤状 | 37-30 | 26 | 24 | 5 |
| 8-15 | 13-18 | # | # | 35-28 | (73) | 8 | 5 | | | | | | | | |

* () 内の数値は、既存値を示す。

IV 桜林遺跡

1 遺跡の層序 (第9図)

層序は、基本的には3つに分けられるが、地区により違いがみとめられそれらの層位関係は未確認である。遺構・遺物を確認できたA・B地区では、次のとおりである。

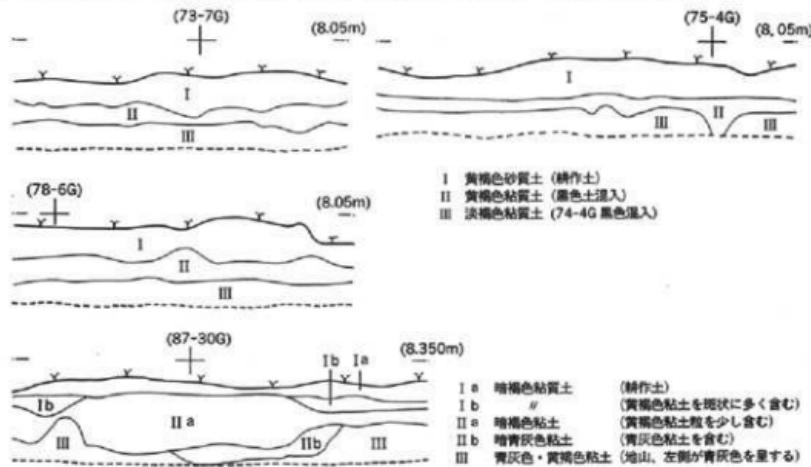
遺物包含層は、II層・IIa・b層と考えられる。IIa・b層は、地山であるIII層上面の溝状の凹地に堆積したものと推定される。遺物の出土状況は、III層上面での精査段階であり、地山の少し上面の深さである。遺構確認面は、III層上面である。III層は、調査区西側から徐々に深くなり、遺跡が微高地に立地する状況がうかがえる。

2 遺構と遺物の分布 (第11図)

遺構・遺物は、A・B地区から確認できた。西側の1×5mのトレンチでは、南西に位置する10-51Gから青磁(香炉)が1点出土した。

A地区は、建物跡・柱穴・土壌・溝跡が確認できた。柱穴は調査区東西側からみとめられたが、建物跡の構成を確認できたのは西側、55-63-30Gの範囲である。

B地区は、トレンチを南北に拡張した調査区である。柱穴・井戸跡・土壌・溝跡が確認され、調査区中央から北東の斜め半分の範囲に分布する。東西方向に走る溝跡(SD72)からは、多量の一括土器群が出土した。柱穴から建物跡は、未確認である。



第9図 土層断面図

3 遺構と遺物

検出遺構数は、柱穴103、井戸跡1、土壤21、溝跡11である。柱穴からは、A地区で建物跡2棟・柱列跡1基を確認できた。各遺構については、表-4にまとめた。

S B 45建物跡（第12図 図版16・18・19）

A地区西側、62・63-30Gに位置する。トレンチの面精査段階で南側の柱穴列が確認され、方向間隔に規則性がみとめられた。次に、それに直交する柱並びを検討したところ、西辺が直線上にのることが把握できた。そこで北西隅確認のためトレンチの一部拡張を行い、柱穴1基を検出した。その結果、推定柱穴位置も含み梁行2間・桁行4間を呈する東西棟の掘立柱建物跡を推定することができた。

柱間距離は、梁行180・240cm（6・8尺）、桁行150・210・240cm（5・7・8尺）を測り、不等間である。主軸方向は、N-13°-Eである。柱穴は、7本まで検出できたが北辺・東辺は未検出である。直径は、19~31cm、深さは12~21cmでほぼ垂直に掘り込んでいる。底面は、ほぼ平坦ないしは丸味を呈する。覆土は、1~2層に分けられ、出土土器は未検出である。

時期詳細は、不明である。

S B 46建物跡（第13図 図版17・19）

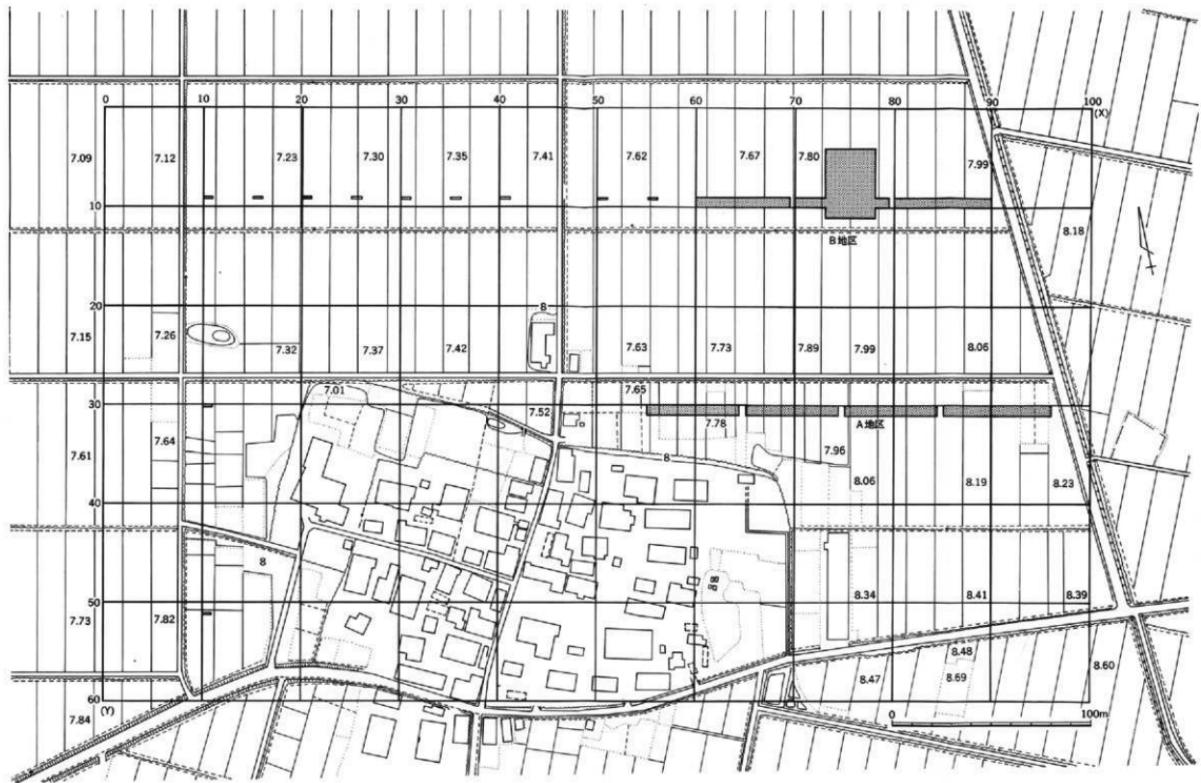
A地区西端、55・56-30Gに位置する。トレンチ精査中桁行方向と考えられる柱並びがみとめられ、梁行方向も含め検討した結果、梁行2間・桁行3間の東西棟掘立柱建物跡を想定することができた。

並び柱は北辺と西辺の確認で、東及び南辺は推定である。東辺については、確認面（III層）での面削りを行ったがプラン等は確認できなかった。梁行方向は、N-13°-EでS B 45とは棟方向で共通性がみとめられる。S B 45との距離は約28mを測り、梁行約1間分南側へずれた位置にある。柱間距離は、梁行240cm（8尺）、桁行210・240cm（7・8尺）で不等間である。検出柱穴は5本で直径26~38cm、深さは9~16cmである。壁は、ほぼ垂直に掘り込まれている。底面には、礎板あるいは根固め用と考えられる石（自然石）をもつもの（E B 47）もみとめられる。覆土は、1層で灰色・青灰色粘土粒を含み、ほぼS B 45のそれと類似する。柱穴内出土土器は、未検出である。

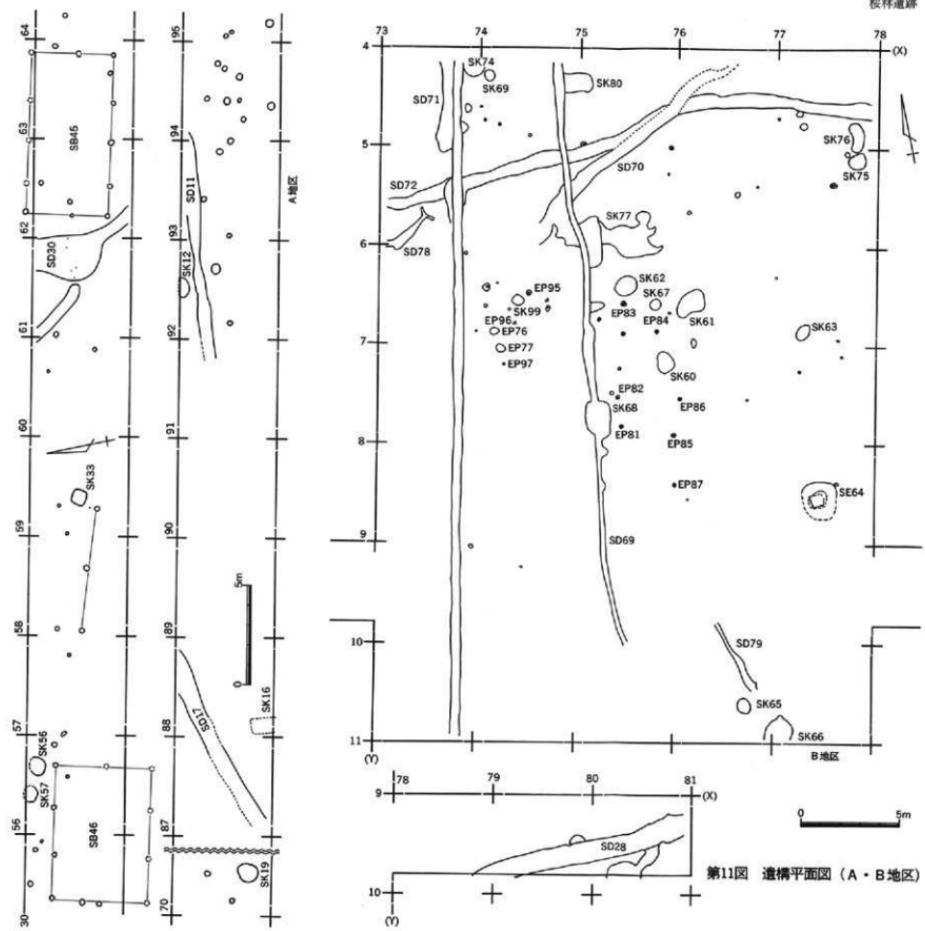
時期詳細は、不明である。

S B 100柱列（第14図 図版20）

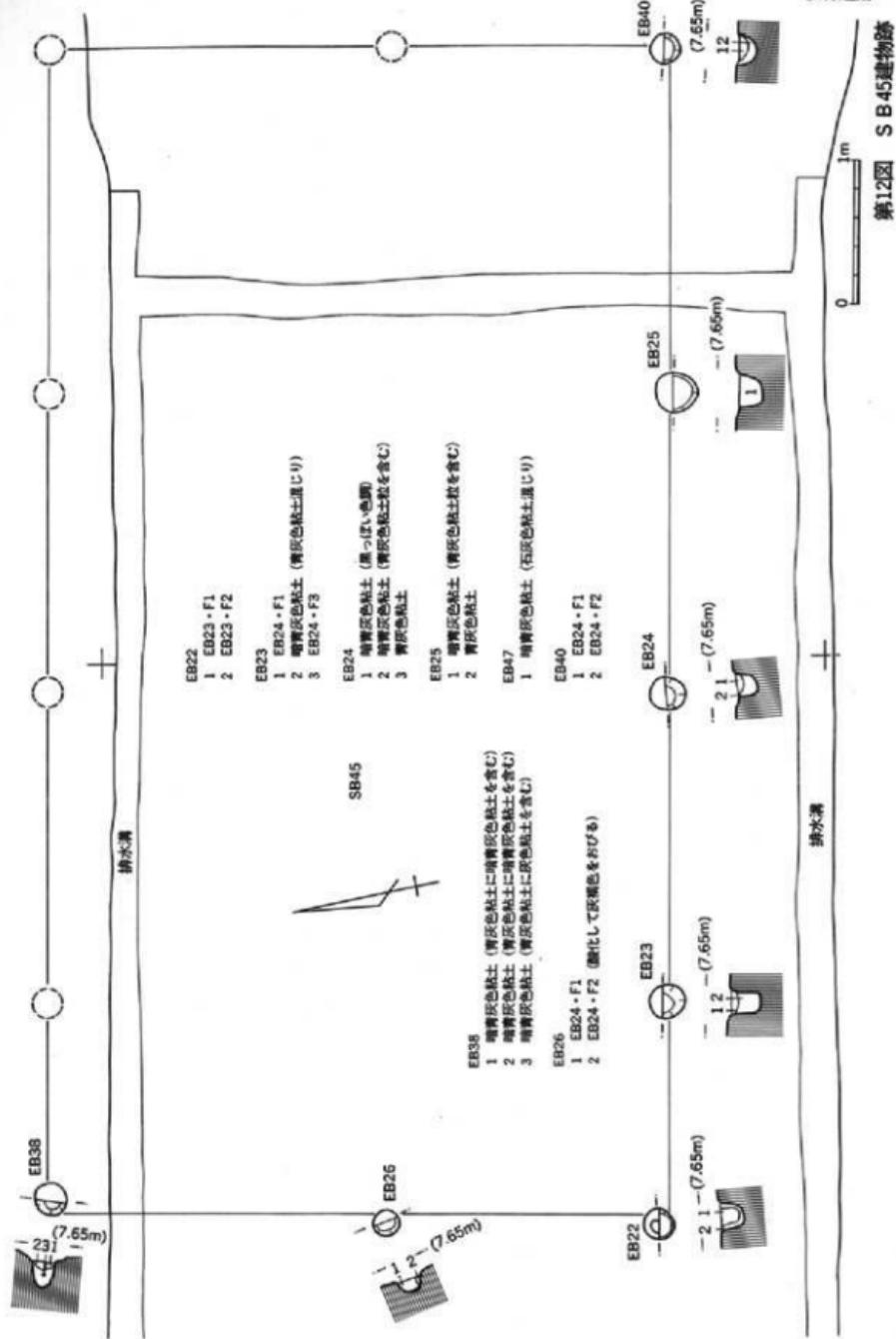
A地区、S B 45と46の間58・59-30Gのほぼ中央付近に位置する。柱は東西に3本みとめられ、2間以上の建物跡の一部でもあることも考えられるが、直交する柱並びが確認できず、トレンチ幅の中ということも考慮に入れて、柱列跡とした。



第10図 調査区全体図



第11図 造構平面図 (A + B地区)



柱間距離は、300・330cm(10・11尺)と長めで、建物跡を想定した場合の方向は、N-18°-Eを測る。柱の直径は13~28cm、深さは12cmである。壁は、ほぼ垂直に立上る。覆土は1層で、出土土器は未検出である。

位置関係から、S B45・46に関連する同時存在の遺構であることが推定されるが、時期詳細は不明である。

S E 64井戸跡 (第16図 図版24・25・37~42)

B地区中央東側、77-8Gに位置する。最初井戸枠内の覆土のプランがみとめられ、土壤と考えたが、覆土を半載して掘り下げる途中で縦板の一部が出土した井戸跡であることが明らかになった。そこで当初のプランの周囲を再度面精査した結果、楕円形の掘り方が検出され、覆土精査は、半載面を東西に延長して行った。

井戸枠の大きさは、東西70cm・南北80cmを測る。縦板を方形に並べ、隅を杭(図版38・40~42)で押える構造である。横桟は未検出であるが、木杭側面に四角ないしV字形の割り込み(図版40・41)があり、元々止めてあったものと思われる。土圧のためか枠全体が北側に傾斜し、縦板の下端よりも掘り方上面が内側に入り込んでいる。底面には方形を呈する曲物が置かれ、水を浸透させるためか曲物側面に孔(図版37)を連続させている。またその屈曲部は、方形に挑める際によるものか四隅とも割れが生じている。

出土土器は、土師器・須恵器(第21図28)・赤焼土器で、時期は平安時代の所産である。

土 壤(第15~18図 図版20~30) A地区6基・B地区14基を数える。平面形・大きさ・深さ・断面形態により5類に分けられる。

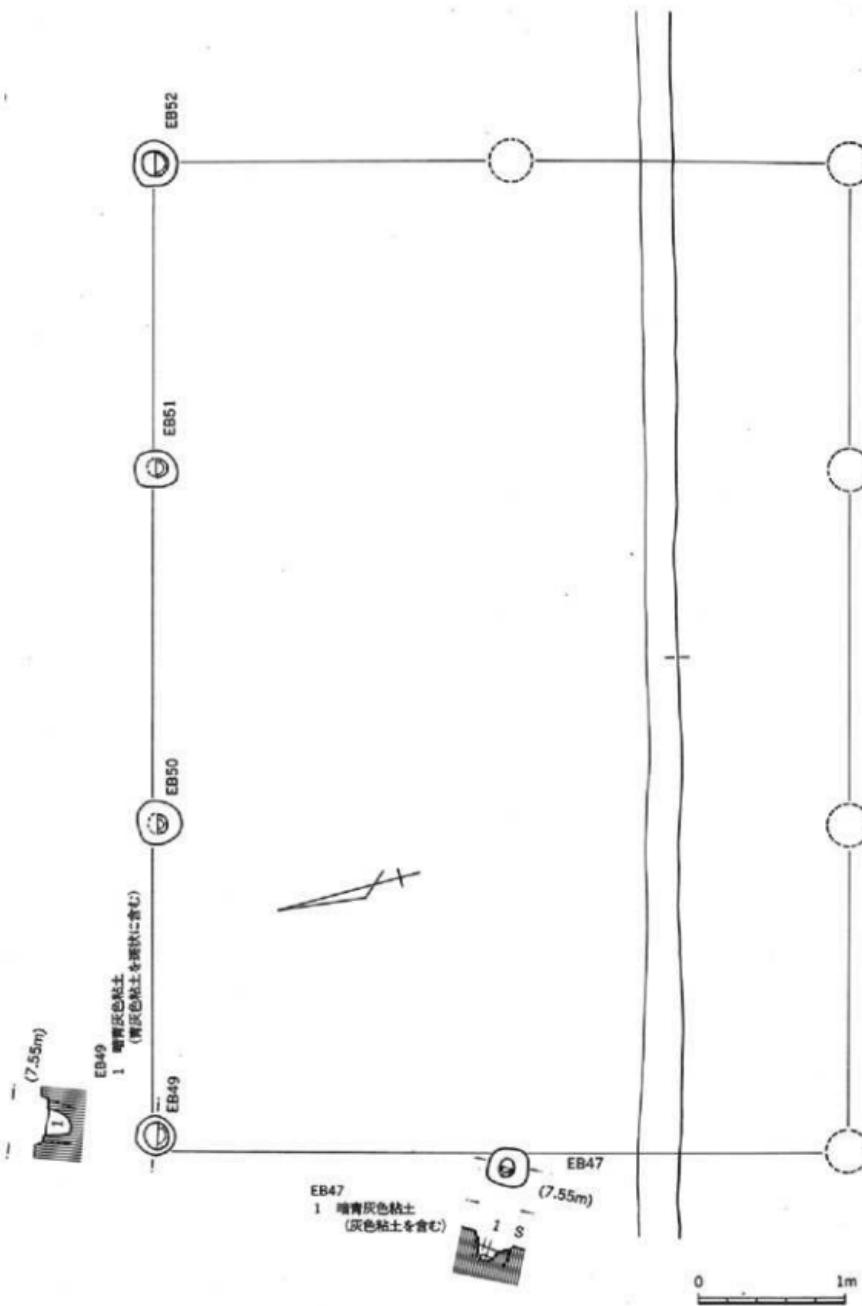
A類: (SK67・69・99) 平面形は円形・楕円形で径50cm前後の中形のもの。深さは30cm前後で、断面形態が台形を呈するもの。その大きさから柱穴に近いグループであるが、連続する並びは確認できなかった。出土土器は未検出で、時期詳細は不明である。

B類: (SK12・60~63・65・74~76・80) 平面形は円形・楕円形及び不整形でA類よりも大形である。深さは10~40cm程で断面形態は、A類に類似する。出土土器が確認できたのは、SK60~62・74で時期は平安時代である。

C類: (SK19・33・56・57) 平面形は略楕円形・方形で、深さ50cm以上と深く、壁面はほぼ垂直に掘り込まれ断面円筒形を呈する。出土遺物は、SK19から中世陶器(図版35~68)、SK57から箸がそれぞれ出土した。時期が把握できるのはSK19のみであるが、分布位置や覆土内容等からSK33・56・57についても中世の所産と推定する。

D類: (SK16・66・68) 平面形は楕円形で、大形のプランである。深さは、10~30cmとやや浅い。壁面は、急傾斜(SK16・68)と緩やか(SK66)である。SK16

第13図 S.B46遺物跡



は、底面に板材が敷きつめられ、SK66・68は骨（獸骨？）が出土した。また、SK68では寛永通寶が出土した。そのためSK66・68については、その共通内容から新しい時期（江戸時代以降）のものと考えられる。SK16の時期は、不明である。

E類：（SK77）不整形を呈し、底面も起伏を呈する。北側については、土壤との重複が考えられるが断面では確認できなかった。確認径は2mを越え、大形である。
出土土器は、須恵器・赤焼土器で平安時代の所産である。

表一4 遺構計測表

| 番号 | 地区名・層 基底×最深 | 幅 (cm) | 高さ (cm) | 壁 | 内 考 | 番号 | 地区名・層 基底×最深 | 幅 (cm) | 高さ (cm) | 壁 | 内 考 |
|------|----------------|------------|------------|---------------|----------|------|-------------------|-----------|------------|-----------------|--------------|
| EB22 | 62-30-III | 22×20 | 16 | ほぼ垂直 | S B45 | SK61 | 76-6-III | 160×102 | 20 | 急傾斜 | |
| EB23 | 62-30-III | 26×24 | 21 | ほぼ垂直 | S B45 | SK62 | 75-6-III | 120×82 | 39 | 西側傾斜やか 東側急傾斜 | |
| EB24 | 62-30-III | 25×22 | 19 | ほぼ垂直 | S B45 | SK63 | 77-6-III | 88×54 | 11 | 急傾斜 | |
| EB25 | 62-30-III | 31×28 | 16 | 西側垂直 東側急傾斜 | S B45 | SK65 | 76-10-III | 70×67 | 11 | 緩やか | |
| EB26 | 63-30-III | 19×19 | 10 | 急傾斜 | S B45 | SK66 | 76-27- 10-III | 131×(114) | 15 | 緩やか | 骨片 |
| EB25 | 58-30-III | 16×13 | 12 | ほぼ垂直 | S B100柱列 | SK67 | 75-5-III | 59×46 | 25 | 西側傾斜やか 東側急傾斜 | |
| EB26 | 58-30-III | (20)×19 | 12 | ほぼ垂直 | S B100柱列 | SK68 | 75-7-III | 203×130 | 11 | 急傾斜 | 骨・寛永通寶 |
| EB28 | 62-29-III | 24×22 | 18 | ほぼ垂直 | S B45 | SK69 | 74-4-III | 58×49 | 24 | 急傾斜 | |
| EB40 | 62-30-III | 22×22 | 12 | 急傾斜 | S B45 | SK74 | 73-4-III | 105×(67) | 19 | 急傾斜 | |
| EB47 | 55-30-III | 35×26 | 9 | ほぼ垂直 | S B46 | SK75 | 77-5-III | 88×73 | 36 | 急傾斜 | |
| EB49 | 55-30-III | 28×27 | 16 | 急傾斜 | S B46 | SK76 | 77-4-III | 152×76 | 18 | 北側傾斜やか 南側急傾斜 | |
| EB50 | 55-30-III | 32×30 | 12 | ほぼ垂直 | S B46 | SK77 | 75-5-6-III | (290)×140 | 21 | 北側傾斜やか 南側急傾斜 | P R 9 |
| EB51 | 56-30-III | 30×26 | 15 | ほぼ垂直 | S B46 | SK80 | 74-75- 4-III | 125×86 | 16 | 急傾斜 | |
| EB52 | 56-30-III | 32×30 | 16 | ほぼ垂直 | S B46 | SK99 | 74-6-III | 61×54 | 36 | 急傾斜 | |
| EB59 | 59-30-III | 28×24 | 不明 | | S B100柱列 | SD11 | 92- 30-III | 幅72-28 | 4 | | |
| EP76 | 74-6-III | 45×43 | 37 | 西側急傾斜 東側垂直 | | SD17 | 87- 30-III | 幅52 | 30 | ほぼ垂直 | |
| EP77 | 74-5-III | 50×42 | 36 | 急傾斜 | | SD28 | 78- 9-III | 幅123-~93 | 12 | ほぼ垂直 | |
| EP95 | 74-6-III | 44×36 | 13 | ほぼ垂直 | | SD30 | 61-65- 30-III | 幅52-~228 | 29 | 緩やか | |
| EP96 | 74-6-III | 32×27 | 29 | ほぼ垂直 | | SD69 | 74-75-4- 9-III | 幅45-~16 | 8 | 東側ほぼ垂直 西側急傾斜 | |
| SK12 | 92-30-III | (120)×(52) | 20 | 緩やか | | SD70 | 74-77- 4-5-III | 幅47-~78 | 8 | | |
| SK16 | 88-30-III | (190)×104 | 30 | 急傾斜 | | SD71 | 73-4- 10-III | 幅76-~48 | 8 | 緩やか | |
| SK19 | 70-30-III | 105×92 | 66 | ほぼ垂直 | | SD72 | 73-18- 4-5-III | 幅55-~40 | 17 ~26 | | 遺物第19回 記載 |
| SK33 | 59-30-III | 68×65 | 91 | 西側垂直 東側急傾斜 | | SD78 | 73-5-III | 幅(40) | 11 ~5 | 緩やか | |
| SK56 | 56-30-III | 92×76 | 76 | ほぼ垂直 | | SD79 | 74-9- 10-III | 幅24-~18 | 22 | 急傾斜 | |
| SK57 | 56-30-III | 84×(80) | 50 | ほぼ垂直 | | SD80 | 60-61- 30-III | 幅59-~56 | 12 | 緩やか | |
| SK60 | 75-7-III | 125×77 | 34 | 急傾斜 | | SE64 | 77-8-III | 196×153 | (160) | 西側急傾斜 あり | |

* () 内数値は、部分確認及び推計値を示す。

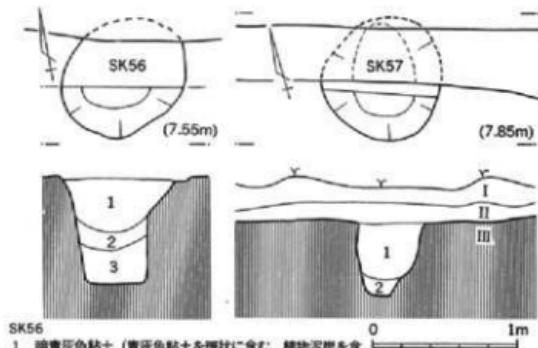
溝跡 (第19図・20図 図版26~29)

全体については、不明である。特にA地区は、トレンチ幅の部分確認でその広がりについては未検出である。

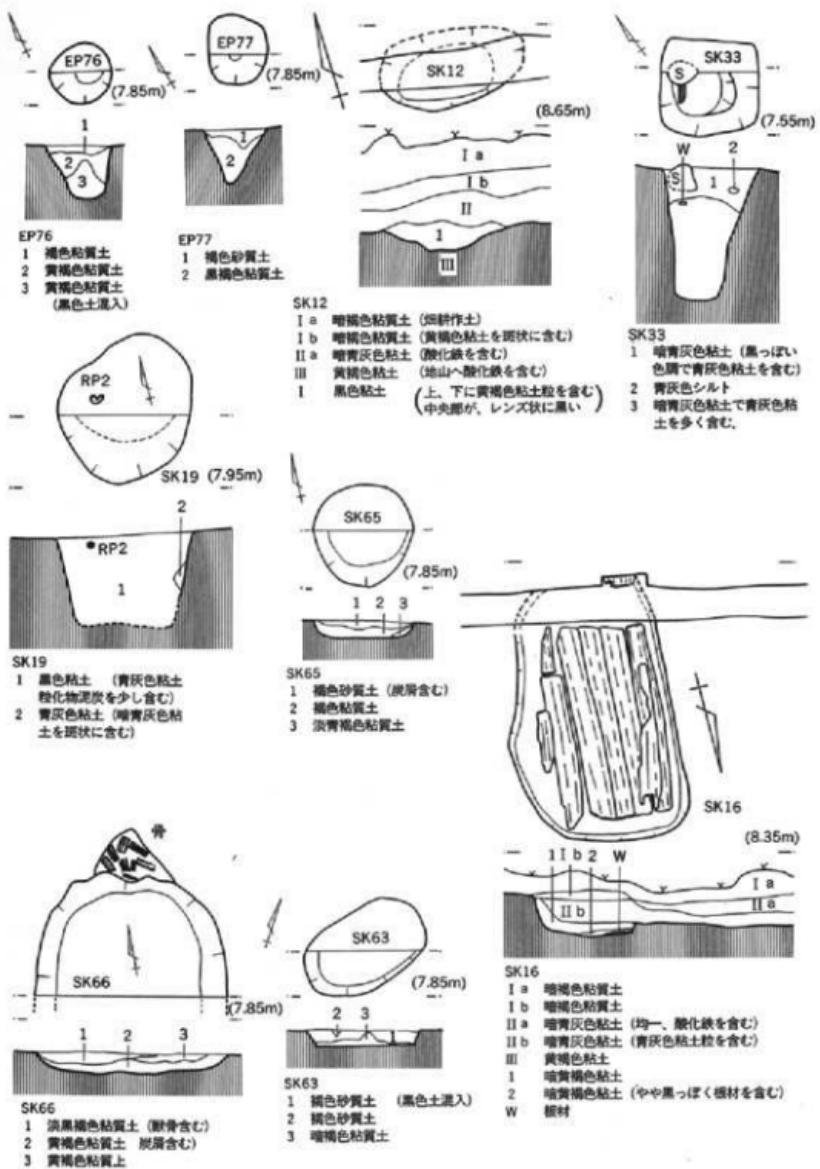
A地区では、SD11・17・30・101が確認できた。深さはSD17・30以外は浅い。SD30は途中で幅が大きくふくらみ一定でない。内部に杭を伴い覆土からは古鏡が出土した。掘り込み面もIIa層からであり、比較的新しい時期のものであることが考えられる。他は出土土器が未検出で、時期詳細は不明である。

B地区では、SD28・69・70~72・78・79が確認できた。重複構造では、SD72→SD70→SD69→SK68の前後関係が考えられる。深さは、SD72・79以外は浅い。

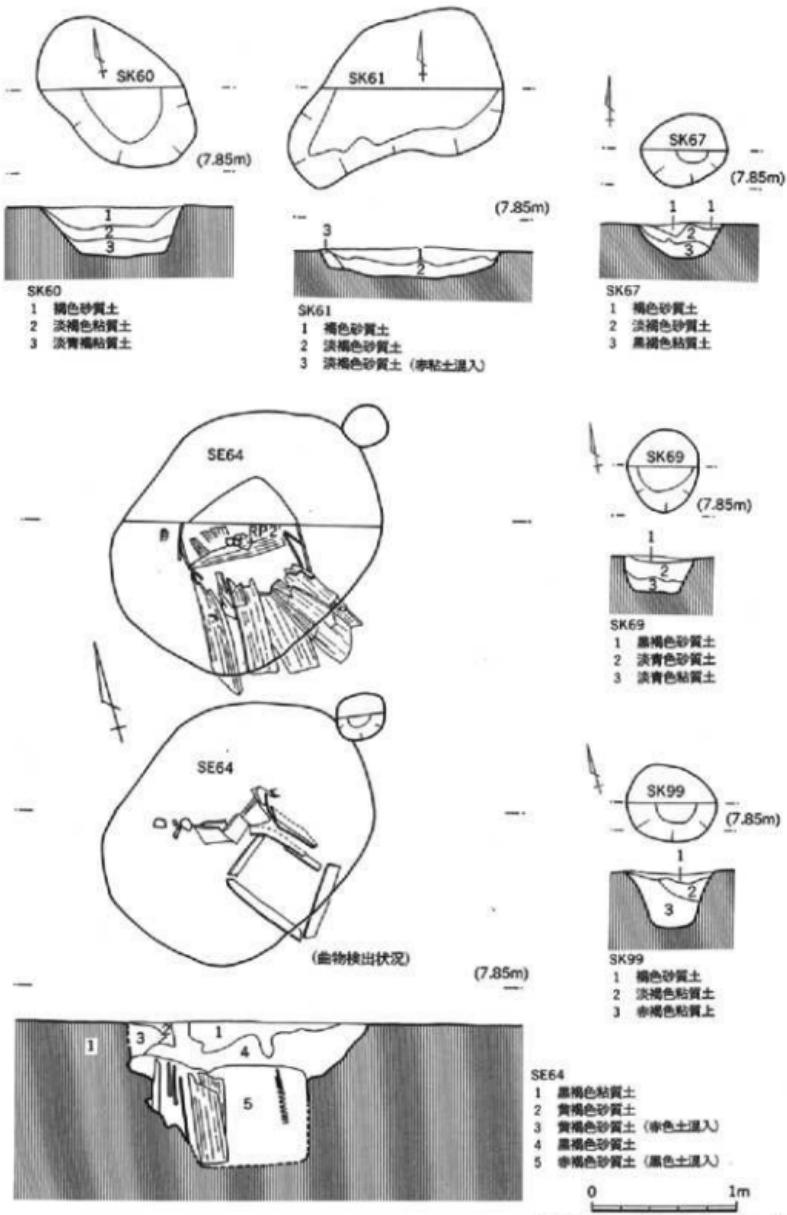
出土土器は、SD72・79からのみである。SD72はまとまった一括土器が出土し、須恵器が大部分で土師器・赤焼土器を少し含む。時期は、両方とも平安時代の所産と思われるが、SD72は古い様相をもつ。



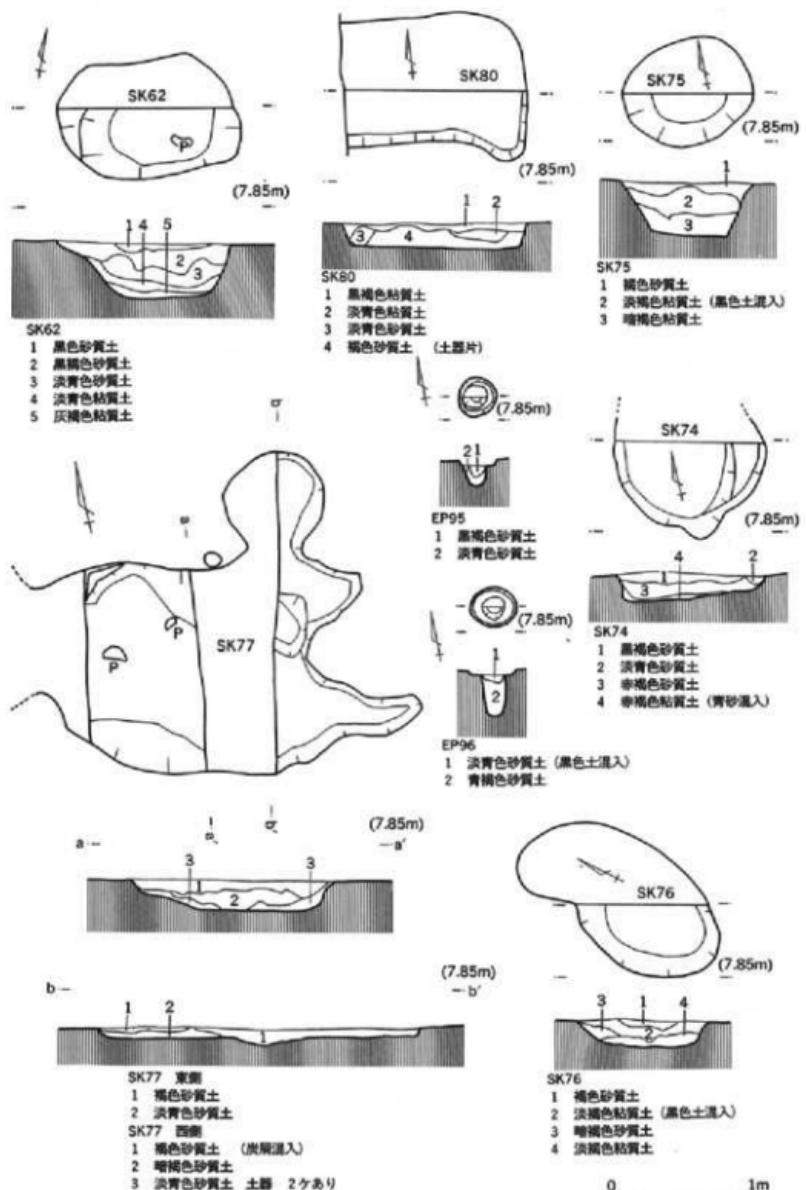
第15図 土壌 (1)



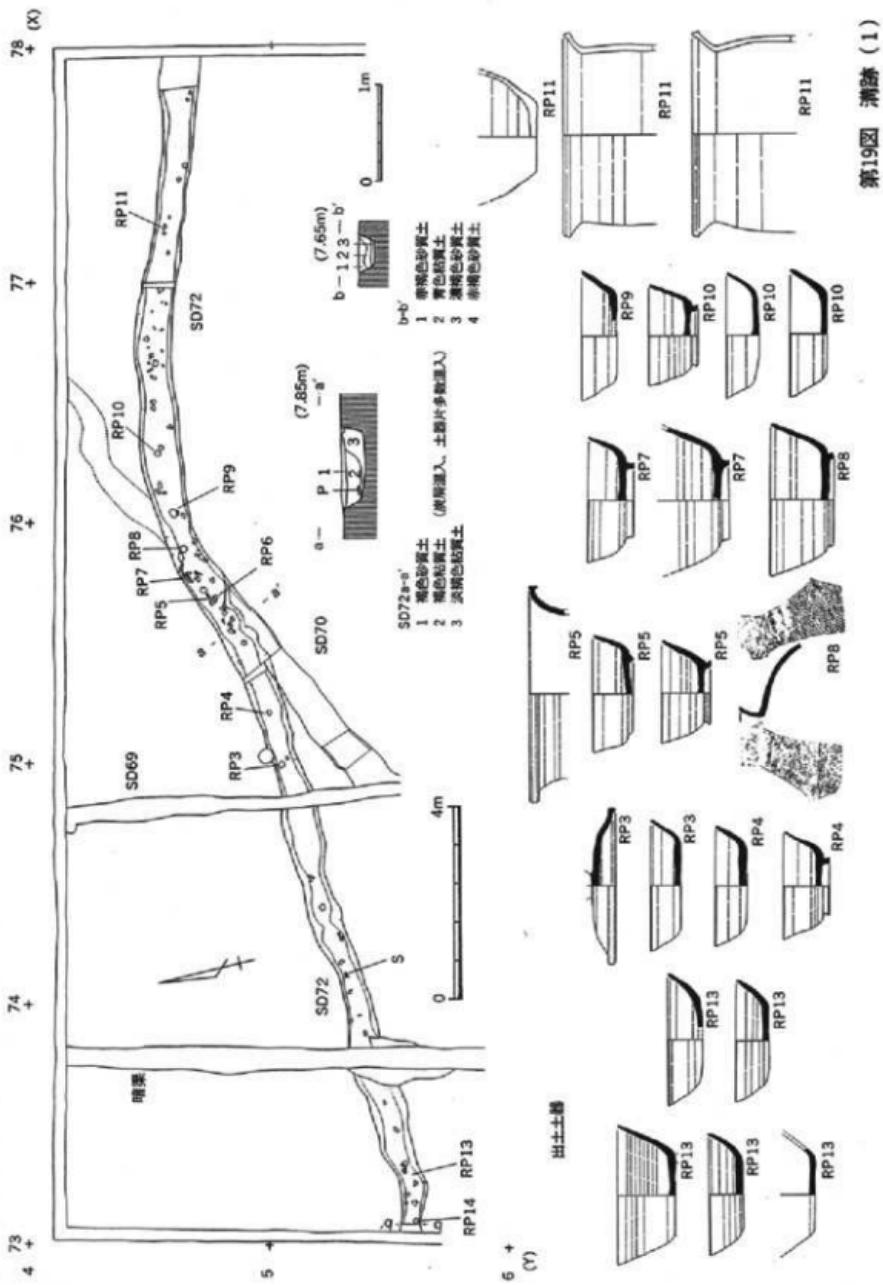
第16図 土壌 (2)

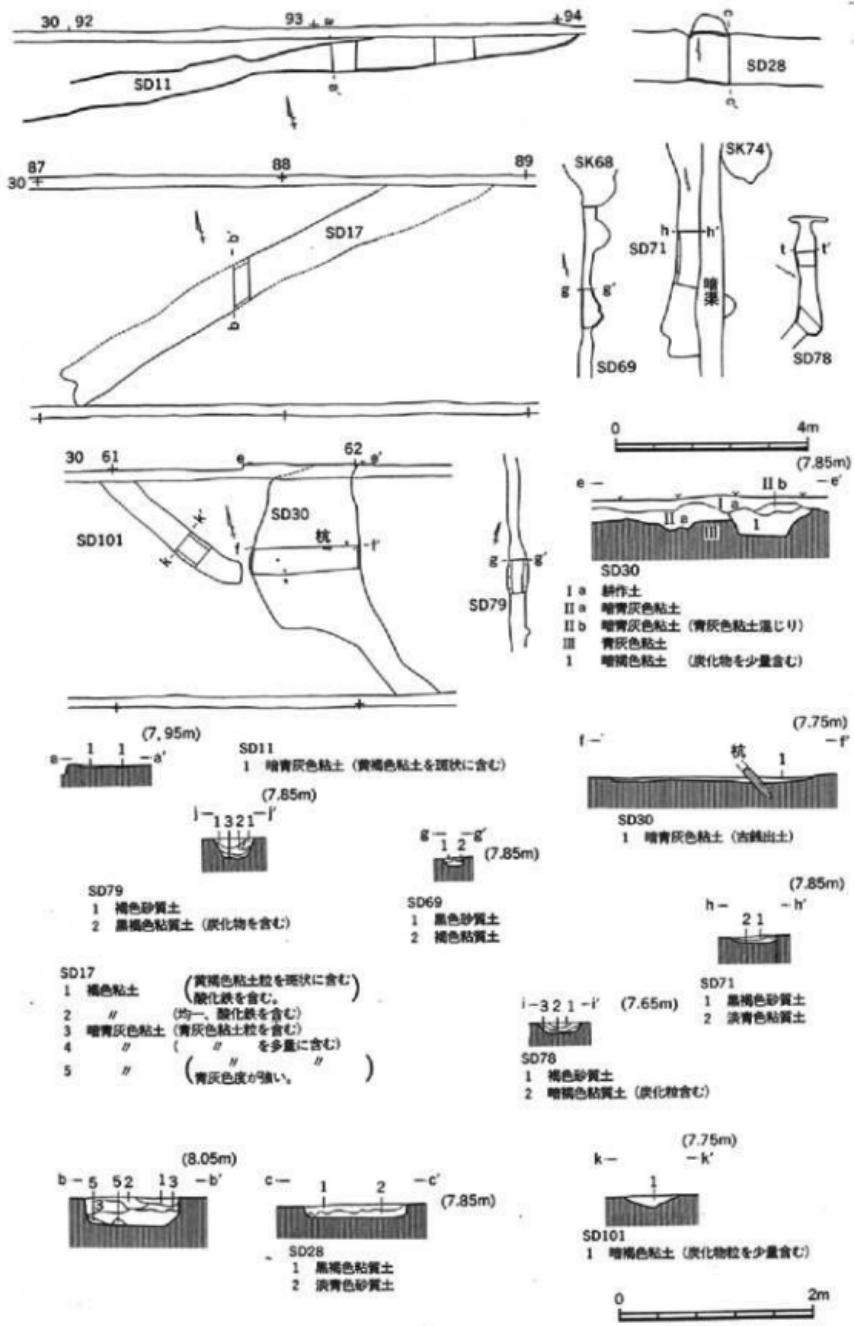


第17図 土壤(3)・井戸跡



第18図 土壌 (4)





出土土器・陶磁器・土・石製品 (第21~23図 表-5 図版30~36)

出土総数約2,580点を数え、中でも須恵器が56%・赤焼土器が38%の割合で大半を占める。出土位置は、B地区が多く特にSD72覆土内にまとまり、しかも一括土器である。

土師器は、内面黒色処理の壺・甕の器種がある。数量は約0.5%と少なくほとんど小片である。甕 (第21図16 図版32~45) は丸味を呈する肩部から緩やかに外反する。頸部はヨコナデを行い、体部との境に若干稜をもつ。体部は、ナデを加える。他にハケ目をもつもののみと認められる。

須恵器は、壺・高台付壺・蓋・甕・壺・横瓶の器種がある。壺 (A)・高台付壺 (B) については、形態・製作技法により分類を行う。

A 1 類：体部から直線的に立上り、底部回転ヘラ切り離りを行うもの (第21図1・2・4・6~8・11~15・17・19 図版30-1・2・4・6~8・11~15・17・18)

A 2 類：体部から口縁に少し外反して開くもの。切り離りは、A 1 類と同じである (第21図5・9・16 図版30-5・9・16)

A 3 類：底径が6cmと小さく、回転糸切り離りを行うもの (第21図10 図版30-10)。

B 1 類：口径に比して器高が高い土器である。高台は、腰部から若干内側に付き、やや外側に張り出す。体部は、少し外反気味に開き器面に細いロクロ目をもつ (第22図1・2 図版31-19・20)

B 2 類：B 1 類に比べて体部が直線的に開くもの (第22図3・4 図版31~21・22)。

B 3 類：B 2 類に大形の土器である (第22図10~13 図版31-28~32)。

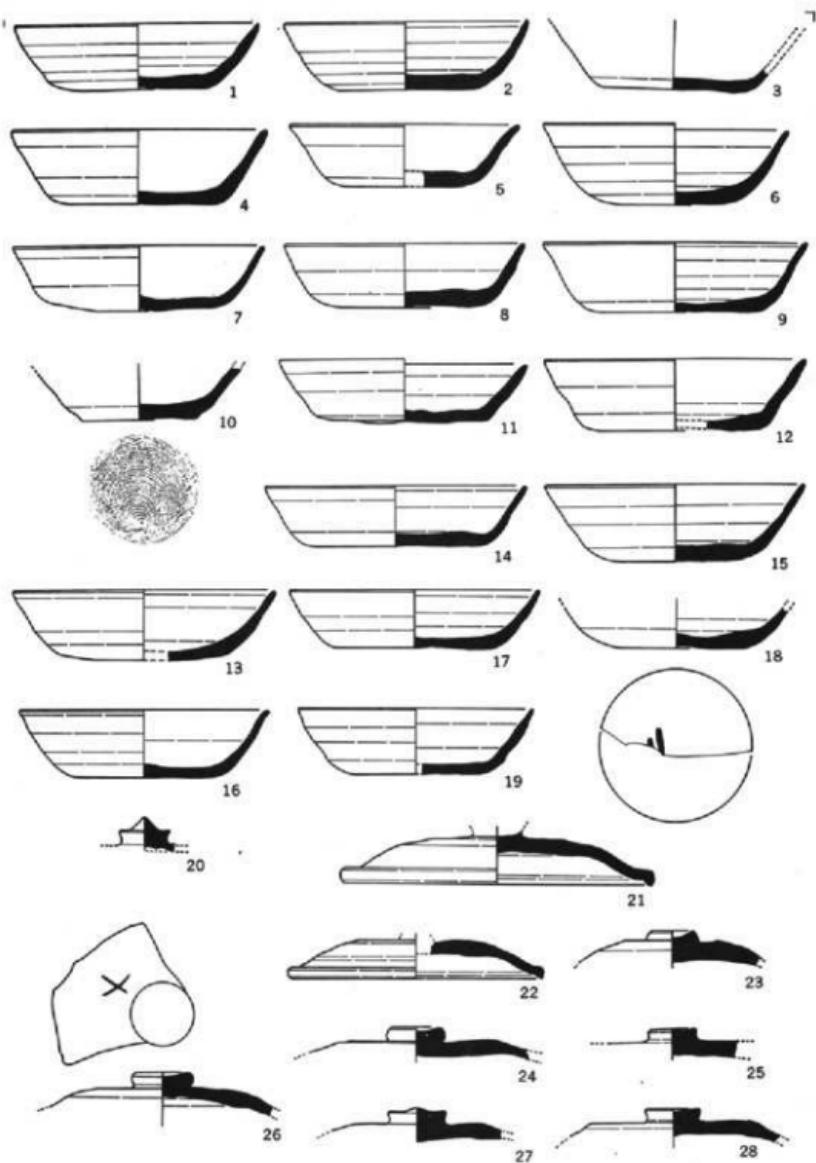
B 4 類：口径に比して器高が低い土器である。高台は、6が少し低いがほぼB 1~3 類に共通する (第22図5・6・8・9 図版31-23・24・26・27)。

蓋は、つまみの特徴により擬宝珠様 (第21図20~27 図版32-34・41) と偏平なもの (同23~26・28 図版32-33・35~37・42) に分けられる。肩部は強く張り、端部は丸味を呈する (同21・22 図版32-38)。

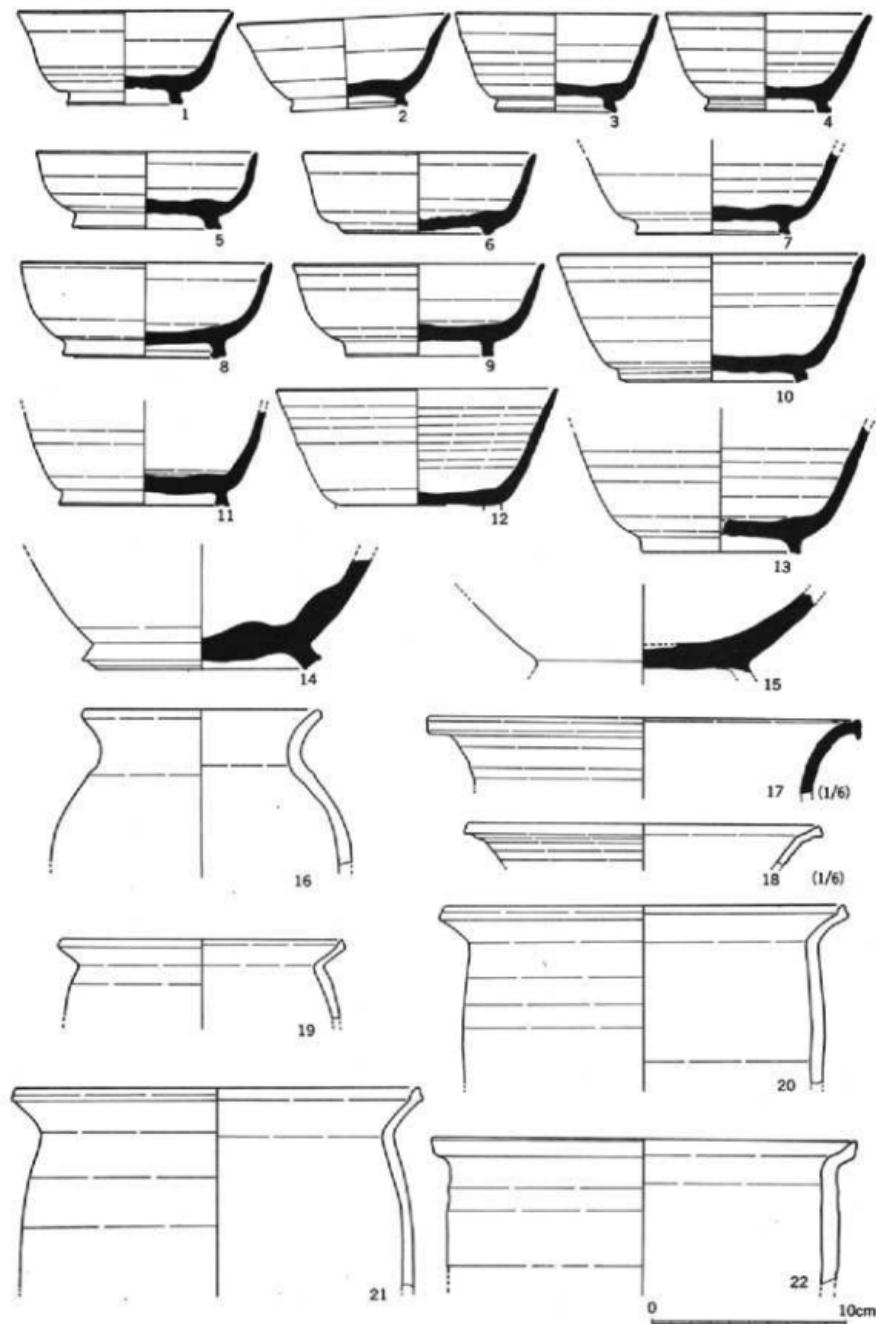
壺は、破片のみである。肩部は強く張るもの (第23図23・25・27 図版35-68・69・71) の字形に傾斜するもの (同24 同35-71) がある。底部は、高台が強く踏むばる形を呈する (同14・15 図版31-31 図版34-63)。

甕は、口縁が大きく外反し端部で上下に肥厚するもの (第22図17 図版34-58) と直立気味に外反し端部の肥厚が顕著でないもの (第23図30 図版35-66) がある。外面は平行叩き、内面は青海波のアテを行う (同29~33 図版33-49~57 図版34-58~65)。

横瓶 (第23図28 図版35-73) は、全形は不明であるが、外面に平行叩き及びカキ目、内面に青海波を行い、特に閉塞部外面はカキ目を行い丁寧に仕上げている。



第21図 遺物実測図 (1)



赤焼土器は、壺・堀・甕の器種がある。堀は、頸部でくの字形に外反し、端部が若干厚手に仕上げられその外縁は少し内傾する(第22図18 図版32-46)。甕は、長胴で頸部がくの字形に大きく外反し、端部がくびれて上方に引き出されるもので、体部上半がロクロ成形下半が内外面に叩きを行う(第22図20~22 第23図34~37 図版32-43~45・47・18)。底部は、丸底と考えられる。小形のものは、ロクロ成形・平底で静止糸切りによるものもみとめられる(第23図26 図版35-70)。

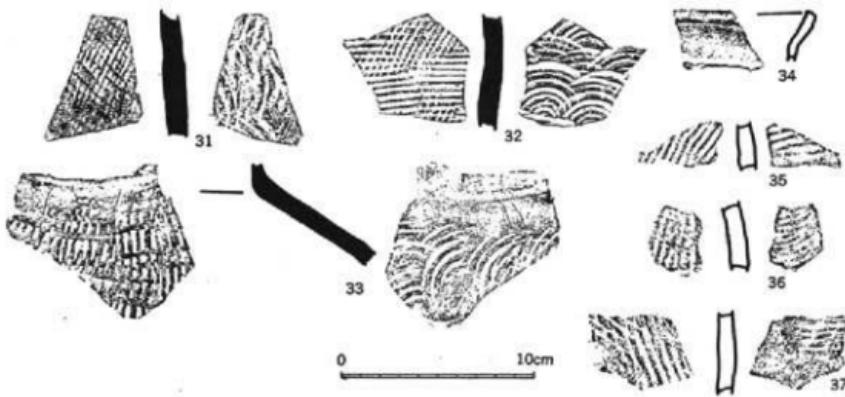
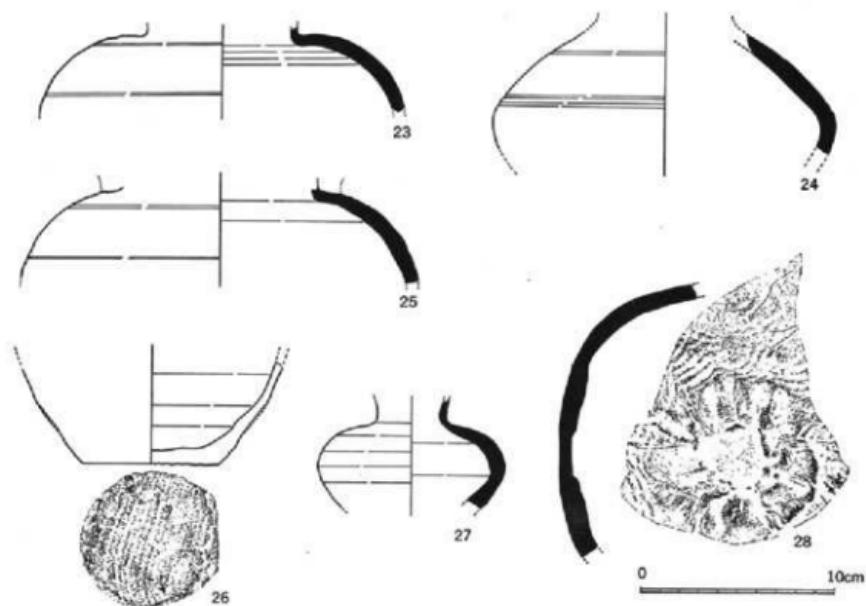
陶磁器は、6%と少ない。須恵器系の擂鉢・甕(図版35-74・75)、青磁香炉(図版36-77)、青白磁皿(同一78・80)、染付の陶器皿・碗(同一79・81・82)である。

土・石製品は、鉛の上半部と砥石片である。鉛は、長さ32mm・径27mm・重量9g・孔5mm(図版36-76)、砥石は、板状で長さ55mm・幅45mm・厚さ17mm・重量57.4gを測る。

表-5 土器計測表

| 件名 | 目次号 | 種別 | 器種 | 出土位置 | 寸法 | | | 備考 |
|-------------|-----|----|----------|---------|------|----------|-------|------------|
| | | | | | 口 | 底 | 高 | |
| 22-16 32-45 | 土器類 | 甕 | 70-4-5-1 | (123) | | (80) | | |
| 21-1 30-1 | 須恵器 | 壺 | SD-72-F | (126) | 80 | 35 | R P13 | |
| 21-2 30-2 | # | # | SD-72-F | (127.5) | 76 | 35 | R P13 | |
| 21-3 30-3 | # | # | SD-72-F | # | 73 | (12) | R P13 | |
| 21-4 30-4 | # | # | SD-72-F | (132) | (90) | 39 | | |
| 21-5 30-5 | # | # | SD-72-F | (119) | (66) | 33 | R P10 | |
| 21-6 30-6 | # | # | SD-72-F | 127 | 72 | 42.5 | | |
| 21-7 30-7 | # | # | SD-72-F | (130) | 95 | 34 | R P 6 | |
| 21-8 30-8 | # | # | SD-72-F | (124) | (80) | 33 | R P10 | |
| 21-9 30-9 | # | # | SK77-F | (136) | (88) | 31 | R P 9 | |
| 21-10 30-10 | # | # | B地区-1 | | 60 | (30) | | |
| 21-11 30-11 | # | # | 75-7-4-1 | (128) | (90) | 33 | | |
| 21-12 30-12 | # | # | SD-72-F | 135 | (90) | 37 | | |
| 21-13 30-13 | # | # | SD-72-F | (130) | (83) | 36 | | |
| 21-14 30-14 | # | # | X-0 | (131) | 91 | 31 | | |
| 21-15 30-15 | # | # | 74-5-II | (133.5) | 72 | 40 | | |
| 21-16 30-16 | # | # | 74-5-II | (129) | 82 | 35 | | |
| 21-17 30-17 | # | # | 74-5-II | 129 | 84 | 30 | | |
| 21-18 | # | # | X-0 | (80) | (21) | 高さ 二分 | | |
| 21-19 30-18 | # | # | SD-72-F | (121.5) | (70) | 34 | | |
| 22-1 31-19 | 高台 | 甕 | SD-72-F | 112 | 60 | 48 | | |
| 22-2 31-20 | # | # | SD-72-F | 110 | 60 | 47 | | |
| 22-3 31-21 | # | # | SD-72-F | (105) | 64 | 51.5 | | |
| 22-4 31-22 | # | # | SD-72-F | 106.5 | 67 | 51 | | |
| 22-5 31-23 | # | # | SD-72-F | 114 | 76.5 | 40 | | |
| 22-6 31-24 | # | # | SD-72-F | 121 | 78 | 41.5 | | |
| 22-7 31-25 | # | # | 74-4-1 | | 80 | (42) | | |
| 22-8 31-26 | # | # | 77-7-1 | 132 | 84 | 49 | | |
| 22-9 31-27 | 須恵器 | 高台 | SD-72-F | 130 | 71 | 48 | R P 7 | |
| 22-10 31-28 | # | # | 75-4-II | 158 | 97 | | R P 8 | |
| 22-11 31-29 | # | # | B地区-1 | | 88 | (48) | | |
| 22-12 31-30 | # | # | SD-72-F | 140 | (86) | (60) | R P13 | |
| 22-13 31-32 | # | # | SD-72-F | | 82 | (65) | R P 7 | |
| 22-14 31-31 | # | # | 甕 | 74-10-1 | | 122 | (54) | R P 1 |
| 22-15 | # | # | A地区-1 | | | (111) | (40) | |
| 21-29 32-41 | # | # | B地区-1 | | | (28) | (18) | |
| 21-21 | # | # | SD-72-F | 160 | | | (27) | R P 3 |
| 21-22 32-38 | # | # | SD-70-F | (130) | | | (20) | |
| 21-23 32-55 | # | # | B地区-1 | | | (86) | (17) | |
| 21-24 32-36 | # | # | B地区-1下 | (112) | | | (14) | |
| 21-25 32-37 | # | # | B地区-1 | | | (65) | (13) | |
| 21-26 32-33 | # | # | B地区-1下 | | | (75) | (22) | ヘラ溝 各×印 |
| 21-27 32-34 | # | # | B地区-1 | | | (85) | (18) | |
| 21-28 32-42 | # | # | SE64-F | (104) | | | (14) | R P 2 |
| 22-17 34-58 | # | # | SD-72-F | (440) | | | (76) | R P 5 |
| 22-18 32-45 | 赤施 | 土器 | A地区-1 | | | (34) | | |
| 22-19 32-43 | # | # | SD-70-F | (145) | | | (40) | R P 11 |
| 22-20 32-48 | # | # | SD-72-F | (212) | | | (92) | R P 11 |
| 22-21 32-44 | # | # | SD-72-F | (213) | | | (103) | R P 11 |
| 22-22 32-47 | # | # | SD-72-F | (219) | | | (74) | |
| 23-23 35-68 | 須恵器 | 甕 | B地区-1 | | | (44) | (44) | 網形 白地輪 |
| 23-24 35-71 | # | # | A地区-1 | | | (177.5) | (60) | |
| 23-25 35-69 | # | # | A地区-1 | | | (205) | (40) | |
| 23-28 35-73 | # | # | 横瓶 | | | | | |
| 23-26 35-79 | 赤施 | 甕 | 76-4-1 | | | 72 | (52) | R P 11 |
| 23-27 35-72 | 須恵器 | 甕 | 76-4-1 | | | 97 | (35) | |

* () 内数字は、図上復元による推定値ないし残存値を示す。



V 西田遺跡

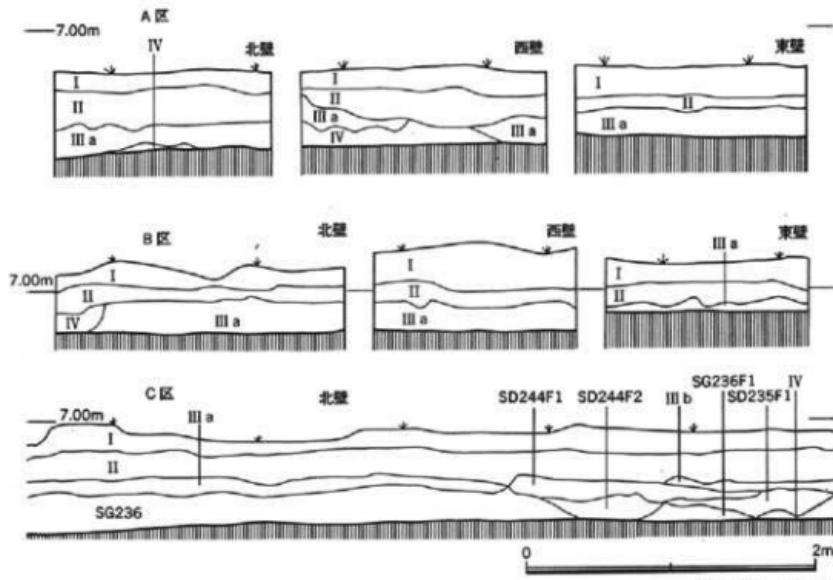
1 遺跡の層序

西田遺跡を覆う表土の土質は、主に微砂・粘質土・砂質土からなる沖積土壤であり、地下水位が高い事からグライ化が激しい。また試堀調査の結果から遺跡範囲北側や中央部は湿地化していたことがうかがえる。遺構検出面までの深さは、約20~30cmを測り、A~Cの各精査区ともほぼ同様の層序が確認された。なおA区の一部は、過去に行なわれた基盤整備のため削平を受けており、その場所の黒色土下約50cmからも土器の出土が見られた。第24図に掲載したのは、各精査区の一部である。土層注記は以下のようになる。

- I層：7.5Y R4/1 褐灰色微砂（耕作土）
- II層：7.5Y R2/1 黒色粘質土（炭化粒子微量含む）
- II'層：5B G3/1 暗青灰色砂質土（　　）
- III層：5 B G6/1 青灰色砂質土（遺構検出面）
- IV層：5 B G7/1 明青灰色砂質土

2 遺構と遺物の分布（第26~28図）

調査区であるA区(1200m²)、B区(190m²)、C区(490m²)の中では、A区及びB区で



第24図 層序図

比較的まとまった遺構の検出があった。遺物についても同様なことがうかがえる。検出された遺構は、掘立柱建物跡・土壙・ピット・溝跡・落ち込み等である。

A区では、掘立柱建物跡・土壙・ピット・溝跡・落ち込みが検出され、遺物の出土量も調査3区の中で最も多い。遺構は全体的に検出されたが、中でも南側に多く分布する傾向が見られる。北側については、以前に行なわれた基盤整備により一部削平を受けている。遺物については、須恵器がその大半を占め、次いで赤焼土器、土師器となる。土師器の出土量は極めて少ない。また遺構の在り方同様、南側に集中する傾向が見られる。

B区では、土壙・柱穴・溝跡が検出された。遺構検出面はA区より浅く、そのためか耕作時等において、削平を受けている可能性があり、遺構の堀り込みが浅いのはこのことに由来するものと考えられる。また遺構の配置にもばらつきが見られる。遺物の出土量は少ないが、A区同様須恵器が大半を占める。

C区では、土壙・ピット・溝跡・河川跡が検出された。この調査区は東西にトレンチを設定したことから、旧地形を伺い知ることができた。西側、つまりA区に近い所は、遺構検出面が浅く、少ないながら遺構も検出できた。中央部(20~30-22G)は深く、湿地化していて遺構の検出も見られない。東側のB区に近くなると再び浅くなり、遺構が検出される。これらのことから、谷地状の湿地に点在する微高地に遺跡が存在すると考えられる。遺物の出土量は極めて少ないが、その中でも2点のみ出土した弥生土器は、特筆されるとともに、近年調査された酒田市「生石2遺跡」同様、弥生時代の遺跡の存在を考える上で重要である。

3 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構数は、堀立柱建物跡1・柱例1・土壙12・ピット175・溝跡32・落ち込み1・河川跡1である。主なものは表-6の遺構計測表に記した。

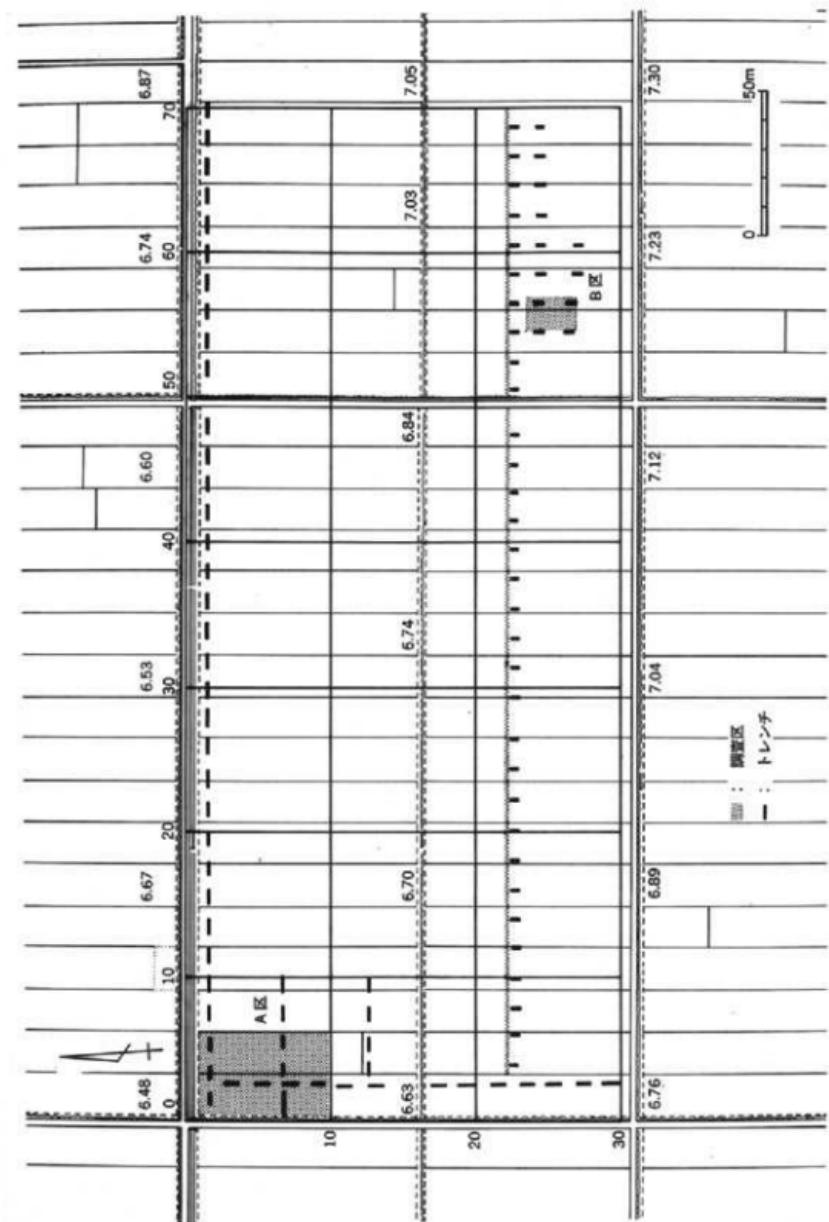
S B 200建物跡(第29図)

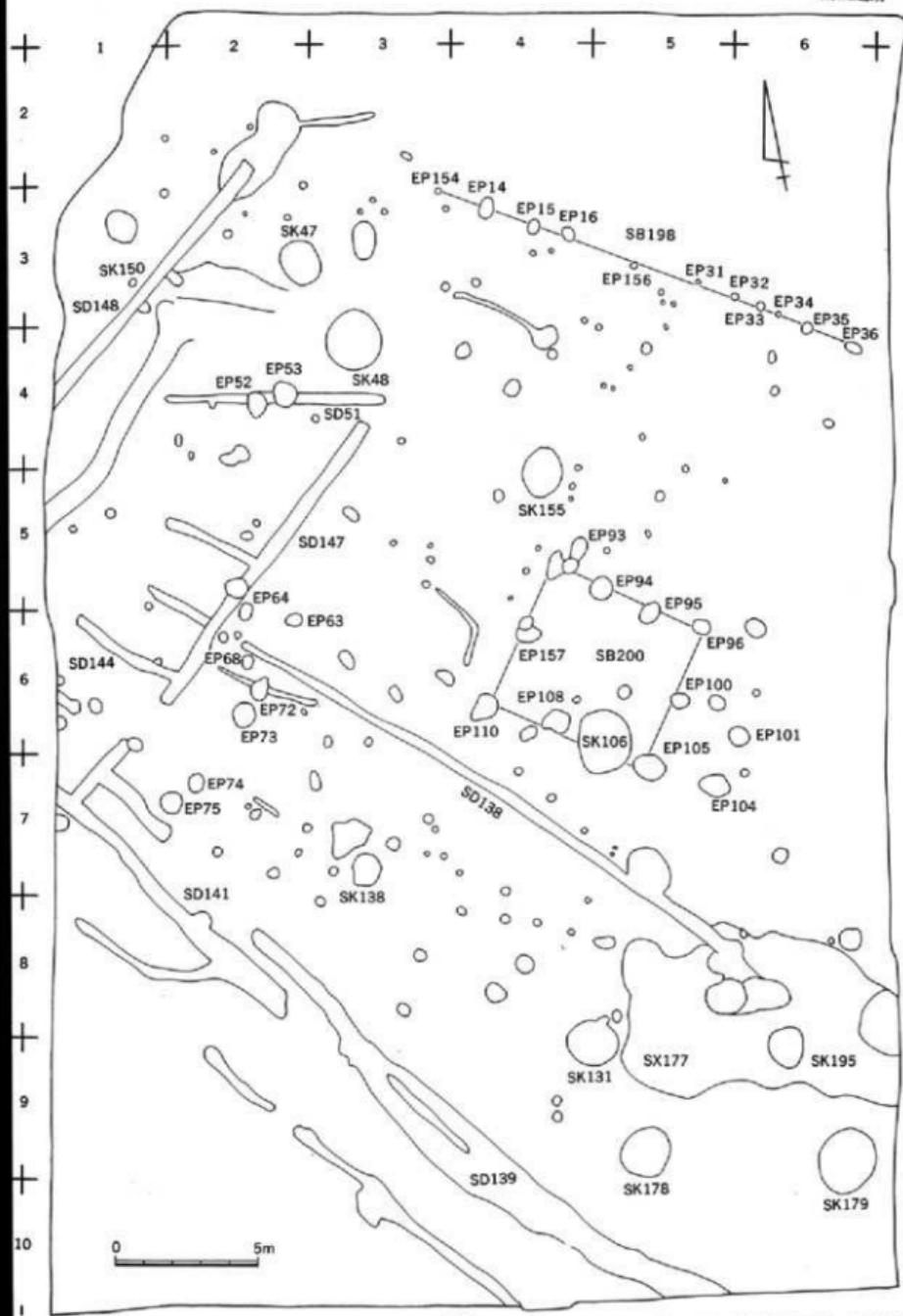
A区のほぼ中央に位置する、梁行2間・桁行3間の東西棟である。主軸は磁北から57度東へ傾く。柱間距離は、梁行2.7m(9尺)等間、桁行は一部未確認を除いては、概ね1.8m(6尺)を測る。柱穴堀り方は、長径50~104cm、短径56~88cmの隅丸方形ないし、不整形円形を呈する。

S B 198柱列

A区北側に位置する。計11の柱穴からなり、S B 200建物跡の東西面とほぼ平行する。柱間距離は80~240cmで、柱穴堀り方は20~80cmの円形及び楕円形でいづれもばらつきが見られる。

第25図 調査区全体図





S K 131土壤 (第30図)

A区4—8グリッドに位置する。平面形は、一部張り出しを持つ橢円形を呈する。覆土は2層からなり、自然堆積による。完形を含むヘラ切りの須恵器杯と赤焼土器の壺が出土している。

S K 150土壤 (第31図)

A区1—3グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、覆土は1層からなる。赤焼土器のみの出土が見られ、器種は壺と壺がある。

S K 195土壤 (第32図)

A区6—8グリッドに位置する。この土壤は、S X177落ち込みの下層にあり、S X177を掘り下げた結果、確認されたものである。平面形は隅丸方形を呈し、覆土は4層の自然堆積からなる。完形を含むヘラ切りの須恵器壺・高台付壺・壺が出土している。

S K 48土壤 (第33図)

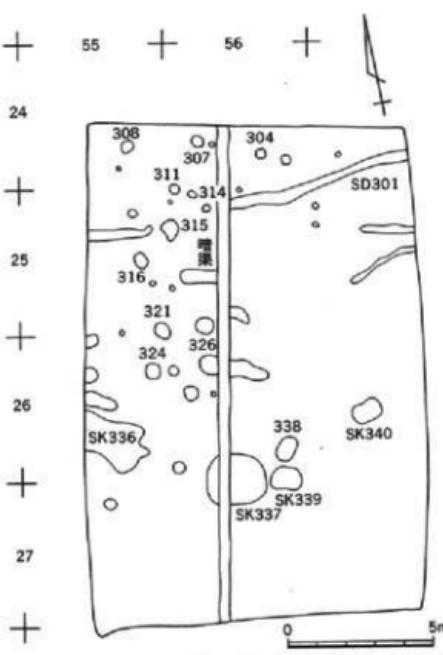
A区3—4グリッドに位置する。平面形は円形、覆土は1層からなる。須恵器壺・赤焼土器壺が出土している。

S K 337土壤 (第34図)

B区56—27グリッドに位置する。平面形は隅丸の方形を呈する。深さは12cmと浅く、遺構面の削平を受けている可能性も考えられる。この土壤をはじめ、B区の遺構はいづれも浅く、遺構内からの出土遺物もほとんど見られない。

S D 138溝跡 (第35図)

A区ほぼ中央に位置する。北西から南東に走る溝である。S B198柱列・S B200建物跡と平行する。その南東端はS X177落ち込みにあたる。新旧関係は、遺構の切り合いかからS D 138→S X177と考えられる。断面形はU字形を呈し、覆土は1層からなる。出土遺物はない。



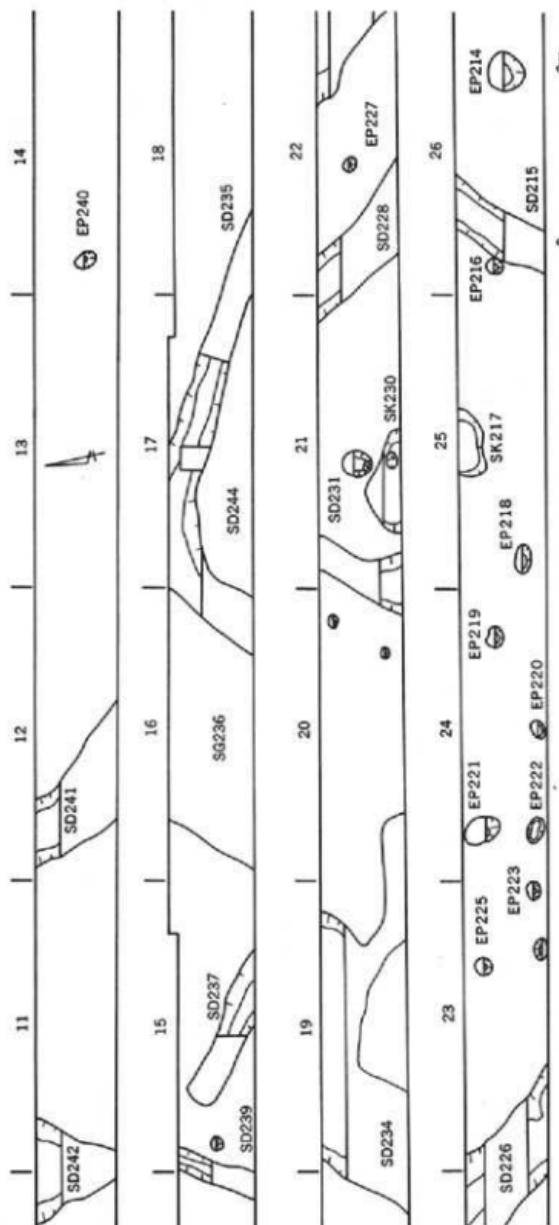
第27図 遺構配置図 (B区)

SD139溝跡（35図）

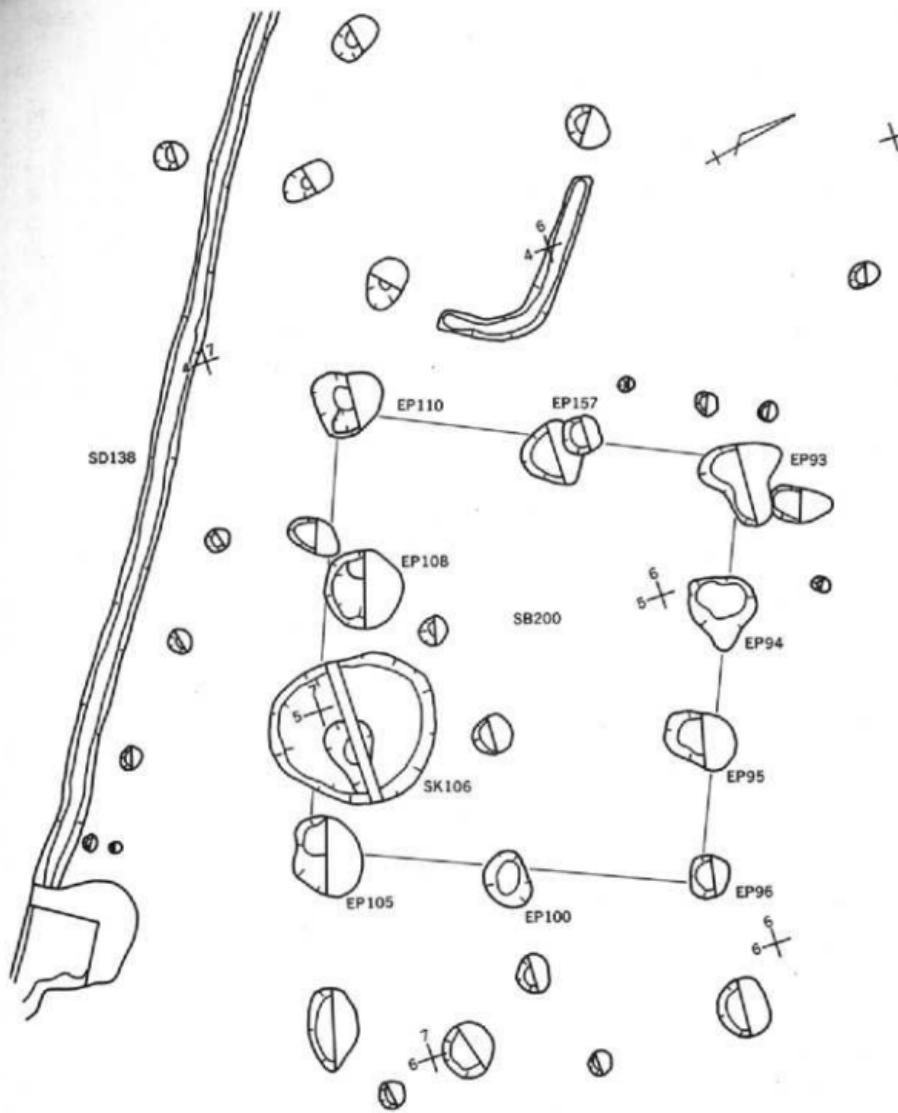
A区北側に位置する、北西から南東に走る溝である。断面形はU字形を呈し、覆土は3層からなる。他の土壤やピットと違い黒色粘質の覆土を持つ。この覆土を持つ遺構にはSD141・147・148が見られる。3層目からは、株洲系の中世陶器が出土している。SD139を含めこれらの溝跡は中世以降の所産と考えられる。

SX177落ち込み

A区5～6～8～9グリッドに位置する。平面形は不整形の広がりを呈する。西からSD138溝跡が流れ込み、底面南側にはSK195土壤がある。東側は、調査区外にあたるため、全体の規模は不明である。調査区の遺構中最も多く、78点の遺物の出土が見られた。なお遺物はSK195土壤付近に集中する傾向が見られる。出土遺物の大半はヘラ切りの須恵器坏で、次いで高台付坏、回転糸切りの



第28図 遺構配置図（C区）



第29図 S B 200建物跡

須器坏、赤焼土器坏、甕の順になる。赤焼土器の出土量は極めて少なく、総て1層から出土しているため、後の流れ込みと考えられる。

弥生土器

C区から2点出土している。小破片のため内1点は図化を省略した。表面には縄文及び棒状工具による沈線が施される。変形工字文を施す甕の体部と考えられる。

土師器

全体の約0.2%の13点が出土している。器形には坏・甕が見られる。第44図1は口径197mmを測る大型の坏である。体部は緩かに内彎し口縁に至る。底部は破損している。内外面ともミガキが施される。第44図2は甕の体部と考えられる。内外面とも目の細かいハケメ調整が見られる。他の小破片は甕の体部片である。

須恵器

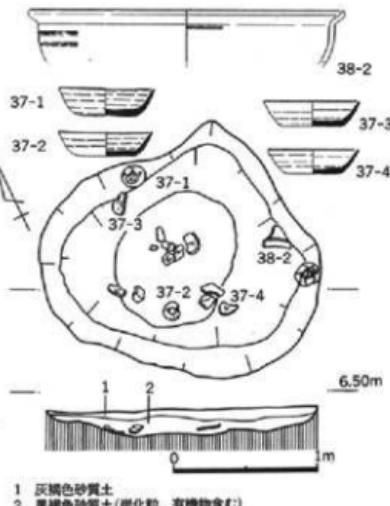
全体の約44%の3137点が出土している。その中で、遺構内からの出土は584点を数える。器形には、蓋・坏・高台付杯・壺・甕が見られる。

蓋は天井部が偏平なものと、丸味を帯びるものがある。紐はいずれも中心部が幾分盛り上がる鐘み状である。出土量は少なく、図化したのは4点のみである。

坏は本調査で最も出土量が多く、中でもヘラ切りが圧倒的な多さを示す。全体的にみて口径、底径とも大きく、器高は低めである。法量は図化復元のものを含めると、口径128~136mm、底径80~90mm、器高31~38mmの範疇に収

まるものが最も多い。体部は直線的に立ち上がるものの、あるいは僅かに内彎気味に立ち上がるものが多く、外反するものは少ない。焼成はいづれも良好であるが、胎土には粗砂粒が混入するものと、致密なものとが見られる。回転糸切りの坏は、口径、底径ともに比較的大きめで、器高は低く、ヘラ切り坏に類似する形態を示す。

高台付坏は出土量は少ないが、大きく分けた器高が50mm未溝の低いもの（A）と、65mm以上の高いもの（B）の2つのタイプが見られる。さらにAには体部が内彎し、高台が底部外周にめぐるものと、体部が直線的にひら



第30図 S K 131

き高台が底部外周よりやや内側に入るものがある。Bには底径が大きく高台が踏ん張るものと、底径が小さく高台が踏ん張らないものが見られる。いづれも坏部を見る限り、前述の坏類とは異なった形態を呈する。

壺は各々別固体であるが、頸部・肩部・底部が出土している。小型の壺と考えられる。肩部にはカキメを有する。

壺は破片資料のみで、その全形は不明である。体部は外面に条線状タタキ、内面に青海波、平行、放射状等のアテ痕が見られる。

赤焼土器

全体の約55%の3941点が出土している。その中で、遺構内からの出土は647点を数える。A区北西の上層から比較的多く出土した。しかし遺存状態が悪く全形を知り得る資料は少ない。器形には坏、壺、壠が見られる。

坏には底径が55mm未満のものと、70mm前後を測るものとがある。体部は緩やかに内彎し口縁にいたる。ロクロ成形、回転糸切りである。

壺には体部及び口縁形態から2種類に分けられる。ひとつは、直線的な体部から口縁部が「く」の字状に短かく屈曲し、口唇部は直立気味に作り出される。体部はロクロナデが施される。全体的に薄手である。もう一方は丸味を帯びた体部から、肥厚した口縁部が短く外反する。体部と口縁部の変換点には一条の凸帶がめぐる。体部外面はロクロナデ、内面には、カキメが見られる。なお外面に条線状タタキ、内面に青海波アテ痕の体部片や2次焼成を受けた底部も見られる。

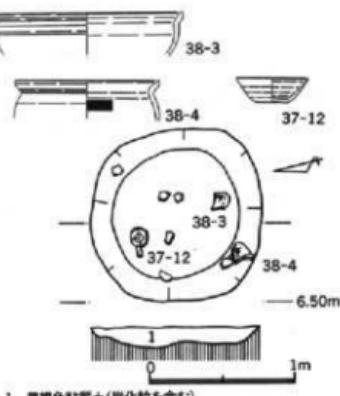
壠も口縁形態から2種類に分けられる。「く」の字状に屈曲し、直立気味に作り出される口唇部を持つものと、肥厚で短かく外反し、一条の凸帶がめぐるものである。この凸帶を持つ壠は、前述した凸帶を持つ壺とセットでSK150から出土している。

内黒土器

出土量は極めて少なく、全形は不明。坏体部は直線的に開き、口縁部内面にミガキが見られる。第39図11も内黒土器であるが、内外面全体に漆が付着したものである。

墨書き土器

出土数は11点である。その内7点が遺構内出土である。いづれも須恵器で、器形は坏9点と高台付坏2点である。墨書き位置は底部のみである。文字は「乙」



1 黒褐色粘質土(炭化粒を含む)

第31図 SK 150

が最も多く、7点を数える。その他判読できたのは「徳」1点である。

ヘラ記号土器 (第43図15・16)

2点のみの出土で、2点とも須恵器高台付坏の底部に刻まれている。記号は「×」である。

中世陶器 (第39図12)

珠洲系の壺の体部片である。外面は矢羽根状タタキを施し、内面には円形のアテ痕が見られる。SD226F3から出土である。

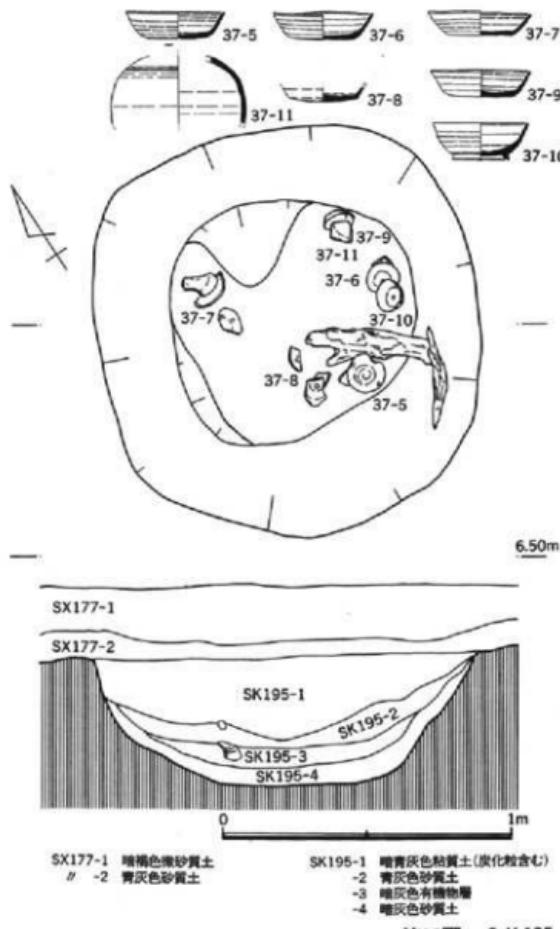
木製品 (第39図13・14)

2点ともC区からの出土である。第39図13は、円形になるものと推測される。片面の端部を削り台形状を呈する。また中心に方形の穴を穿っている。用途は不明である。第39図14は下駄の歯である。中世以降に多く見られる差し込み式のものであると考えられる。

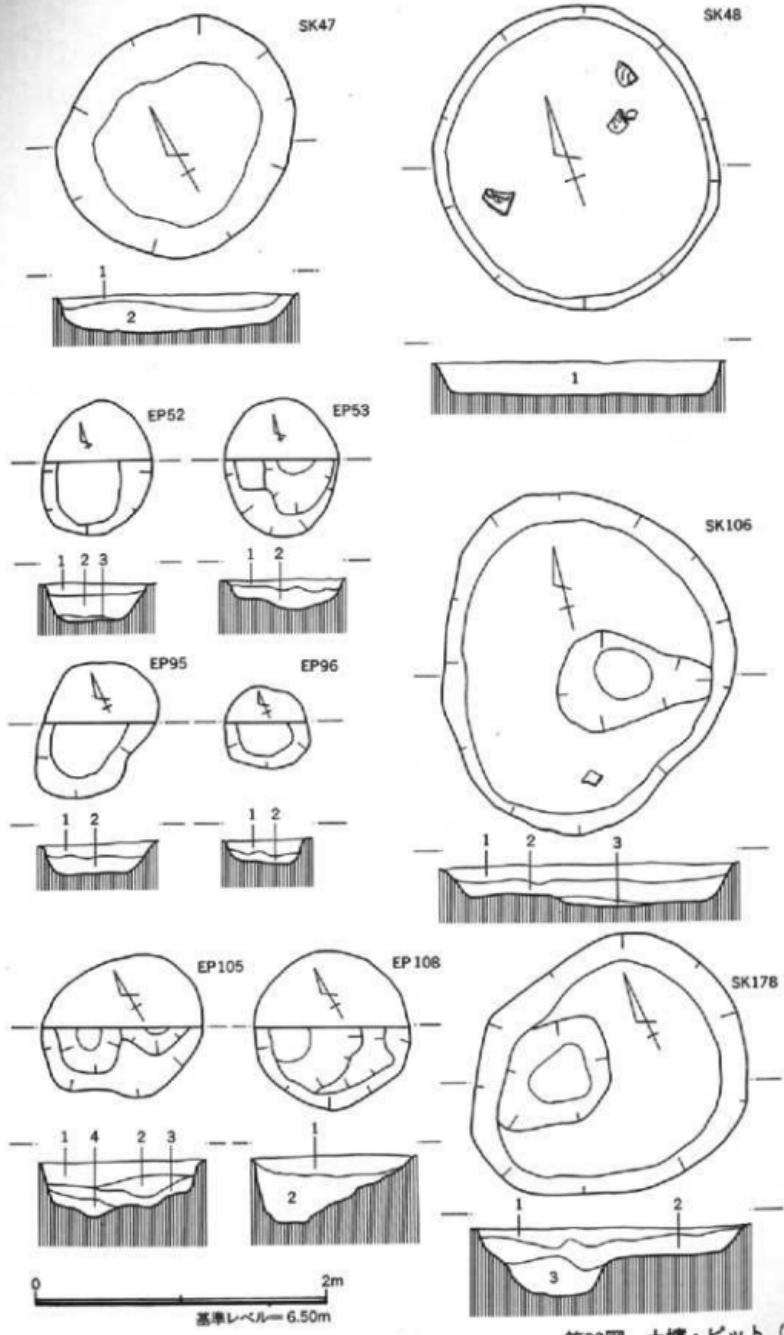
石製品(第42図9~12)

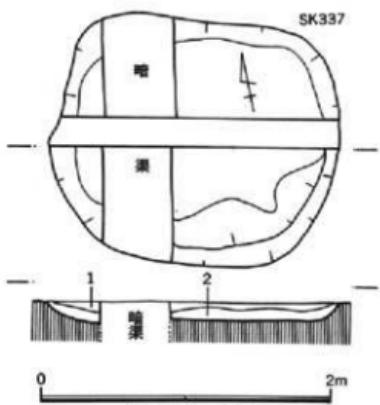
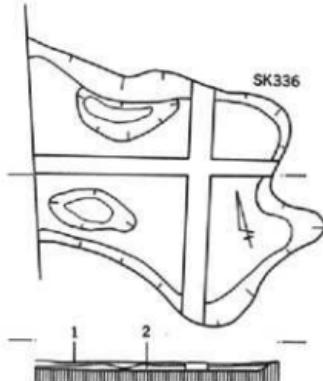
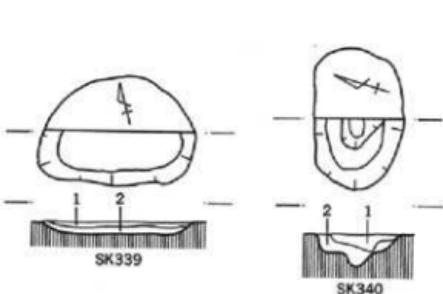
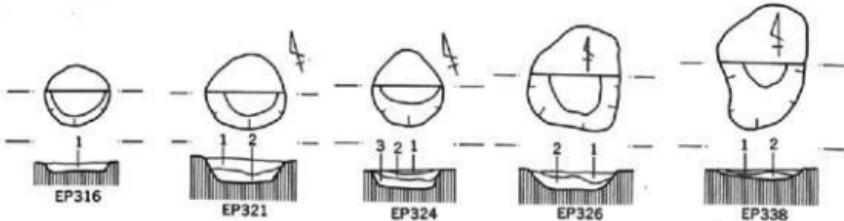
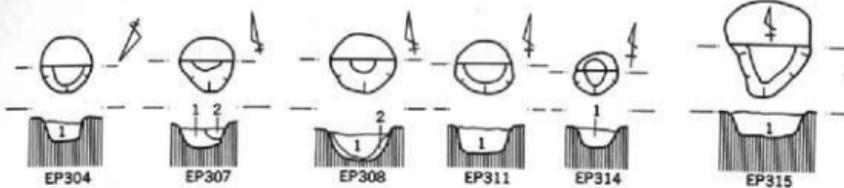
砥石3点(9~12), 硫1点(12)である。砥石はいづれも仕上げ砥である。硫は陸の部分と考えられる。

以上が本調査で検出した主な遺構と遺物である。



第32図 S K 195





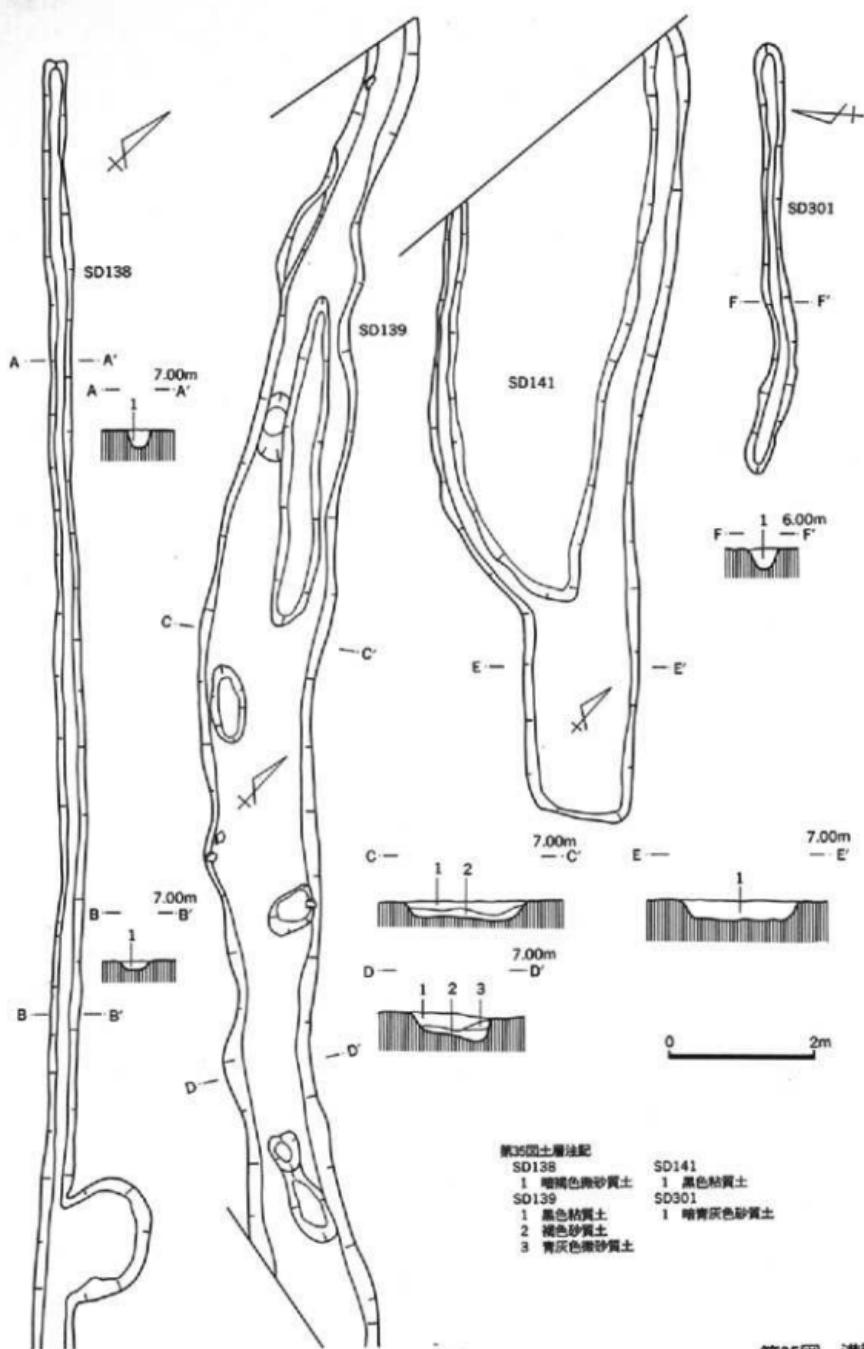
第三回 土恩賜記

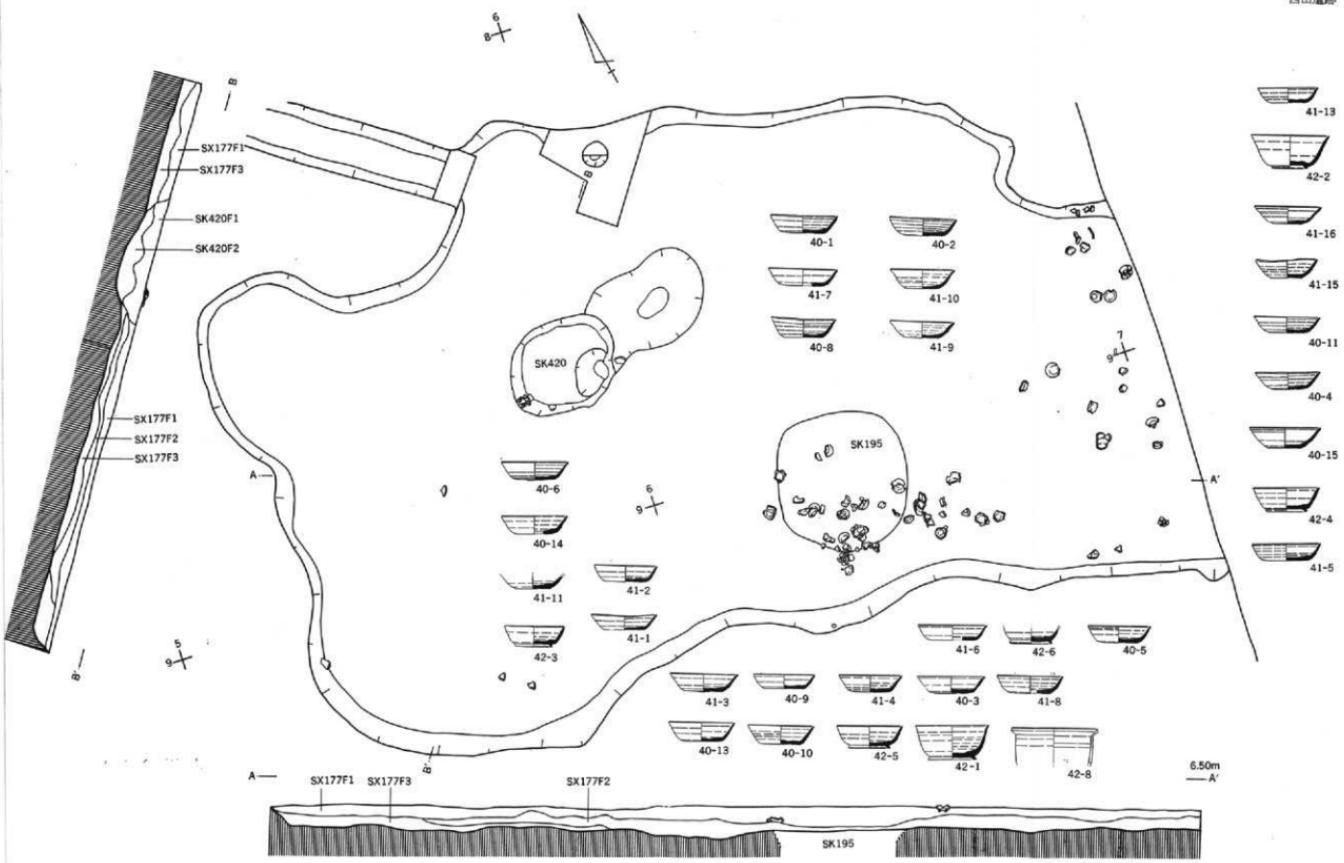
- | | |
|-------|------------------------------|
| 5647 | 1 市場地帶質土 2 市場地帶質土(礦化土色) |
| 5648 | 1 褐色地帶質土(褐化地帶質土) |
| EP102 | 1 褐色地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EP103 | 1 褐色地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EP104 | 1 褐色地帶質土 2 小塊地帶質土 |
| EP105 | 1 四周地帶質土 2 褐色地帶質土(礦化地帶質土) |
| EP106 | 1 土壤地帶質土 2 褐色地帶質土(礦化地帶質土) |
| EP107 | 1 棕褐色地帶質土 2 褐色地帶質土 |
| EP108 | 1 褐色地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EP109 | 1 褐色地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EP110 | 1 市場地帶質土 2 褐色地帶質土 |
| EX106 | 1 市場地帶質土 2 背斜地帶質土(礦化地帶質土) |
| EX107 | 1 背斜地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EX108 | 1 市場地帶質土 2 褐色地帶質土 |
| EX109 | 1 褐色地帶質土 2 市場地帶質土 |
| EX110 | 1 市場地帶質土 2 褐色地帶質土 |

第34回 土曜日記

- EP304
1 青色地色質土
EP307
2 青色地色質土
3 青色地色質土(褐色地色土ブロック含む)
EP308
4 青色地色質土
EP311
1 青色地色質土
EP314
1 青色地色質土
EP315
1 緑地色色質土
EP316
1 青地色色質土
EP321
1 青地色色質土
2 青地色色質土(褐色地色土ブロック含む)
EP324
1 青地色色質土
2 青地色色質土
EP326
1 青地色色質土
2 青地色色質土(褐色地土ブロック含む)
EP330
1 青地色色質土
2 青地色色質土
EP340
1 青地色色質土

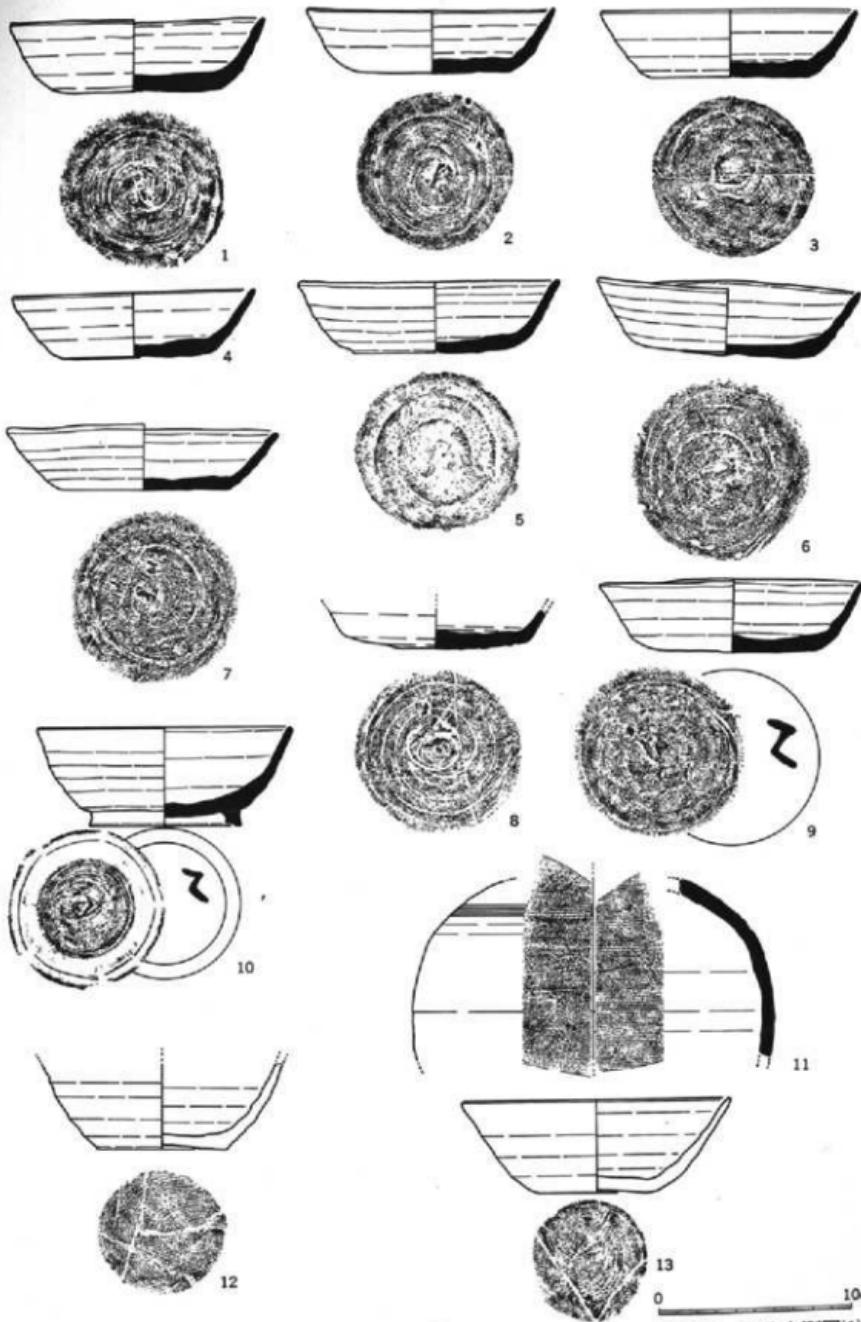
第34図 土壌・ピット（B区）

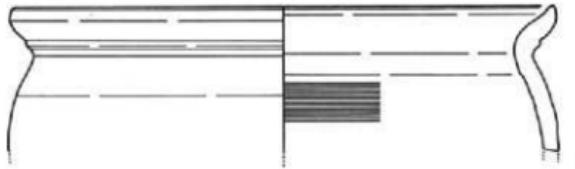
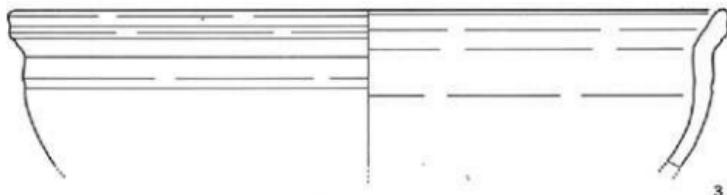
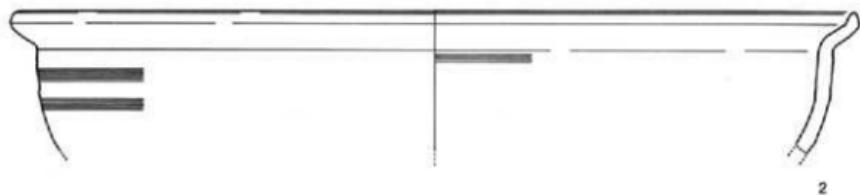




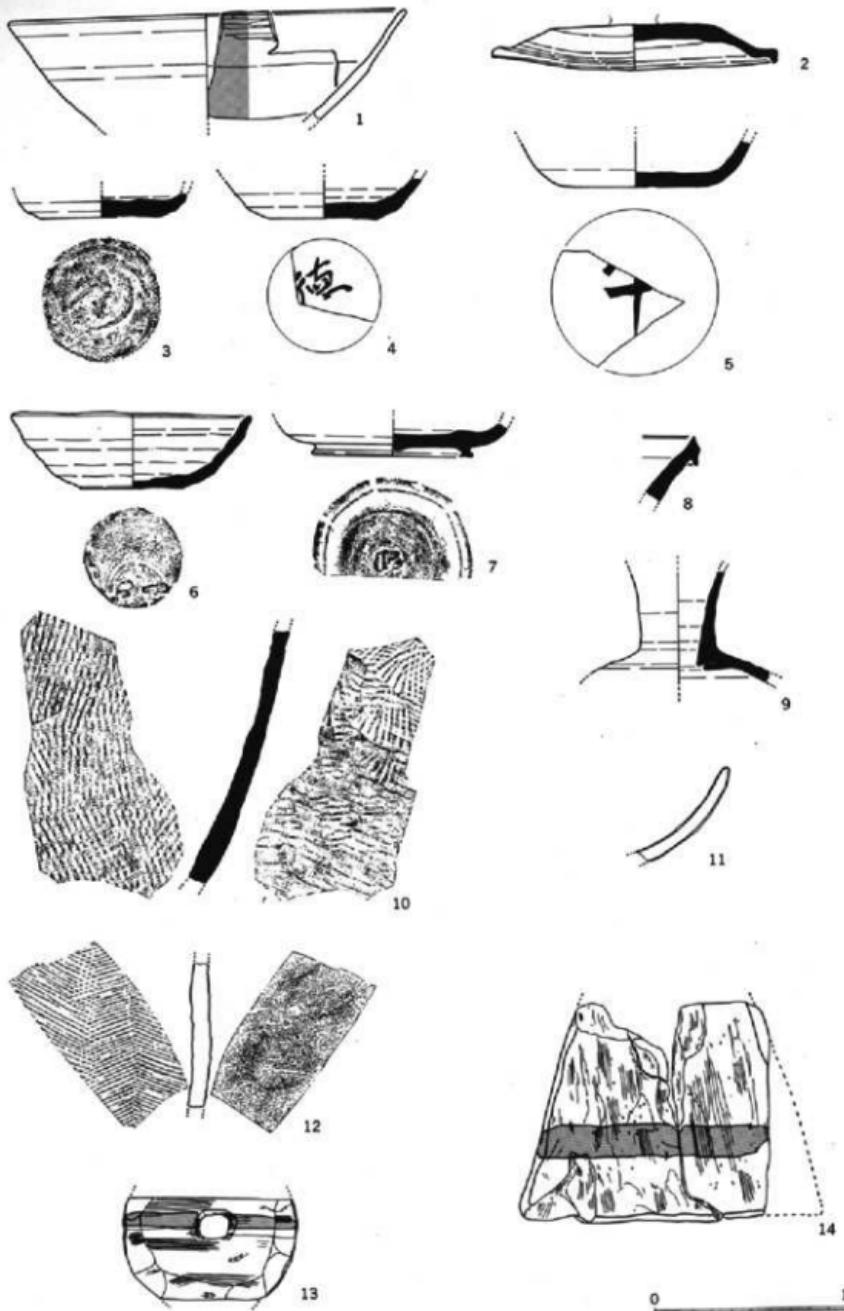
表一六 遺構計測表

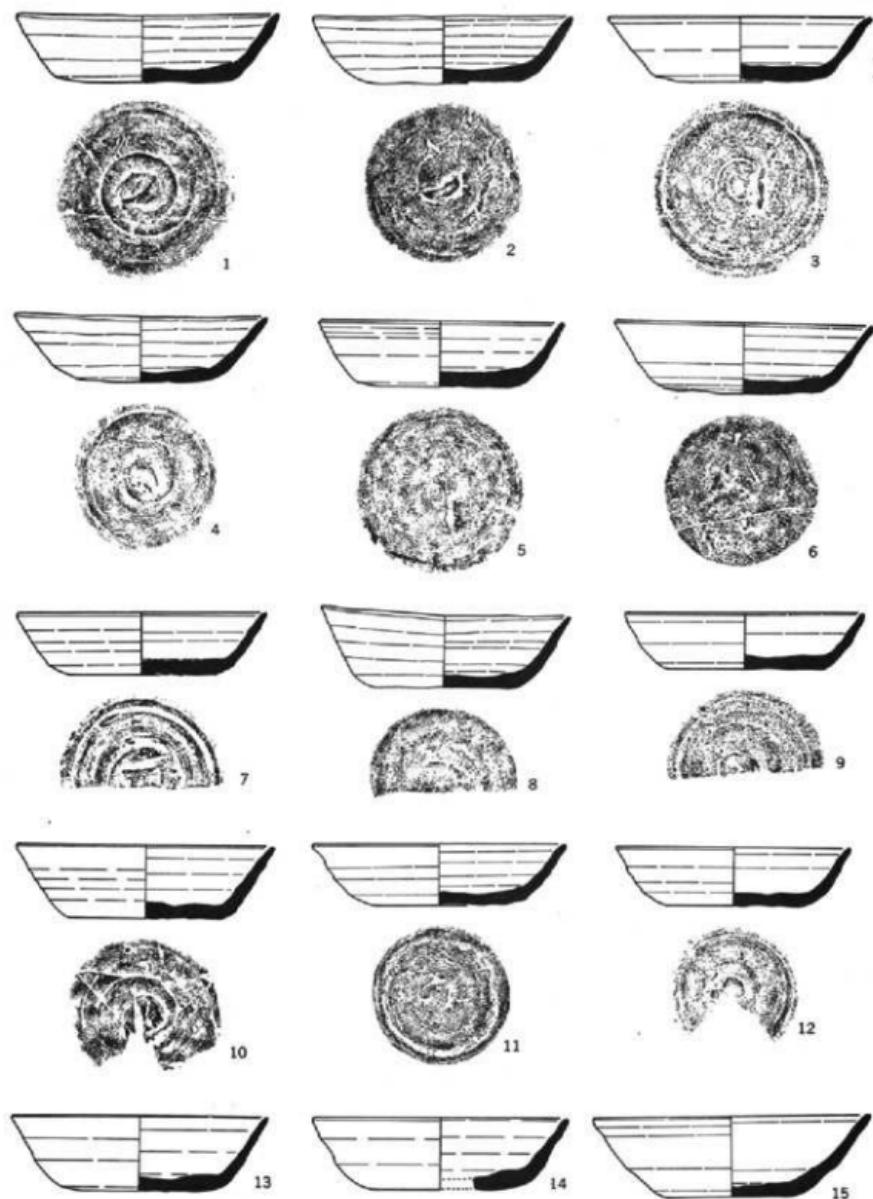
| 番号 | 地区名・層 | 周長(cm) | | 壁 | 備考 |
|--------|--------------------|------------|------|---------------|--------|
| | | 横径 | 側面深さ | | |
| E P14 | 4-3-III | 75×54 | 17 | 直 | S B196 |
| E P15 | 4-3-III | 51×44 | 23 | ? | S B196 |
| E P16 | 4-3-III | 60×41 | 14 | ? | S B196 |
| E P31 | 5-3-III | 39×27 | 16 | ? | S B196 |
| E P32 | 5-3-III | 33×27 | 15 | ? | S B196 |
| E P33 | 6-3-III | 34×30 | 16 | ? | S B196 |
| E P34 | 6-3-III | 26×26 | 13 | ? | S B196 |
| E P35 | 6-3-III | 47×33 | 25 | ? | S B196 |
| E P36 | 6-4-III | 54×44 | 24 | ? | S B196 |
| E P154 | 3-3-III | 32×27 | 26 | ? | S B196 |
| E P156 | 5-3-III | 28×27 | 19 | ? | S B196 |
| E P93 | 4-5-III | 119×63 | 26 | ほぼ垂直 | S B200 |
| E P94 | 5-5-III | 110×91 | 36 | ? | S B200 |
| E P95 | 5-6-III | 91×78 | 37 | ? | S B200 |
| E P96 | 5-6-III | 56×56 | 35 | ? | S B200 |
| E P100 | 5-6-III | 77×59 | 42 | ? | S B200 |
| E P105 | 5-7-III | 110×87 | 38 | 傾やか | S B200 |
| E P108 | 4-6-III | 108×105 | 49 | ? | S B200 |
| E P110 | 4-6-III | 94×79 | 31 | ? | S B200 |
| E P157 | 4-6-III | 91×81 | 21 | 直 | S B200 |
| E P82 | 2-4-III | 92×74 | 37 | ほぼ垂直 | 第33回 |
| E P53 | 2-4-III | 93×76 | 21 | ? | 第33回 |
| E P63 | 2-6-III | 67×57 | 28 | ? | |
| E P64 | 2-5-III | 63×58 | 17 | ? | |
| E P68 | 2-6-III | 41×39 | 17 | ? | |
| E P72 | 2-6-III | 69×59 | 24 | ? | |
| E P73 | 2-6-III | 92×79 | 21 | ? | |
| E P74 | 2-7-III | 52×48 | 19 | 直 | |
| E P75 | 2-7-III | 82×79 | 14 | ? | |
| E P95 | 5-6-III | 88×82 | 37 | ほぼ垂直 | |
| E P96 | 5-6-III | 58×53 | 35 | ? | |
| E P97 | 6-6-III | 81×67 | 26 | ? | |
| E P99 | 5-6-III | 52×45 | 19 | ? | |
| E P101 | 6-6-III | 78×71 | 37 | 傾やか | |
| E P104 | 5-7-III | 113×66 | 21 | ? | |
| E P105 | 5-7-III | 110×95 | 37 | ほぼ垂直 | 第33回 |
| E P108 | 4-6-III | 108×107 | 45 | 西面直面 東面傾やか | 第33回 |
| E P304 | 56-24-III | 39×25 | 14 | 直 | 第34回 |
| E P307 | 56-24-III | 37×27 | 13 | ? | 第34回 |
| E P308 | 55-24-III | 45×46 | 18 | ? | 第34回 |
| E P311 | 56-24-III | 38×26 | 17 | ? | 第34回 |
| 番号 | 地区名・層 | 周長(cm) | | 壁 | 備考 |
| E P314 | 56-25-III | 36×28 | 13 | 直 | 第34回 |
| E P315 | 56-25-III | 66×56 | 16 | ? | 第34回 |
| E P316 | 55-25-III | 45×41 | 6 | ? | 第34回 |
| E P321 | 55-25-III | 55×51 | 17 | ほぼ直面 | 第34回 |
| E P324 | 56-26-III | 52×48 | 12 | ? | 第34回 |
| E P326 | 56-26-III | 79×63 | 12 | ? | 第34回 |
| E P214 | 26-22-III | 60×60 | 10 | 傾やか | |
| E P216 | 26-22-III | 39×20 | 7 | 直 | |
| E P219 | 24-22-III | 39×30 | 34 | ? | |
| E P220 | 24-22-III | 25×20 | 26 | ? | |
| E P221 | 24-22-III | 45×40 | 42 | 傾やか | |
| E P223 | 23-22-III | 39×20 | 32 | ほぼ垂直 | |
| E P225 | 23-22-III | 39×30 | 38 | ? | |
| E P227 | 22-22-III | 39×20 | 16 | ? | |
| E P228 | 15-22-III | 28×20 | 17 | ? | |
| E P240 | 14-22-III | 48×25 | 18 | ? | |
| S K47 | 2-3-III | 165×161 | 26 | 傾やか | 第33回 |
| S K48 | 3-4-III | 218×195 | 23 | ほぼ直面 | 第33回 |
| S K106 | 5-6-III | 234×199 | 29 | 傾やか | 第33回 |
| S K121 | 4,5-8,9-III | 191×152 | 40 | ? | 第30回 |
| S K156 | 1-3-III | 118×118 | 30 | ? | 第31回 |
| S K155 | 4-4,5-III | 178×125 | 17 | ? | |
| S K178 | 5-9-III | 187×178 | 46 | ほぼ直面 | 第33回 |
| S K179 | 6-9,10-III | 226×212 | 23 | ? | |
| S K183 | 3-7-III | 117×162 | 22 | ? | |
| S K195 | 6-8,9-III | 142×130 | 68 | 傾やか | 第32回 |
| S K336 | 55-26-III | 198-131 | 6 | ? | 第34回 |
| S K337 | 56-26-III | 200×166 | 12 | ほぼ直面 | 第34回 |
| S K338 | 56-26-III | 83×58 | 7 | ? | 第34回 |
| S K339 | 56-26-III | 104×75 | 8 | 傾やか | 第34回 |
| S K349 | 57-26-III | 96×62 | 21 | ほぼ直面 | 第34回 |
| S K230 | 21-22-III | 160×40 | 32 | 傾やか | |
| S D51 | 2,3-4-III | 768×36(66) | 13 | 直 | |
| S D129 | 2,3,4,5-8,9,10-III | 2,093×131 | 21 | ほぼ直面 | |
| S D141 | 2-7,8-III | 931×48 | 18 | ? | |
| S D144 | 1,2-6-III | 385×37 | 23 | ? | |
| S D147 | 1,3-4,5,6-III | 1,295×39 | 21 | ? | |
| S D148 | 2-2,3,4-III | 1,160×48 | 28 | ? | |
| S D304 | 56,57-24,25-III | 591×25 | 15 | ? | |
| S D341 | 57-25-III | 250×11 | 16 | ? | |
| S X177 | 5,6-8,9-III | 819×531 | 20 | 傾やか | 第36回 |



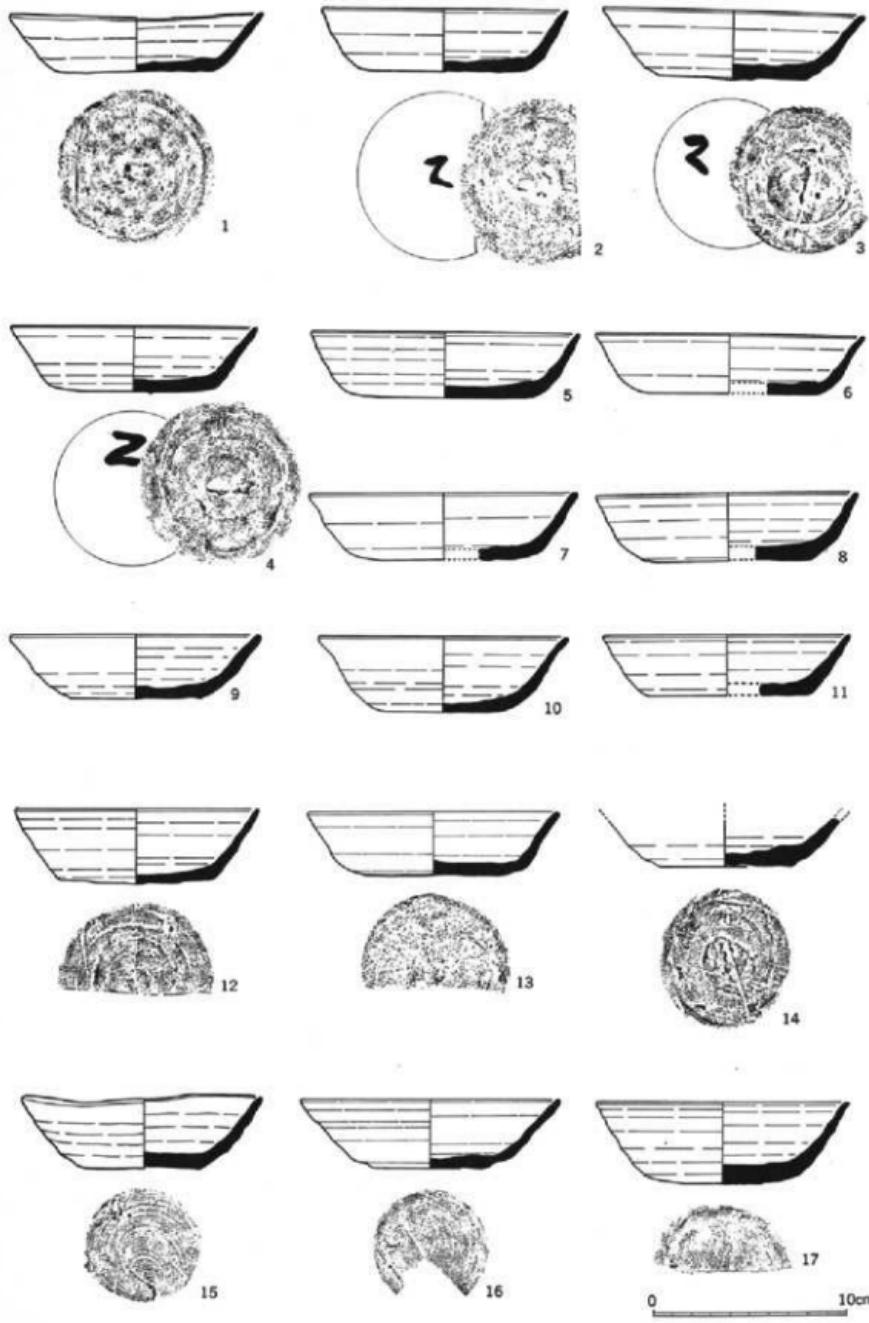


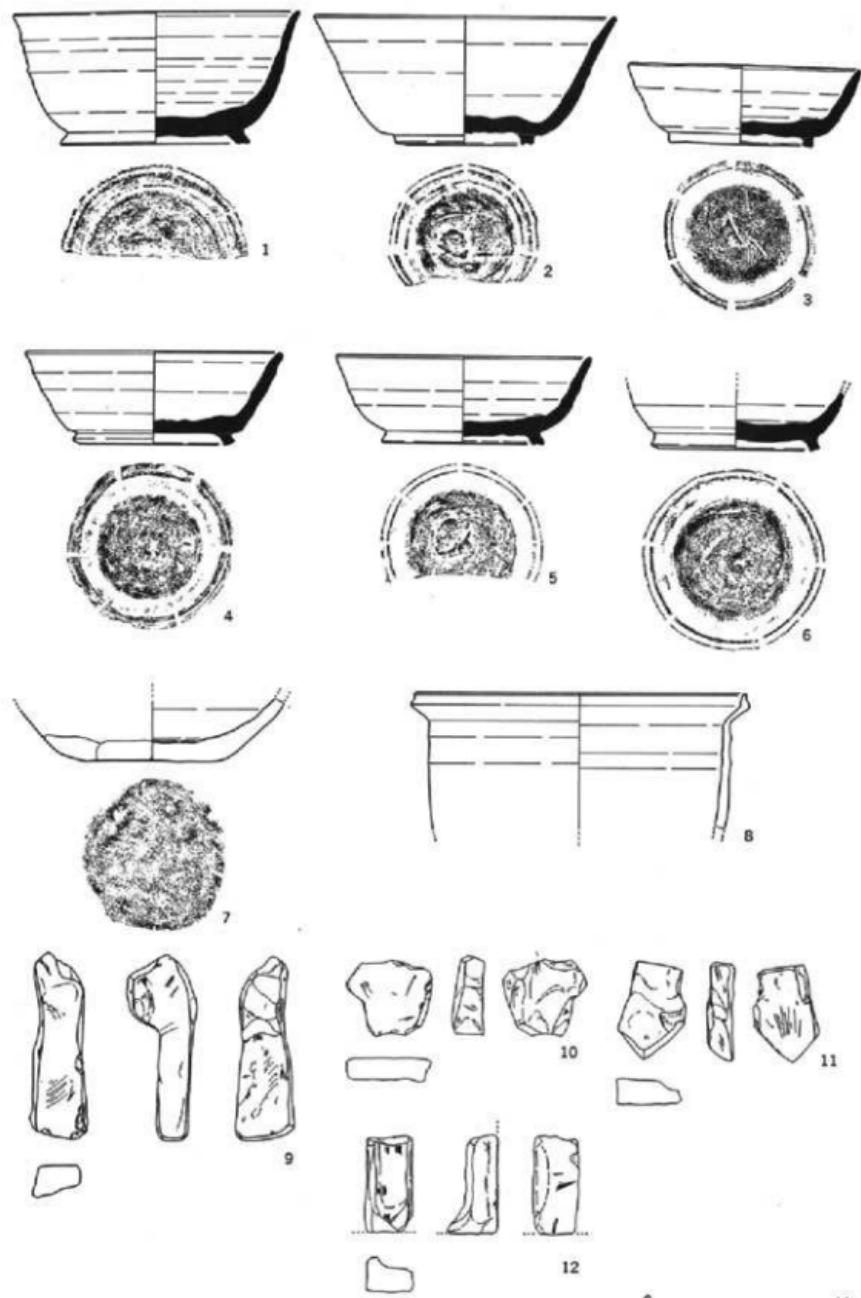
0 10cm

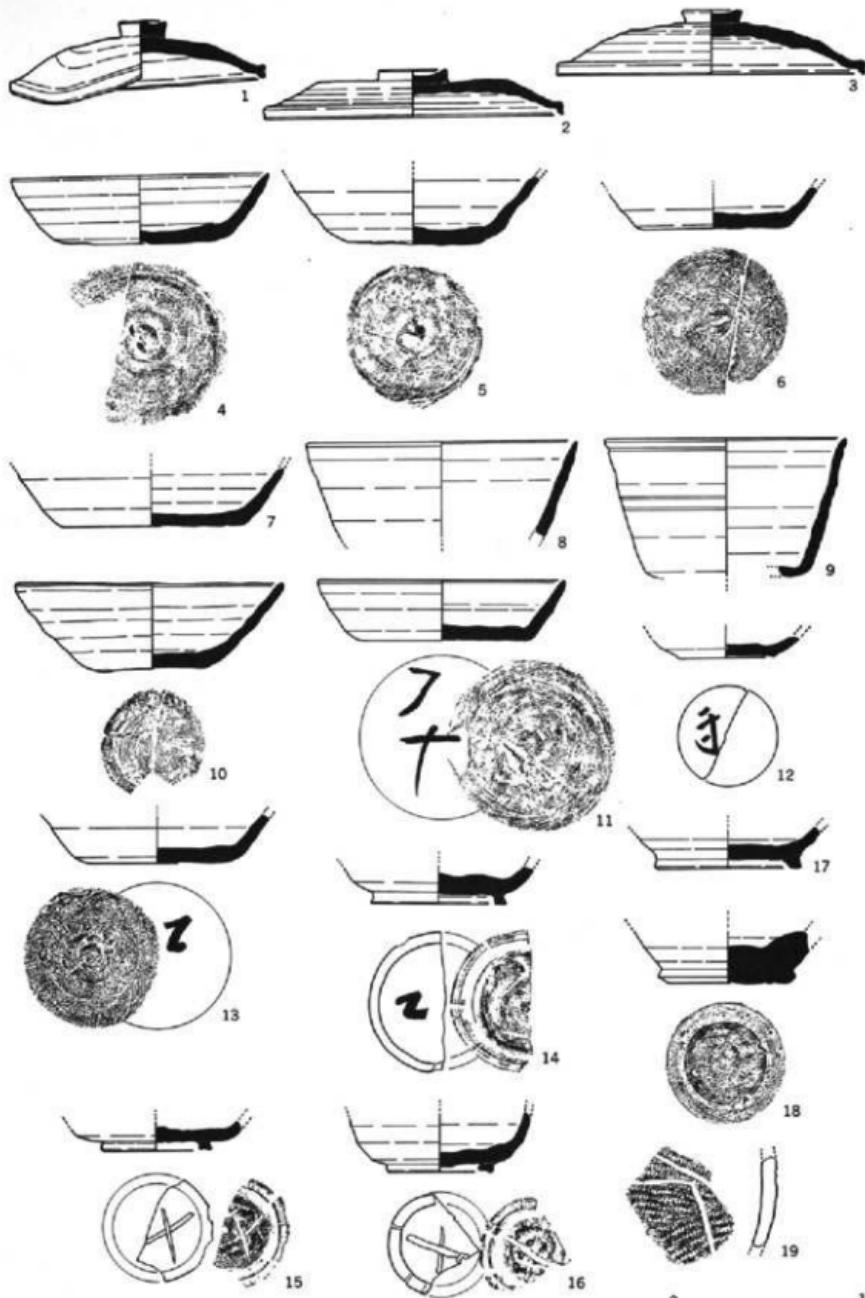


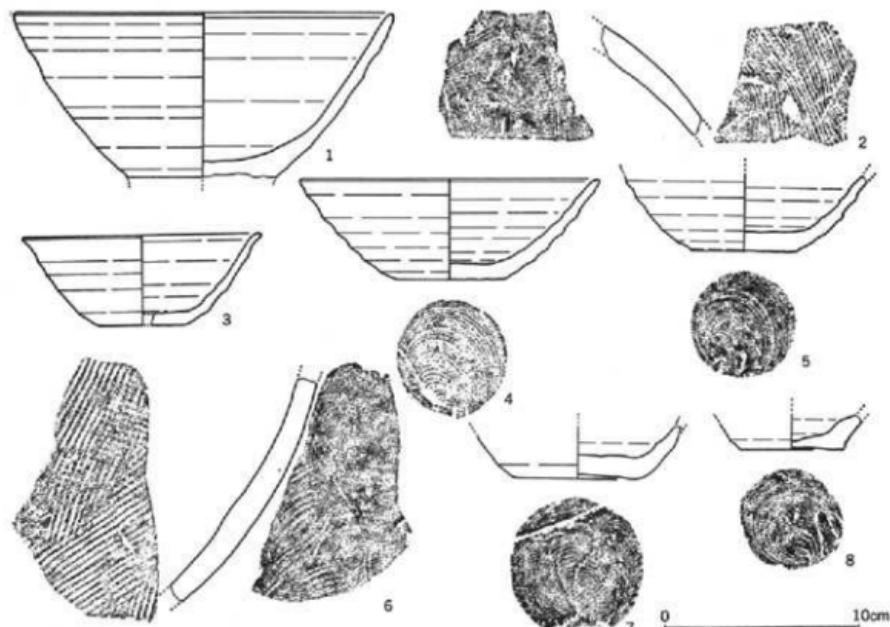


0 10cm
第40図 遺物実測図(4)









第44回 遺物実測図(8)

表一七 石製品・木製品計測表

| 拂田番号 | 田原番号 | 種別 | 種類 | 出土位置 | 全長(英寸) | 頭大後(英寸) | 頭大厚 |
|-------|------|-----|----|--------|--------|---------|------|
| 39-13 | | 木製品 | | 64トレンチ | | | |
| 39-14 | | 木 | げた | 〃 | | | |
| 42-9 | 63 | 石製 | 砥石 | S X177 | 95 | 25 | 15.5 |
| 42-10 | 〃 | 石 | 刀 | 55str | (37) | (33) | 11 |
| 42-11 | 〃 | 石 | 刀 | 〃 | 49 | (34) | 12.5 |
| 42-12 | 〃 | 石 | 硯 | 3トレンチ | (49) | (23) | 12 |

※ () 内の数値は、残存値を示す。

表一8 土器計測

| 擇出番号 | 同版番号 | 種別 | 器種 | 出土位置 | 測量尺寸(mm) | | | 備考 |
|-------|------|-----|------|----------|----------|------|------|-------|
| | | | | | 口 | 底 | 高 | |
| 37-1 | 58 | 須恵器 | 环 | S K131 | 136 | 85 | 38 | R P60 |
| 37-2 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 128 | 80 | 32.5 | R P23 |
| 37-3 | 〃 | 〃 | 〃 | S K131-Y | (132) | 82 | 35 | |
| 37-4 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (126) | (70) | 34 | |
| 37-5 | 〃 | 〃 | 〃 | S K195 | 135 | 85 | 37 | R P53 |
| 37-6 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 138 | 90 | 37 | R P30 |
| 37-7 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 141 | 88 | 34 | R P46 |
| 37-8 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 82 | | R P54 |
| 37-9 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 137 | 90 | 36 | R P47 |
| 37-10 | 〃 | 〃 | 高台付环 | 〃 | 132 | 78 | 51 | R P29 |
| 37-11 | 〃 | 〃 | 壹 | 〃 | | | | |
| 37-12 | 59 | 赤燒 | 环 | S K48 | | 66 | | R P21 |
| 37-13 | 〃 | 〃 | 〃 | S K150 | (139) | 56 | 48 | R P19 |
| 38-1 | 〃 | 須恵器 | 壹 | S K48 | | | | R P20 |

表-9 土器計測表(2)

| 件 目 番 号 | 測定 番号 | 種別 | 標記 | 出 土 位 置 | 寸 法 (cm) | | | 考 | 法 算 (cm) | | | | 番 号 | |
|------------------|----------|----------|----|-----------------------|----------------|--------|--------|---------|----------------|--------|--------|----------|--------|---------|
| | | | | | 口 径 | 底 径 | 厚 度 | | 口 径 | 底 径 | 高 度 | 口 径 | | |
| 38-2 | 59 | 赤燒 | 陶 | S K131-Y | (454) | | | | 61 | 61 | 38 | 126 | 80 | 38 |
| 38-3 | " | " | " | S K150 | (370) | | | | 62 | 62 | 32 | 132 | 75 | |
| 38-4 | " | " | 甕 | " | (260) | | | | 61 | 61 | 70 | | | R P 2 |
| 38-1 | " | 内施 土器 | 陶 | E P72-F ₂ | (260) | | | | 62 | 62 | 37 | 125 | 60 | R P 23a |
| 38-2 | 60 | 内施 土器 | 陶 | S K183 | 149 | (24) | R P 49 | | 62 | 62 | 35.5 | 135 | 60 | R P 19 |
| 38-3 | 59 | " | 环 | E P33 | | 64 | | | 62 | 62 | 42 | (132) | (60) | |
| 38-4 | " | " | " | S K110-F ₁ | | 59 | | | 62 | 62 | 42 | (147) | (98) | R P 28 |
| 38-5 | " | " | " | S D334 | | 85 | | | 62 | 62 | 42 | (156) | 72 | R P 41 |
| 38-6 | 60 | " | " | S K179 | 124 | 52 | 38 | | 62 | 62 | 42 | 122 | 75 | R P 39c |
| 38-7 | " | 高台 付环 | 陶 | S K183 | | 89 | | R P 48 | 62 | 62 | 42 | (134) | 74 | R P 25 |
| 38-8 | 59 | " | 甕 | S D143-F ₂ | | | | | 62 | 62 | 45 | (132) | 84 | R P 35a |
| 38-9 | " | " | " | S K340 | | | R P 18 | | 62 | 62 | 45 | | | R P 5 |
| 38-10 | " | " | " | E P117 | | | | | 62 | 62 | 45 | | | R P 12 |
| 38-11 | " | 内施 土器 | 环 | S K106 | | | | | 62 | 62 | 45 | 3-8-III | 131 | 42.5 |
| 38-12 | " | 中世 陶器 | 甕 | S D139-F ₂ | | | | | 62 | 62 | 45 | 5-10-III | (156) | 25 |
| 40-1 | 60 | 内施 土器 | 环 | S X177 | 189 | 92 | 35.5 | R P 33a | 62 | 62 | 45 | 6-6-III | (160) | 34 |
| 40-2 | " | " | " | " | 135 | 82 | 35 | R P 50 | 62 | 62 | 45 | 6-9-III | 133 | 35 |
| 40-3 | " | " | 环 | " | 136 | 90 | 35 | R P 31d | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-4 | " | " | " | " | 134 | 70 | 36 | R P 24 | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-5 | 59 | " | " | " | (128) | 86 | 34 | R P 6 | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-6 | 60 | " | " | " | (126) | 80 | 37 | R P 1 | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-7 | " | " | " | " | (120) | 80 | 32 | R P 36 | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-8 | " | " | " | " | (129) | 75 | 4 | R P 22 | 62 | 62 | 45 | | | |
| 40-9 | " | " | " | " | (125) | 88 | 29 | R P 38 | 62 | 62 | 45 | 2-2-III | (139) | |
| 40-10 | 61 | " | " | " | (134) | 88 | 38 | R P 4 | 62 | 62 | 45 | 3-8-III | (124) | |
| 40-11 | " | " | " | " | 131 | 78 | 32 | R P 23b | 62 | 62 | 45 | 5-2-III | 128 | 31 |
| 40-12 | " | " | " | " | 122 | 70 | 39 | R P 41 | 62 | 62 | 45 | 2-4-III | 50 | 9 |
| 40-13 | 60 | " | " | " | (132) | 88 | 38 | R P 43 | 62 | 62 | 45 | 5-2 | 76 | (24) |
| 40-14 | 59 | " | " | " | (132) | 90 | 37 | R P 39b | 62 | 62 | 45 | サブレンチ | 102tr | |
| 40-15 | 60 | " | " | " | (145) | 65 | 41 | R P 9 | 62 | 62 | 45 | 4-10-III | (56) | |
| 41-1 | 61 | " | " | " | 132 | 84 | 31 | R P 34b | 62 | 62 | 45 | 1-10-III | (54) | |
| 41-2 | " | " | " | " | (128) | 88 | 33 | R P 34a | 62 | 62 | 45 | 5-10-III | (74.5) | |
| 41-3 | " | " | " | " | (136) | 78 | 35 | R P 37b | 62 | 62 | 45 | 14-22 | 70 | |
| 41-4 | " | " | " | " | (129) | 80 | 34 | R P 35b | 62 | 62 | 45 | 9-22-III | | |
| 41-5 | " | " | " | " | (129) | 85 | 34 | R P 27 | 62 | 62 | 45 | 5-2-G | | |
| 41-6 | " | " | " | " | (138) | 86 | 31 | R P 31a | 62 | 62 | 45 | G | (21.9) | (44.5) |
| 41-7 | " | " | " | " | (140) | 82 | 34 | R P 33b | 62 | 62 | 45 | (155) | 55 | 32 |
| 41-8 | " | " | " | " | (135) | 86 | 35 | R P 36 | 62 | 62 | 45 | | 55 | |
| 41-9 | " | " | " | " | (130) | 67 | 33 | R P 51 | 62 | 62 | 45 | 5-9-III | | |
| 41-10 | " | " | " | " | (130) | 70 | 29 | R P 42 | 62 | 62 | 45 | 2-2-III | 67 | |
| 41-11 | " | " | " | " | (128) | 83 | 31 | | 62 | 62 | 45 | 6-9 | 53 | |

VI まとめ

今回の調査は、昭和62年度県営ほ場整備事業・中平田東地区に係る平田町「早稻田遺跡」・「桜林遺跡」・「西田遺跡」の緊急発掘調査である。

○早稻田遺跡

発掘面積は、2,054m²である。A～F地区のうち遺構を確認できたのはB・C地区で、数は少なく、柱穴3・井戸跡1・土壙4である。柱穴からは、SB28建物跡を想定できた。SB28は、柱穴(E B 1)に礎板を伴い、N-41-Eに振れる。SE19井戸跡の井戸枠は未検出で、壁際に曲物破片がみとめられ、覆土内から自然石を多数出土した。土壙は、径100～176cm、深さ15～66cmで、円形・梢円形の平面形である。推定時期は、SB28・SE19が平安時代、土壙はSK18・21が平安時代、SK20は中世、SK26は時期詳細不明である。

出土遺物は、平安時代(9・10C)・中世時期に分けられる。また、1点のみであるが、弥生土器蓋が出土し、明瞭な包含層は未検出であるが、その存在が期待されるところである。

○桜林遺跡

発掘面積は、1,535m²である。A・B地区から遺構がみとめられ、柱穴103・井戸跡1・土壙21・溝跡11である。柱穴では、A地区でSB45・46建物跡・SB100柱列跡が確認できた。その主軸方向は、N-13°～18°-Eの間で位置関係も近く同時存在の可能性がある。ただ出土遺物は未検出で、時期詳細は不明である。SE64井戸跡は、縦板・杭に横桟をもつ構造が考えられる。底面には方形の曲物を置き、平安時代の所産と考えられる。土壙については、平安時代・中世・近世以降に分けられ、その形態からA～E類に分類を行った。確認数では、B類が多い。また、推定も入れ中世の所産と思われるC類は、A地区に分布をもつ。そのことからA地区は、中世のブロックであることが考えられる。

出土遺物では、B地区SD72溝跡から一括土器群が出土し、セットとして重要である。まだ部分的な検討ではあるが、須恵器坏A1・2類、高台付坏B類、擬宝珠様のつまみをもつ蓋、横瓶等の内容は、隣接する「桜林興野遺跡」C・D地区の調査(長橋、1987年)等から奈良時代まで遡る可能性が考えられる。

○西田遺跡

発掘面積は、1880m²である。A～C区で遺構を検出したが、中でもA区からは、まとまった遺構が検出された。A区SB200建物跡、SB198柱列、SD138溝跡はともに平行関係にあり、同時存在が考えられる。他にも柱穴と成り得るビットは多数検出されており建物の

存在がうかがえる。土壌は須恵器出土の S K195、赤焼土器出土の S K150、須恵器、赤焼土器出土の S K131等があり、時期的な差異も考えられる。S D226溝跡からは珠洲系の中世陶器が出土している。これ等の遺構の推定時期は、S B200、S B198、S D138、S K195、S K131は奈良～平安時代、S K48、S K150は平安時代、S D139をはじめ、一連の黒色粘質土の覆土を持つ溝跡は、中世の所産と考えられる。その他の遺構については、時期詳細は不明である。

出土遺物では、破片資料の点数を加えると赤焼土器が最も多く、全体の約55%を占めるが、固体数では須恵器が多く占められることが考えられる。中でも壺類が多く出土した。S K195、S X177出土の壺（口径、底径が大きく、器高が低いヘラ切りの壺）は奈良時代にまで遡る可能性がある。またC区から出土した弥生土器は、今回の調査では確認できなかつた弥生時代の遺跡の存在を考える上で貴重である。

今回の調査では、各遺跡ともほぼ同時期に点在した集落であることが考えられる。遺構の存り方や出土遺物、特に弥生土器や奈良時代まで遡り得る可能性を持つ土器群に関しては、増加した資料との比較再検討の必要を感じるところである。

参考文献（敬称略）

| | | |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 阿部明彦・大泉俊彦（1985年） | 『手藏田遺跡発掘調査報告書』 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第 87 集 |
| 安部 実・阿部明彦（〃） | 『生石 2 遺跡発掘調査報告書』 | 〃 第 89 集 |
| 野尻 侃・阿部明彦（1986年） | 『手藏田遺跡発掘調査報告書（2）』 | 〃 第 98 集 |
| 長橋 亘（1987年） | 『桜林興野遺跡発掘調査報告書』 | 〃 第 115 集 |
| 伊藤邦弘・安部 実（1987年） | 『生石 4 遺跡発掘調査報告書』 | 〃 第 118 集 |

図 版



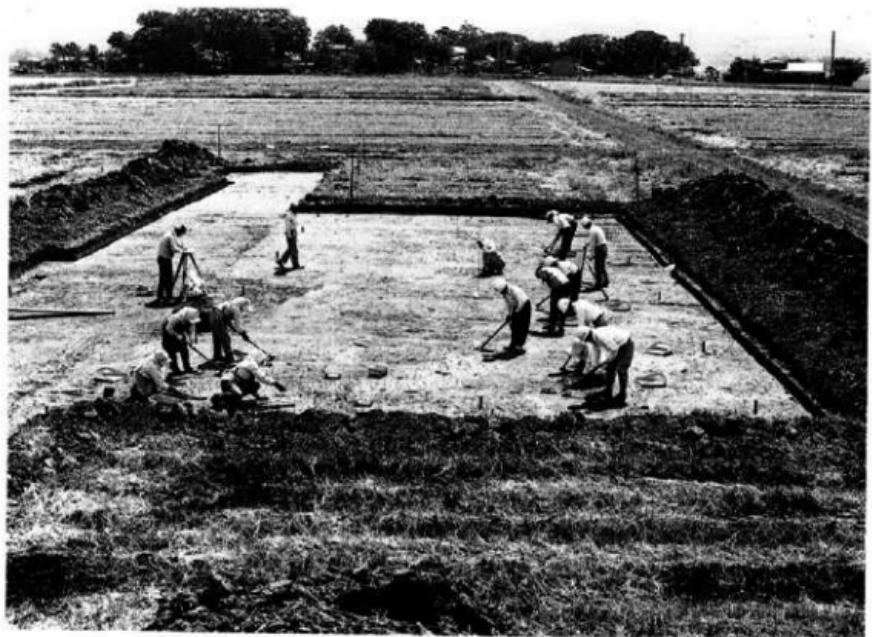
早稻田遺跡遠景（北から）



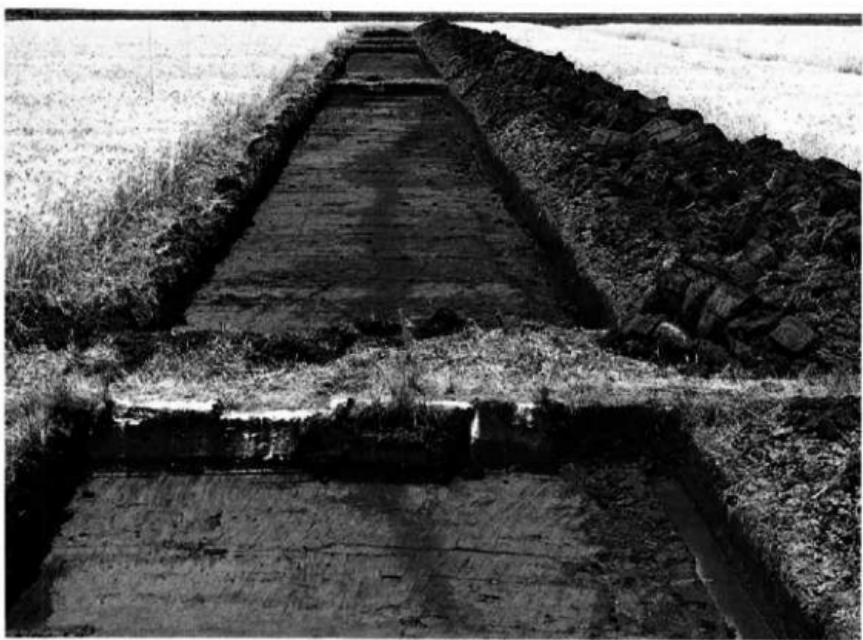
調査前状況

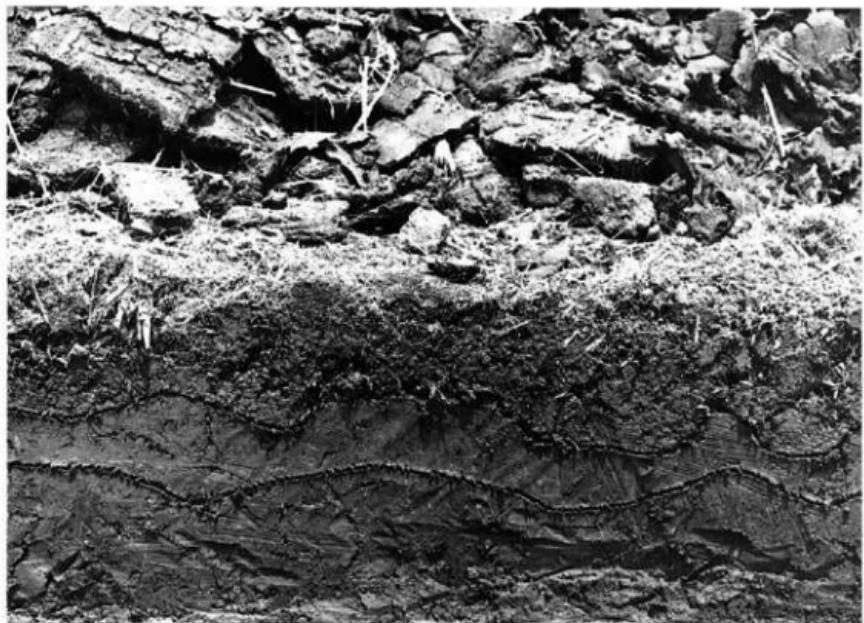


調査状況（トレンチ）



調査状況（面積量）

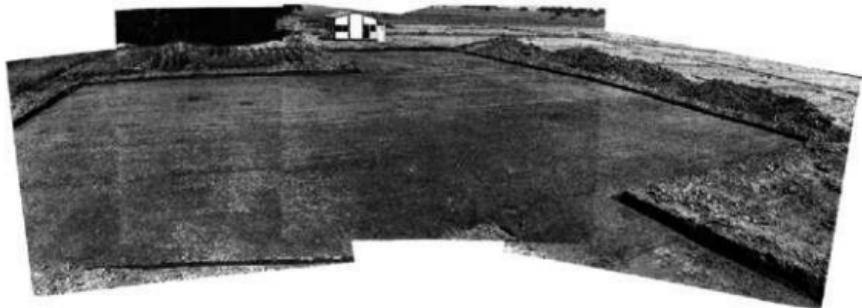
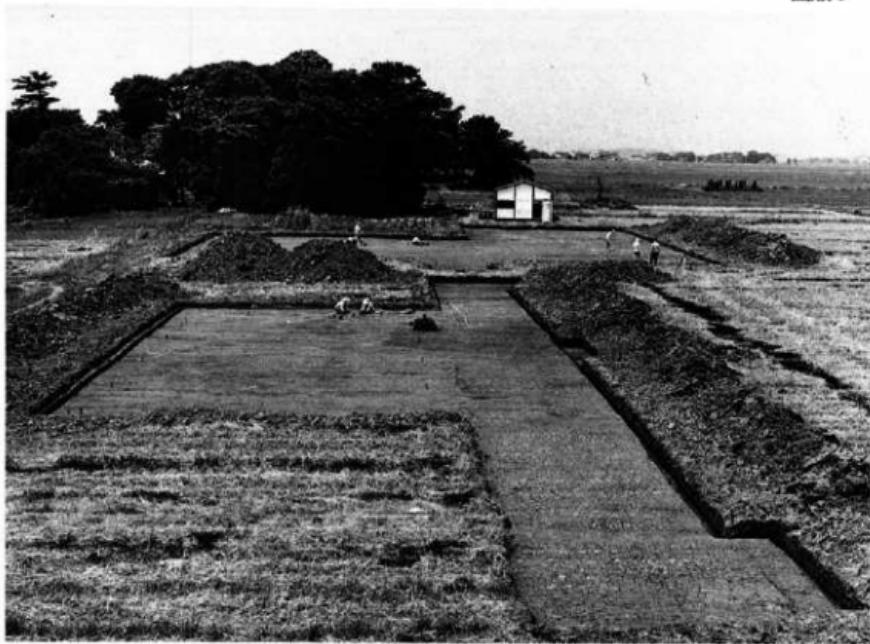




土層断面



土層断面

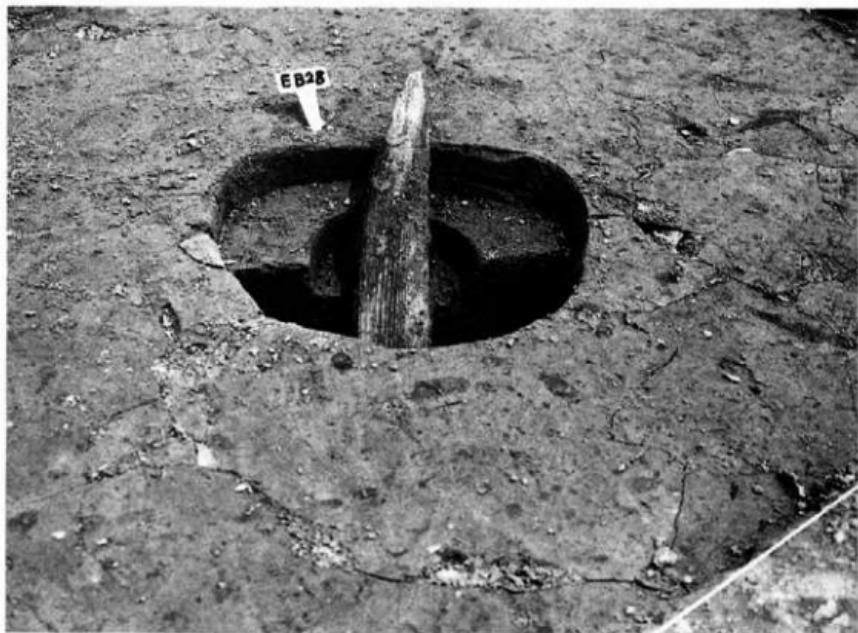


B地区全景

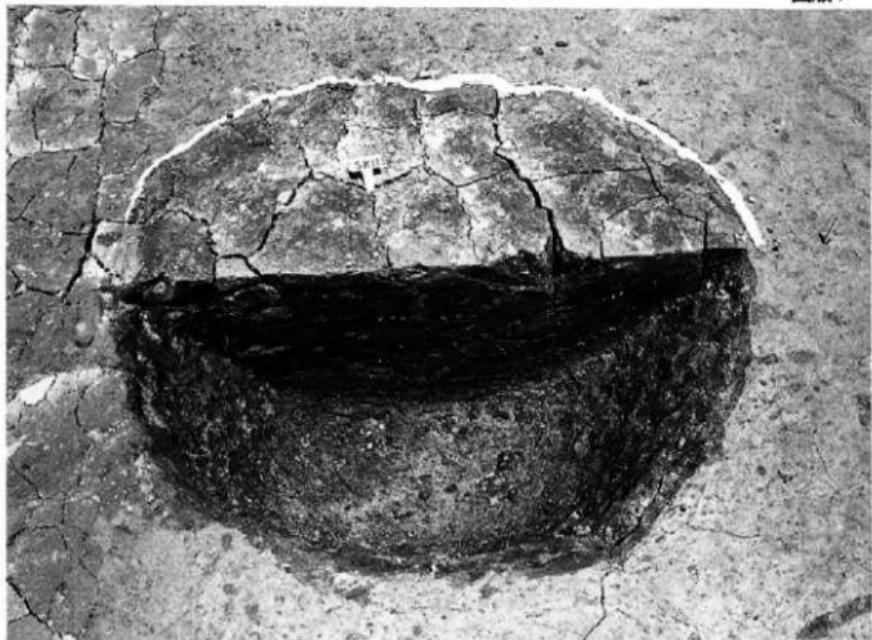
図版 6



S828

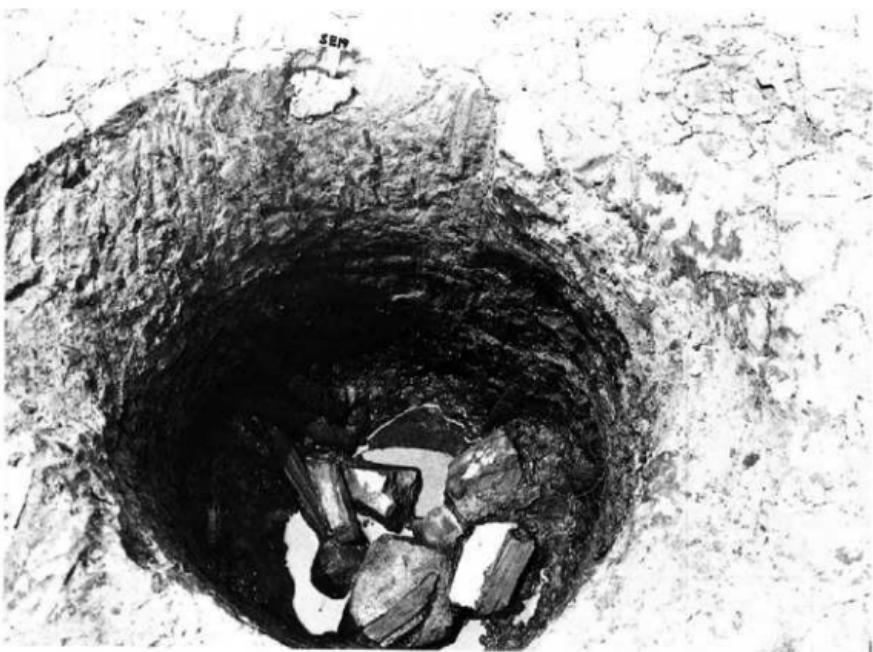


EB1

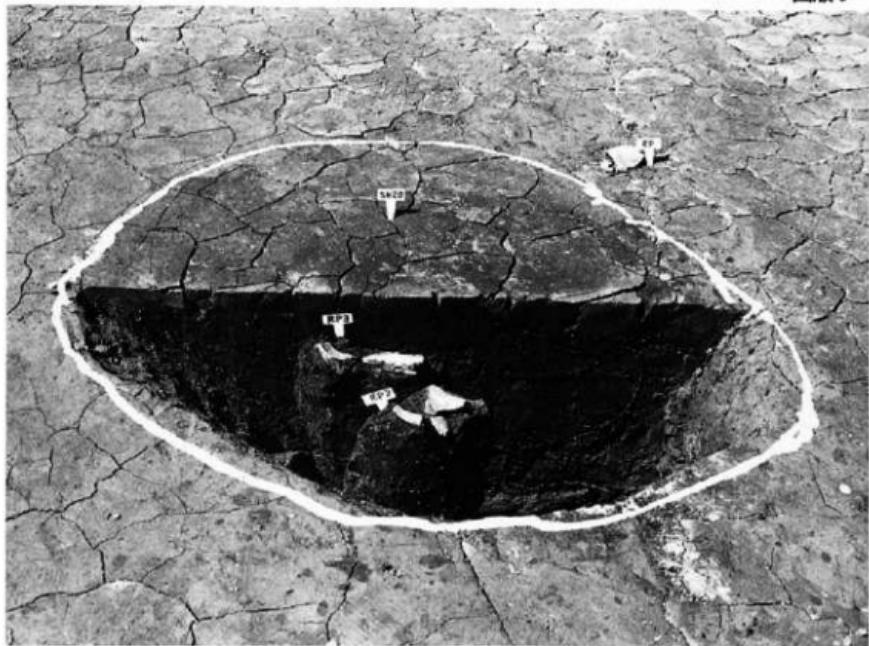




SE19(2)



SE19(3)



SK20(1)



SK(2)

図版10



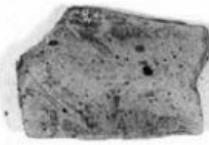
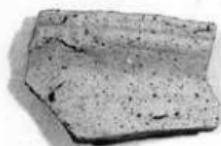
SK21



SK26



1



2



3



5



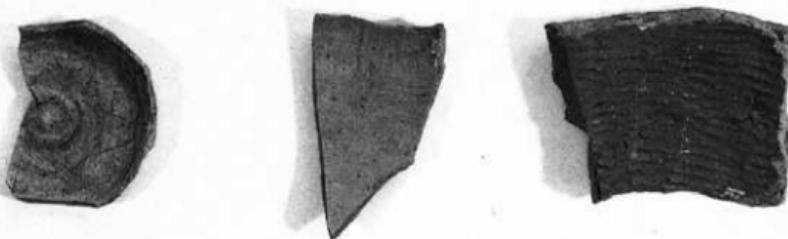
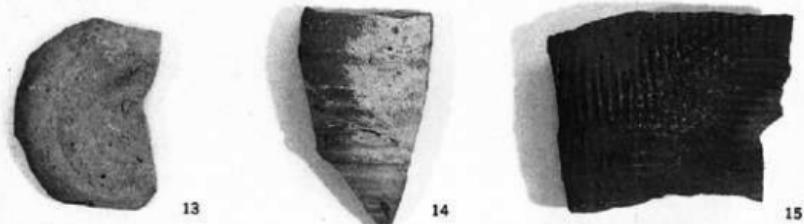
4

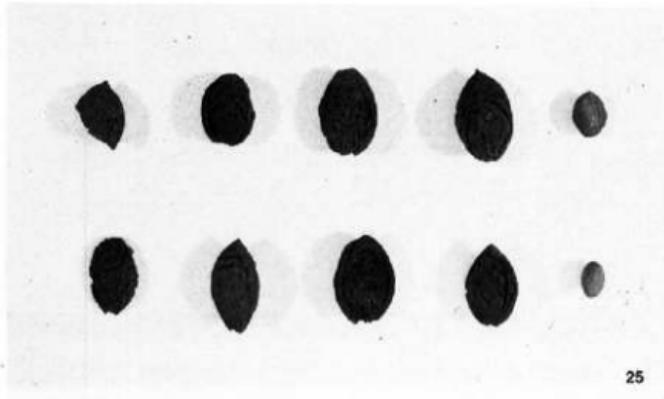
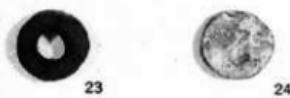
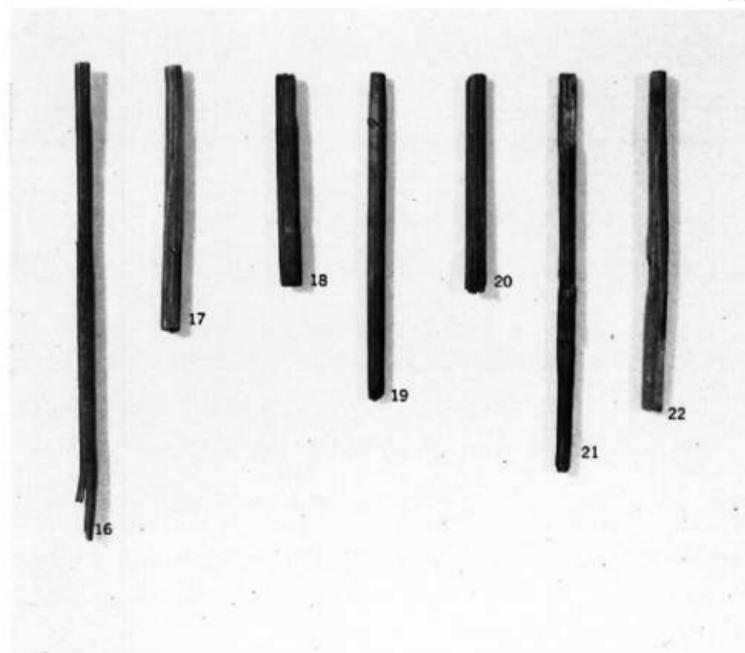


6



7



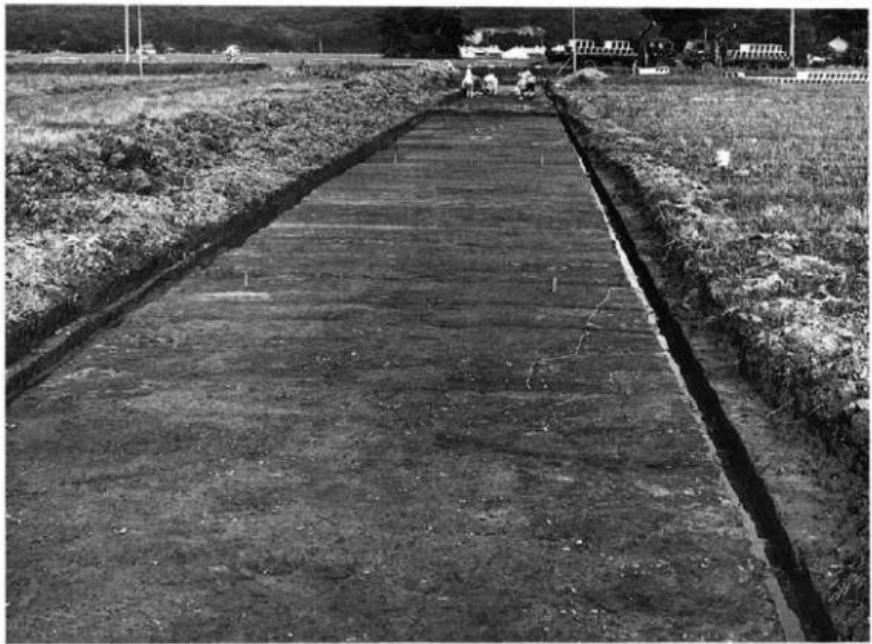




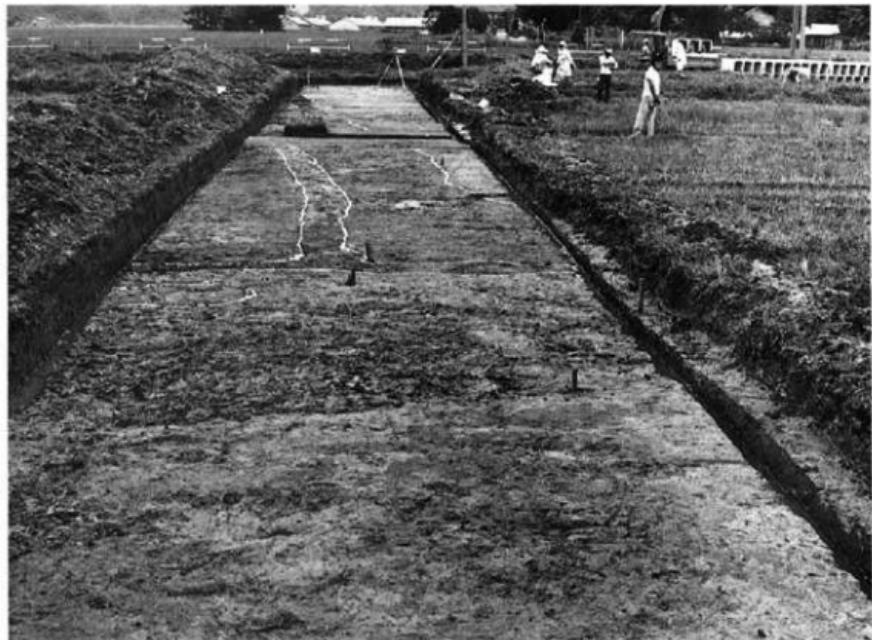
桜林遺跡遠景（南西から）



土層断面



調査状況（A地区）



同上



調査状況（A地区）



S B45

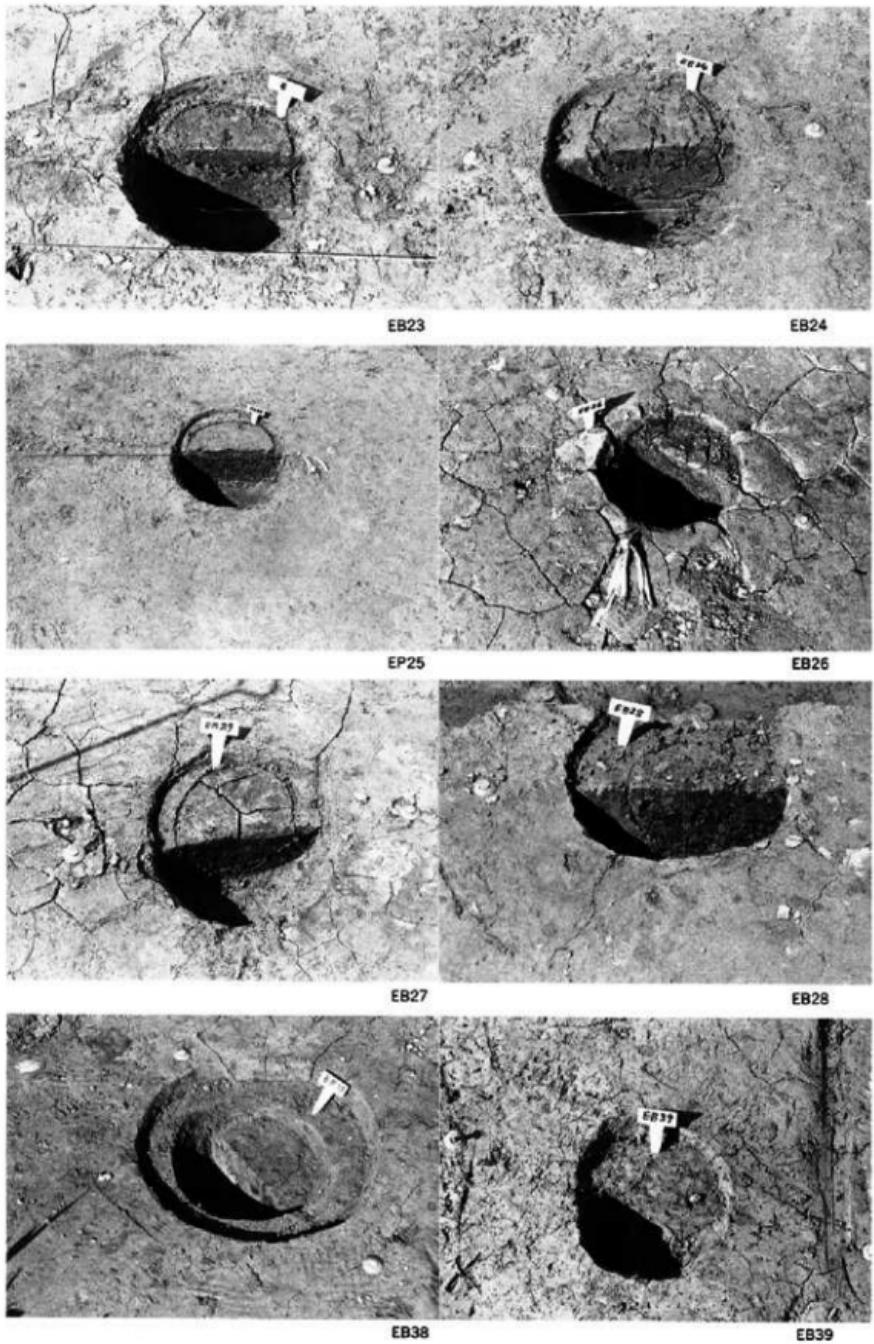


SK33・SB46・SA100



SB46・SK56・SK57

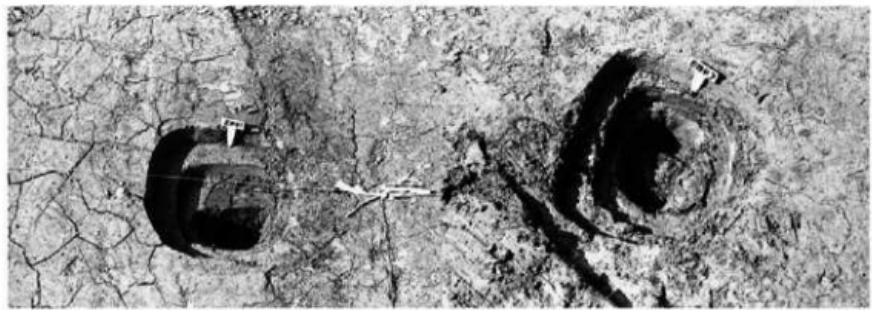
図版18





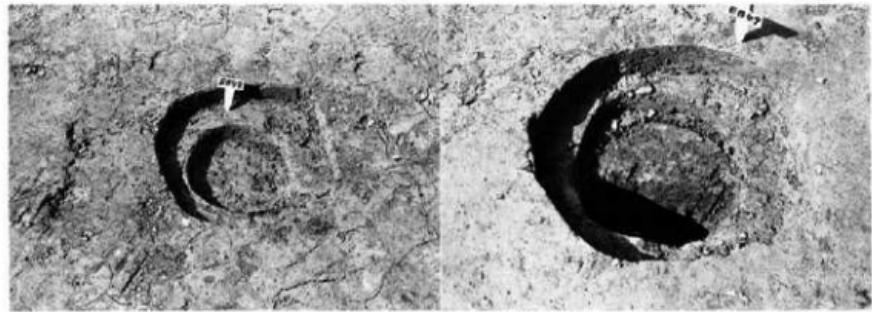
EB40

EB41



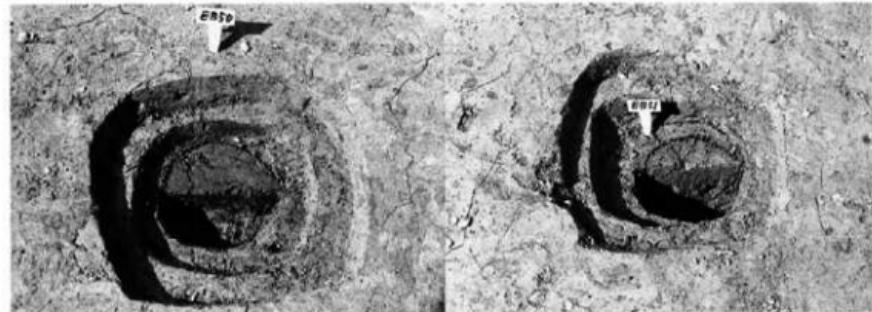
EB42

EB47



EB48

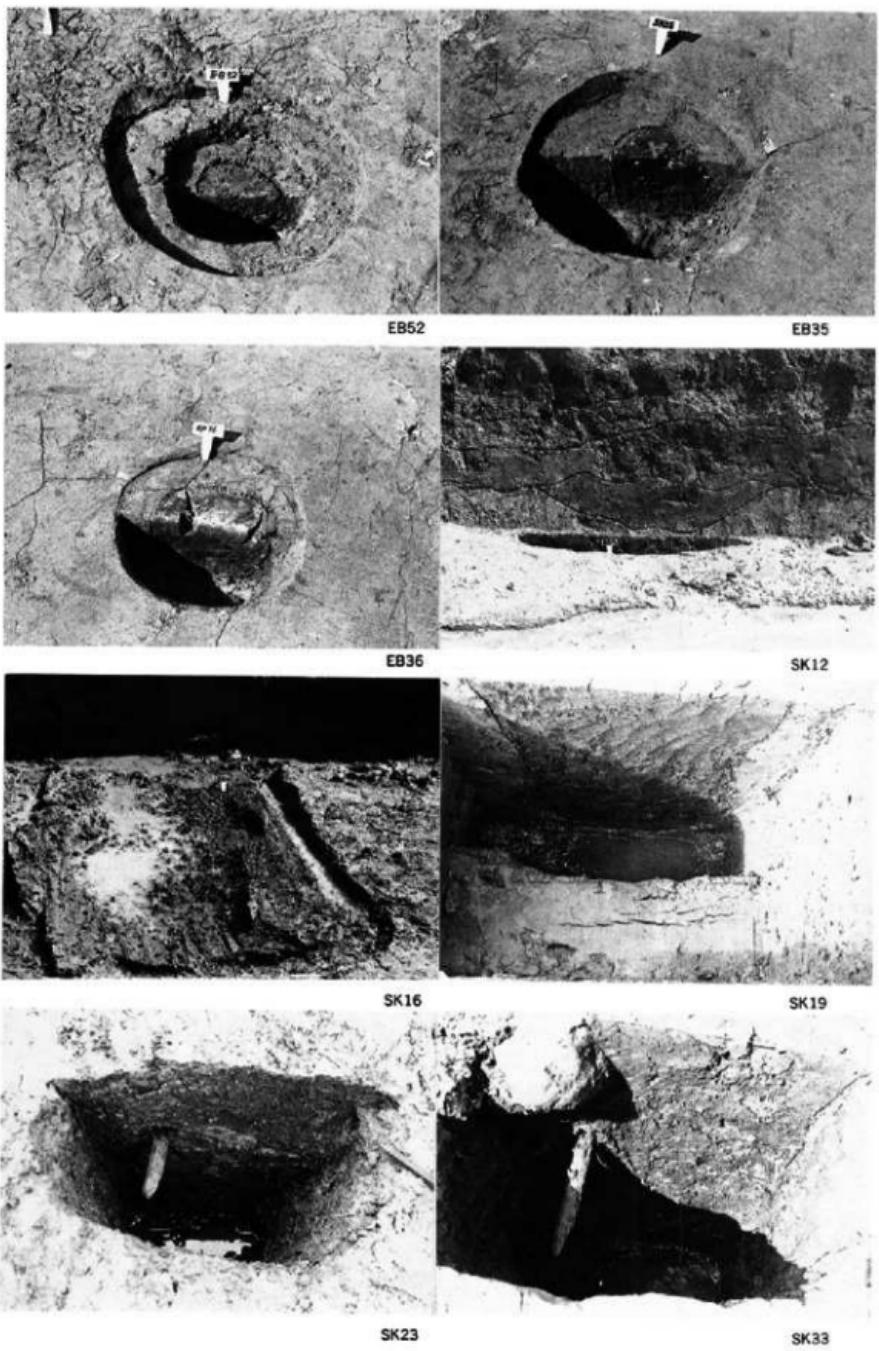
EB49

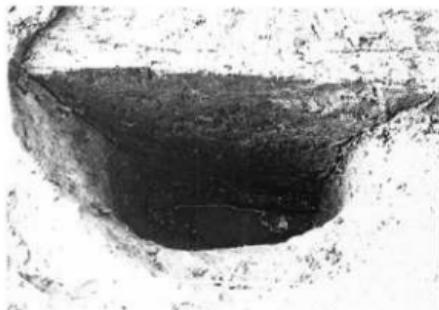


EB50

EB51

図版20





SK56



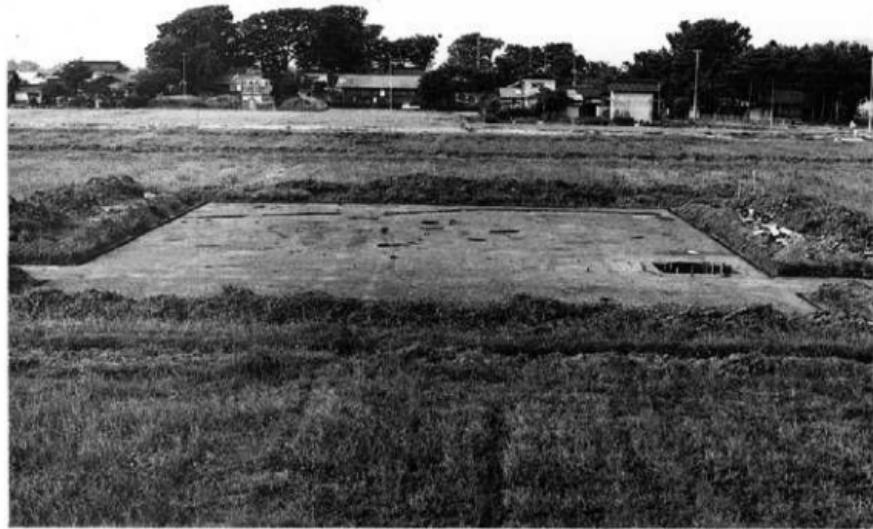
SK57



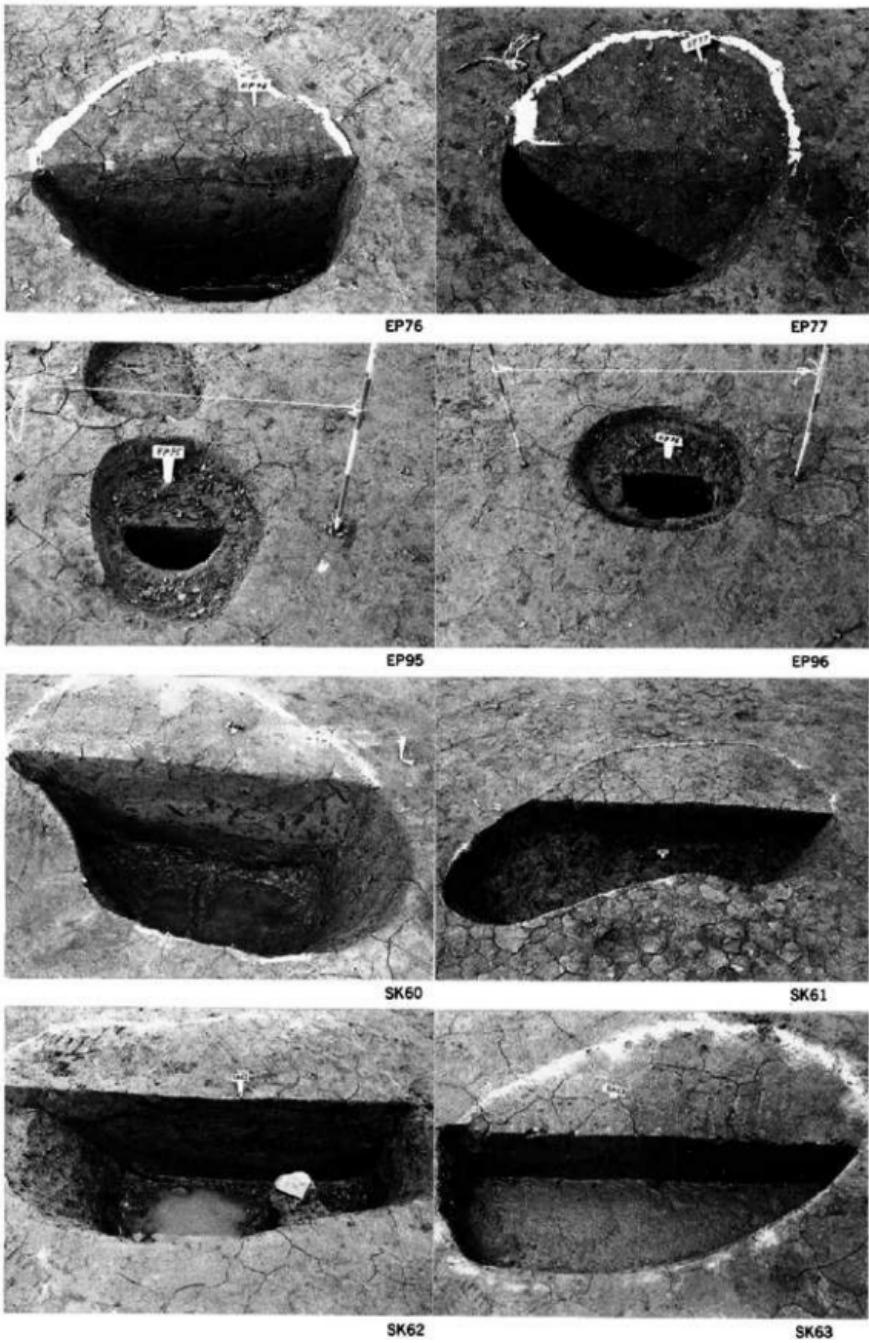
SD11

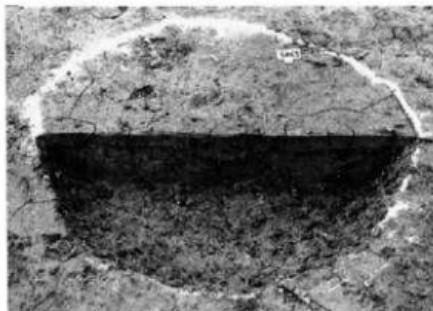


87-30G 土層断面



B地区全景（南から）

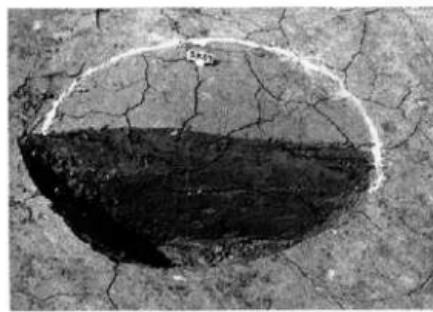




SK65



SK66



SK67



SK68



SK69-74



SK75



SK76



SP77



SE64 調査状況



SE64 板材検出状況

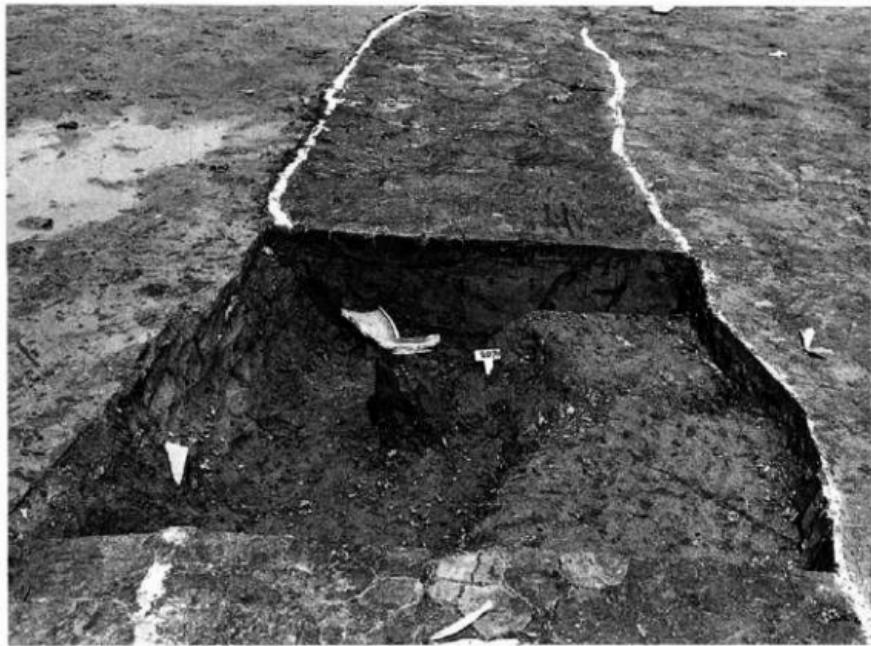


SE64 表面曲物検出状況



同上 曲物





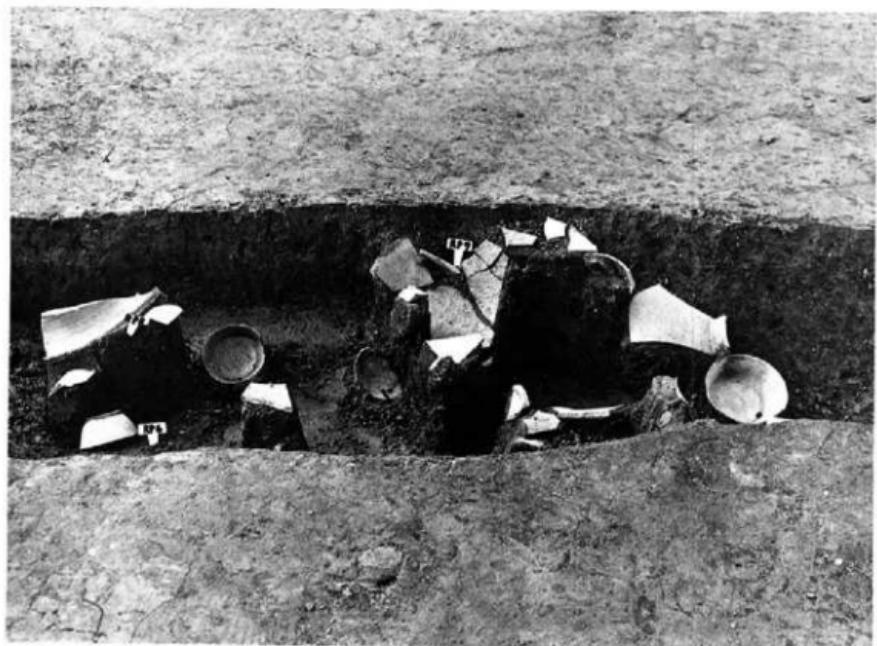
SD72



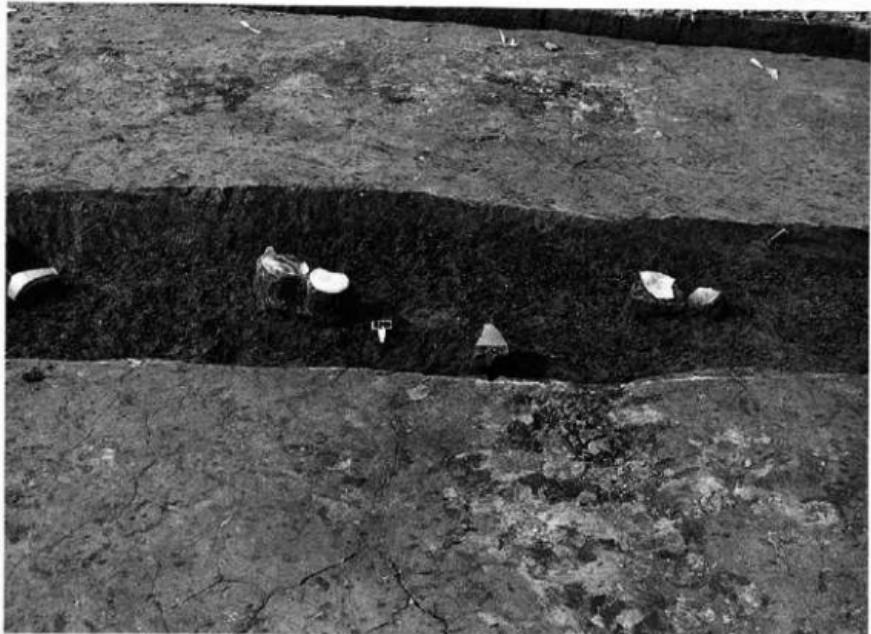
SD72



SD72



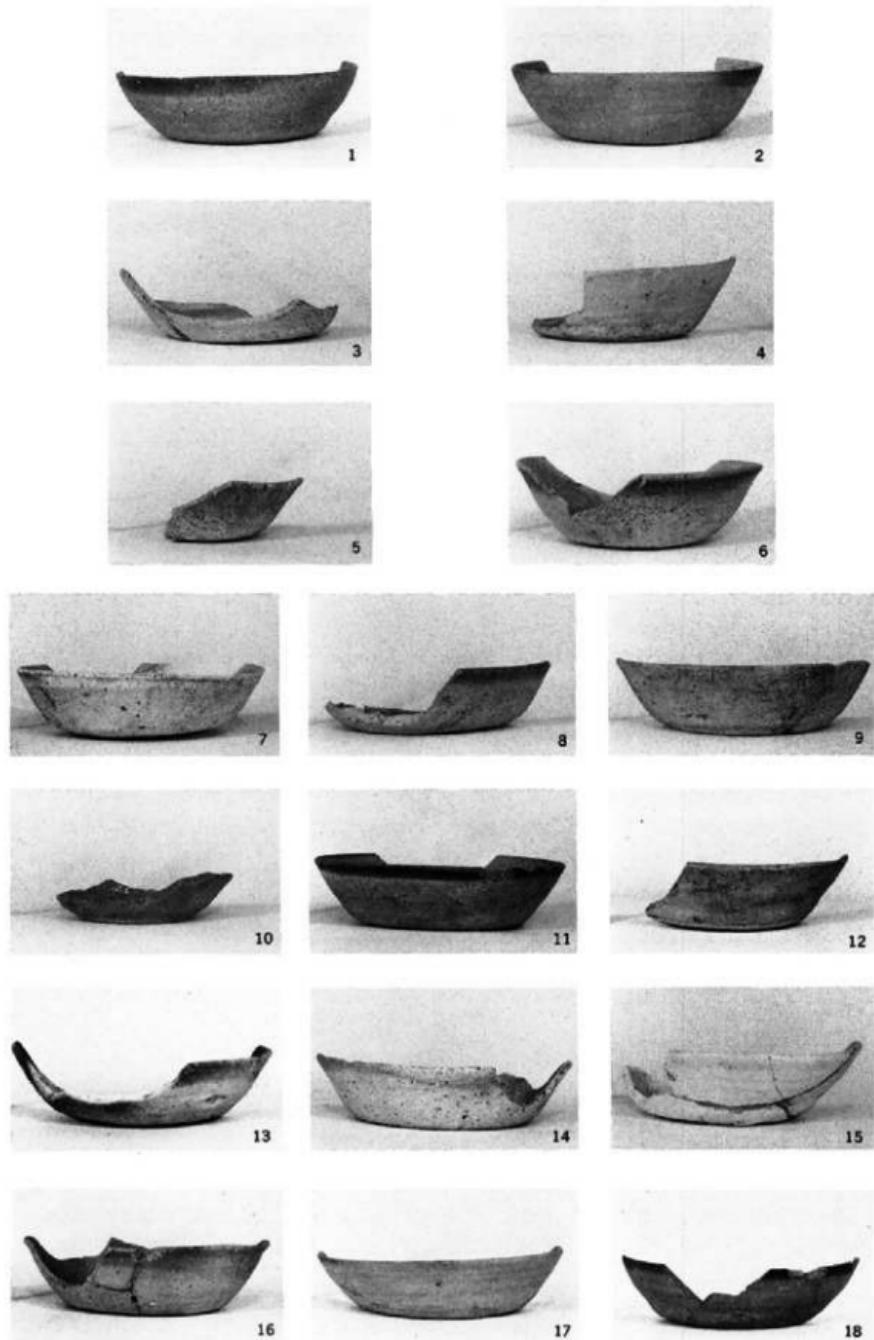
SD72



SD72



SD72





19



20



21



22



23



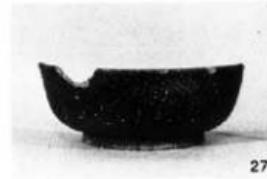
24



25



26



27



28



29



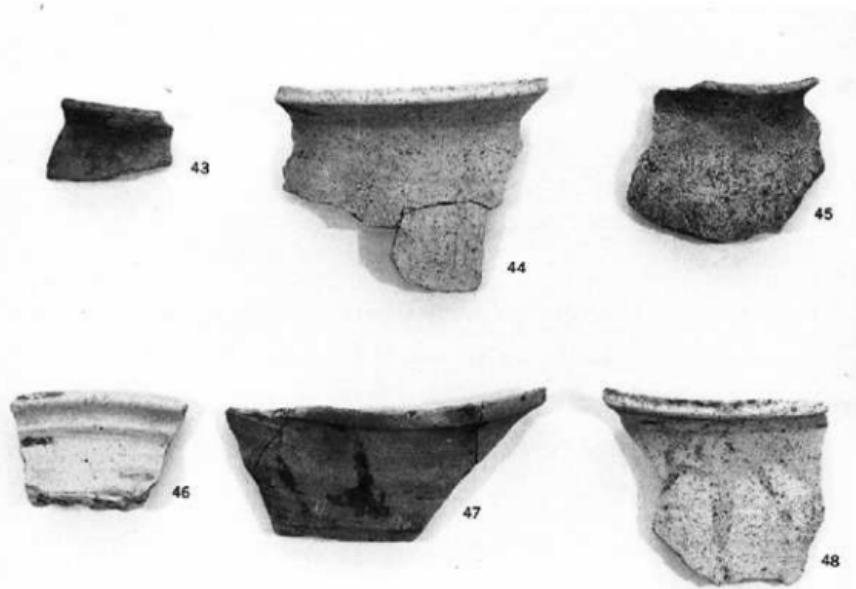
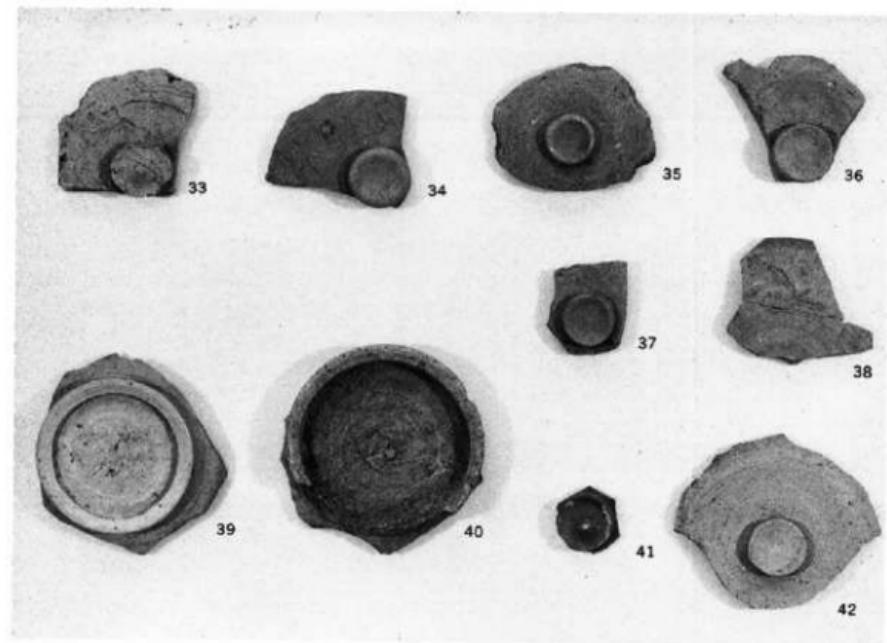
30

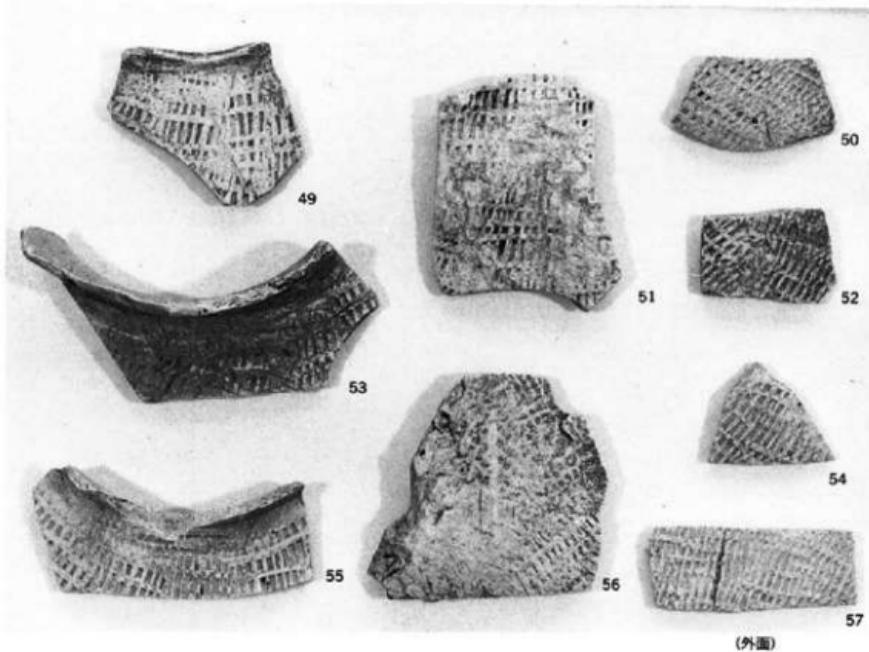


31



32

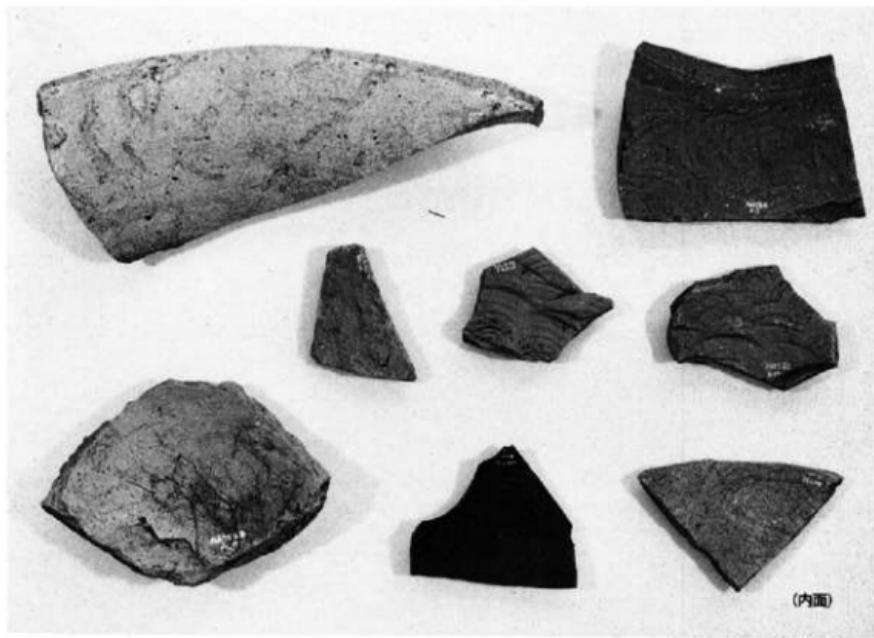
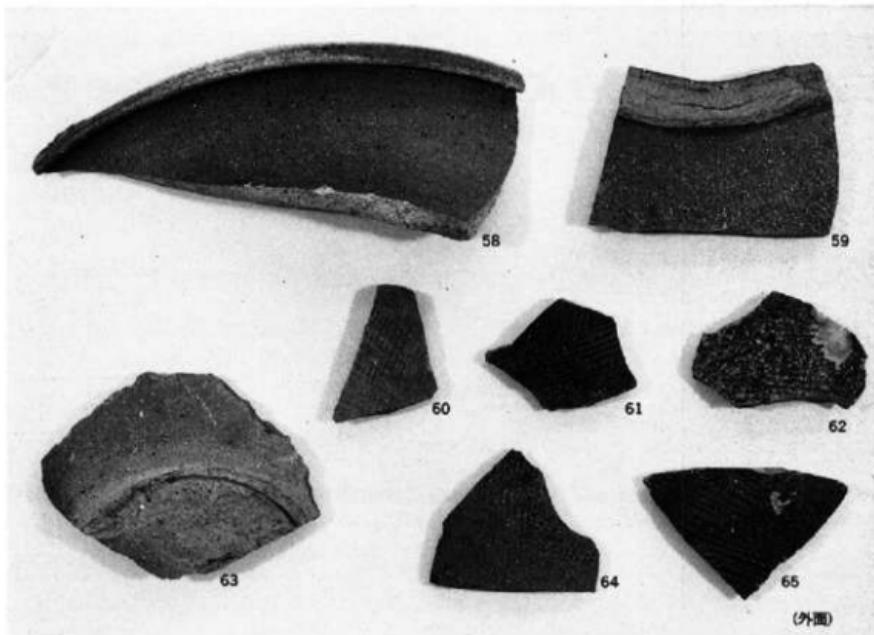




(外側)



(内側)





66



67



68



69



70



71



72



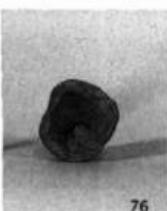
73



74



75



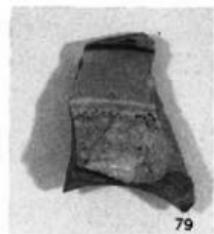
76



77



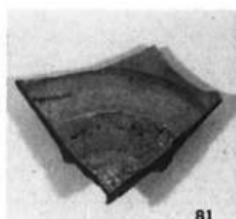
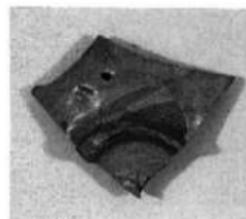
78



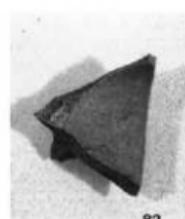
79



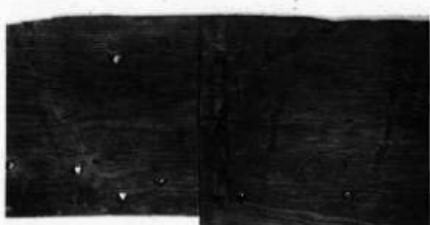
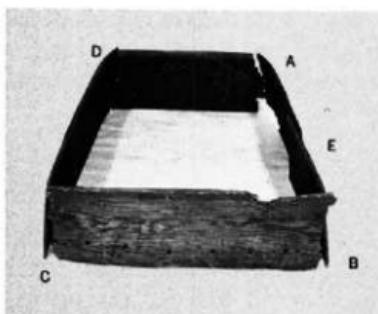
80



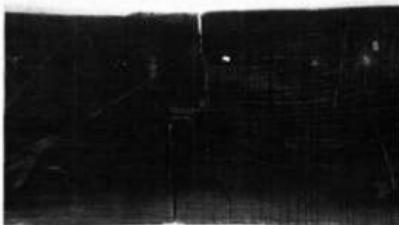
81



82



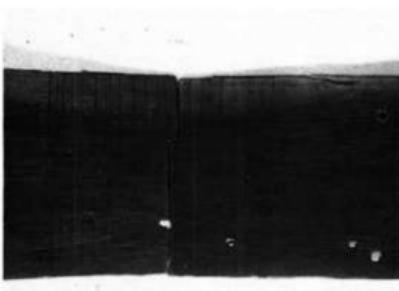
E



D



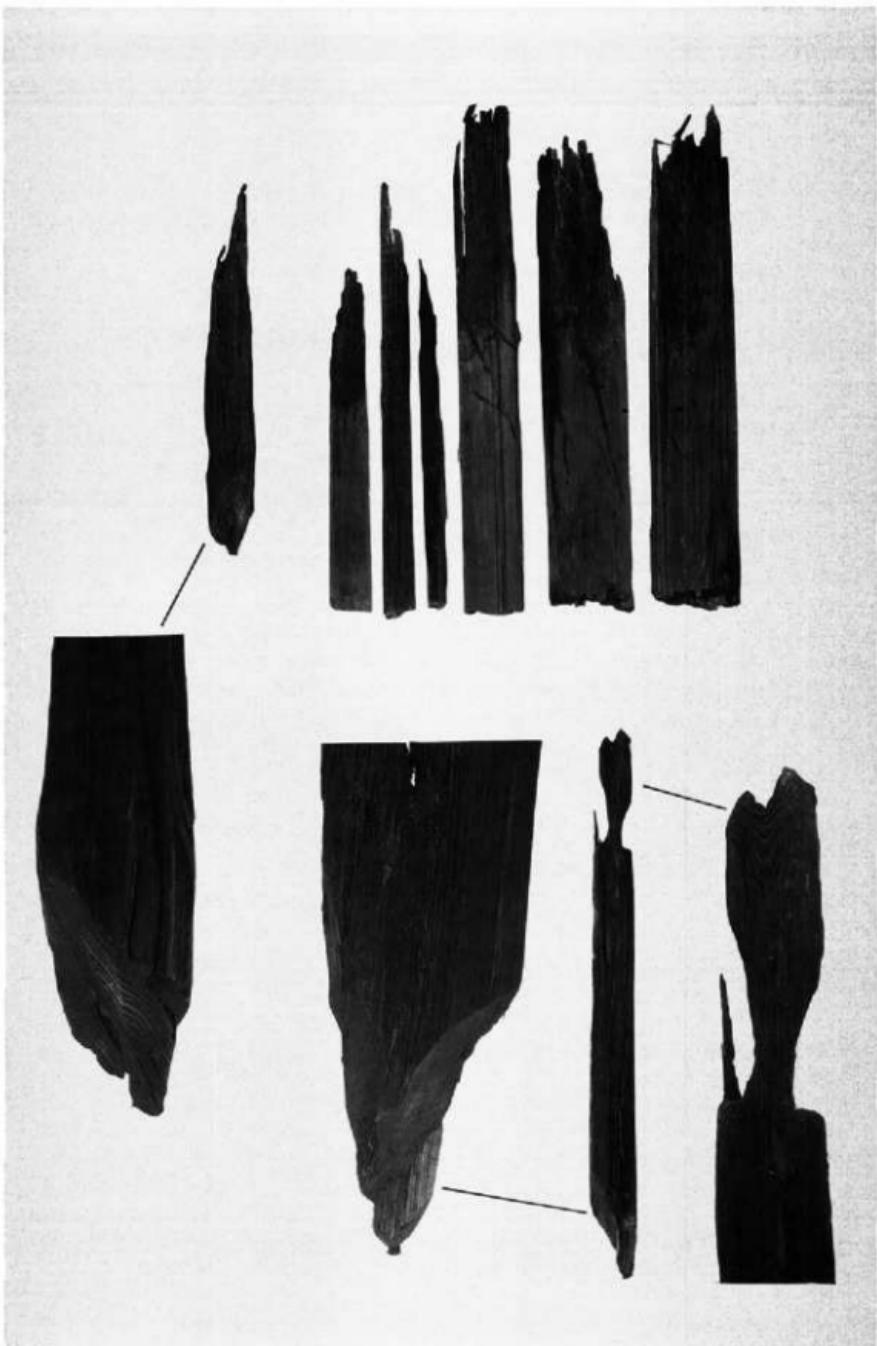
A

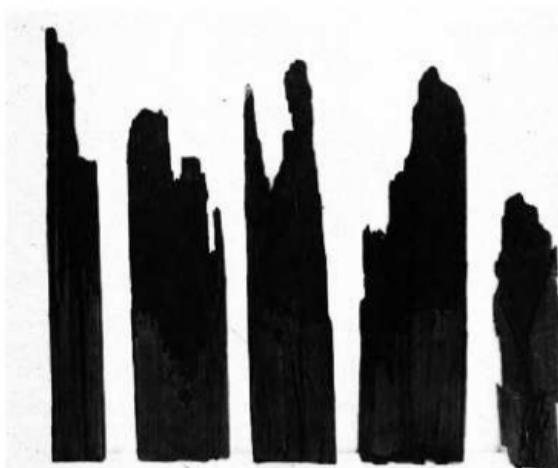


C



B





SE64 縦板（2）





A

B



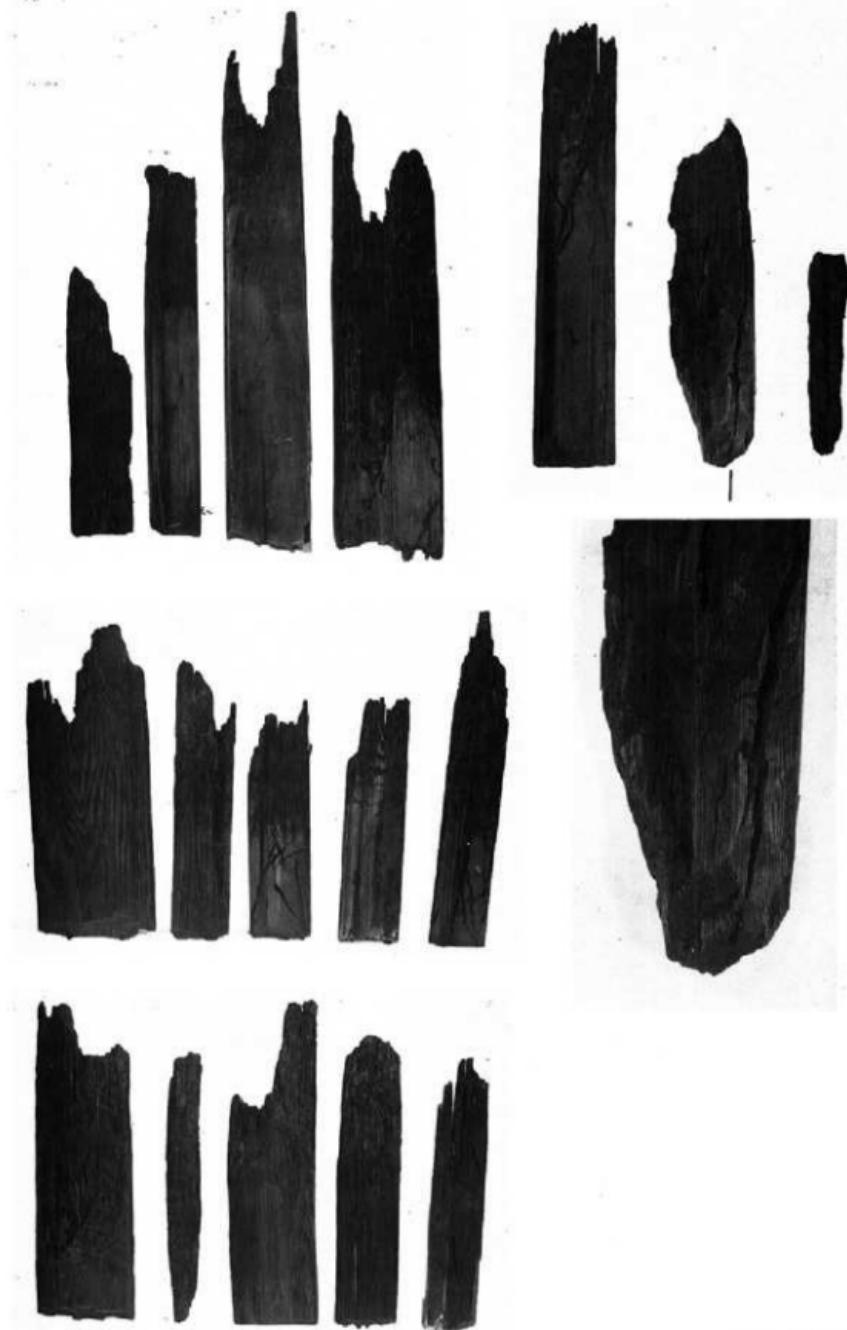
A 中央部



B 中央部



S E 縦板 (4)





遺跡近景（南東から）



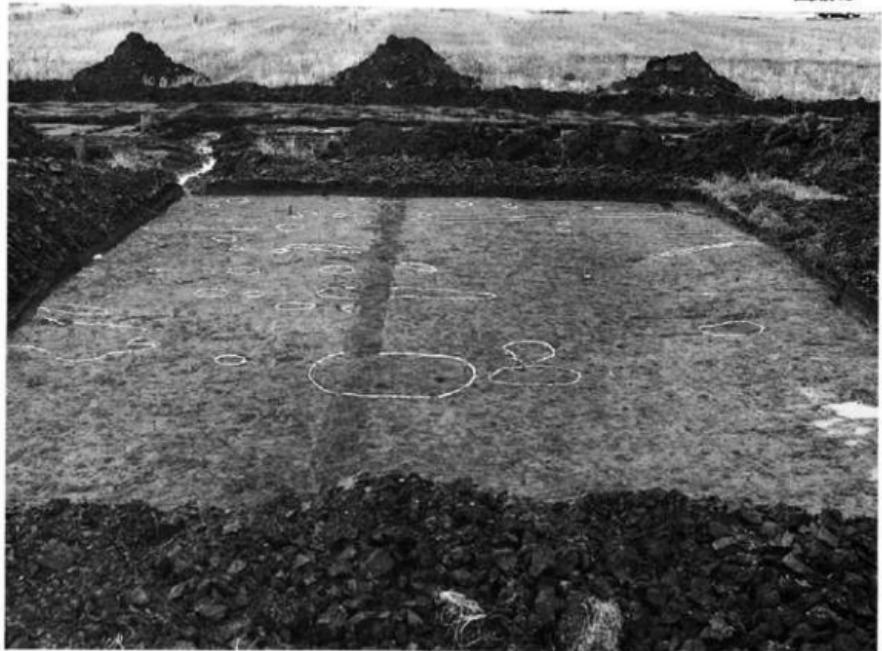
調査風景（B区）



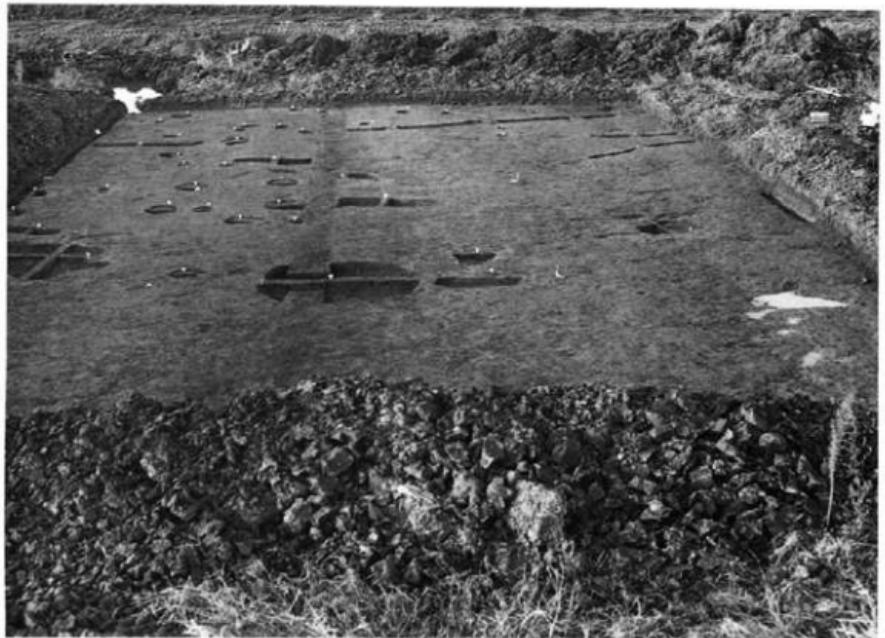
A区遺構検出状況（北から）



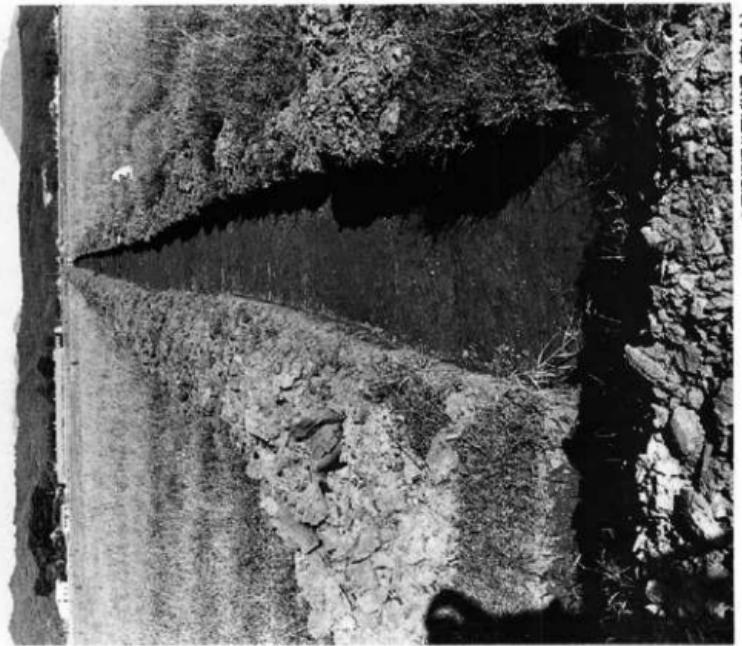
A区遺構掘り下げ状況（南から）



B区遺構検出状況（南から）

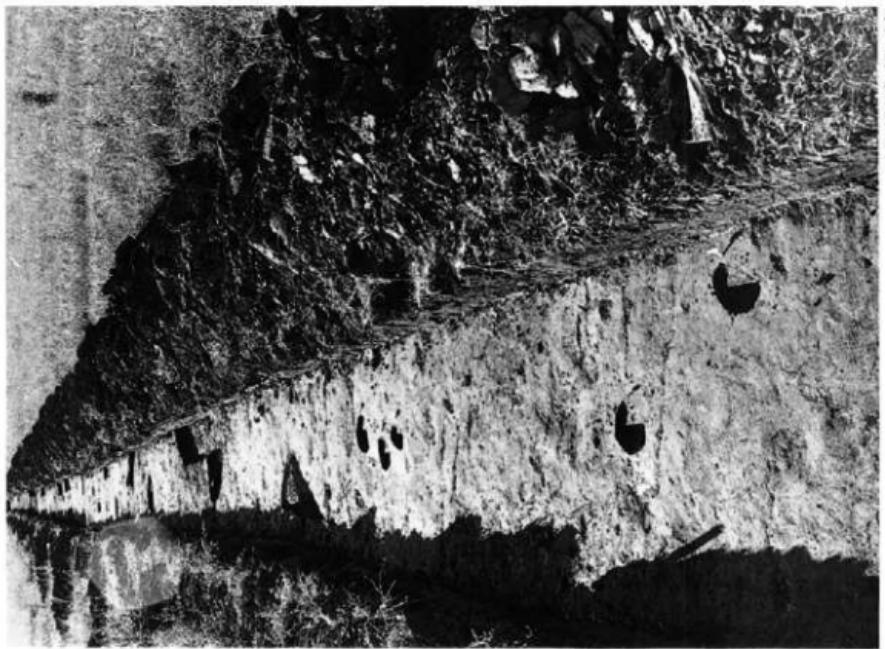


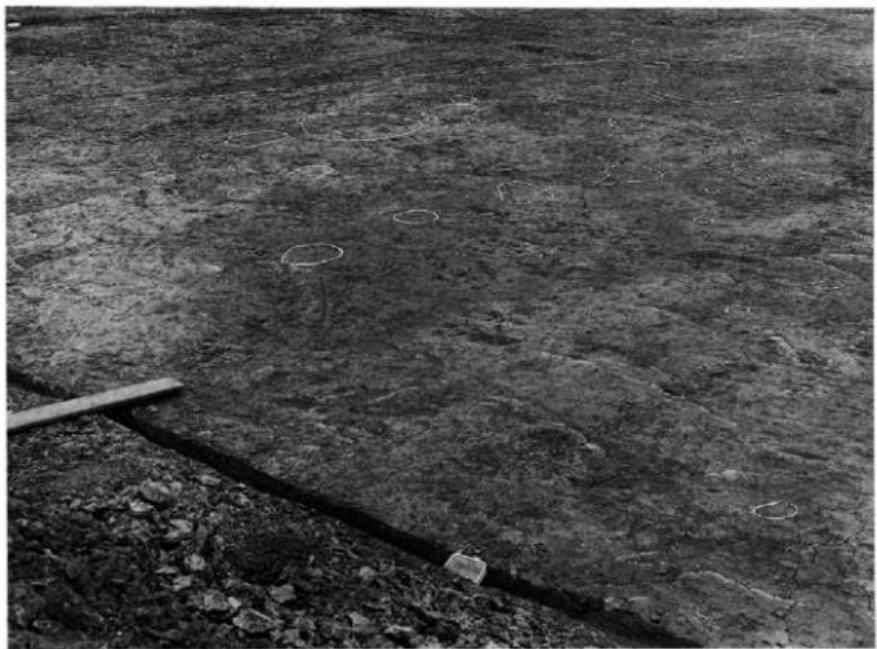
B区遺構掘り下げ状況（南から）



C区調査断面下り状況 (東から)

C区調査状況 (西から)

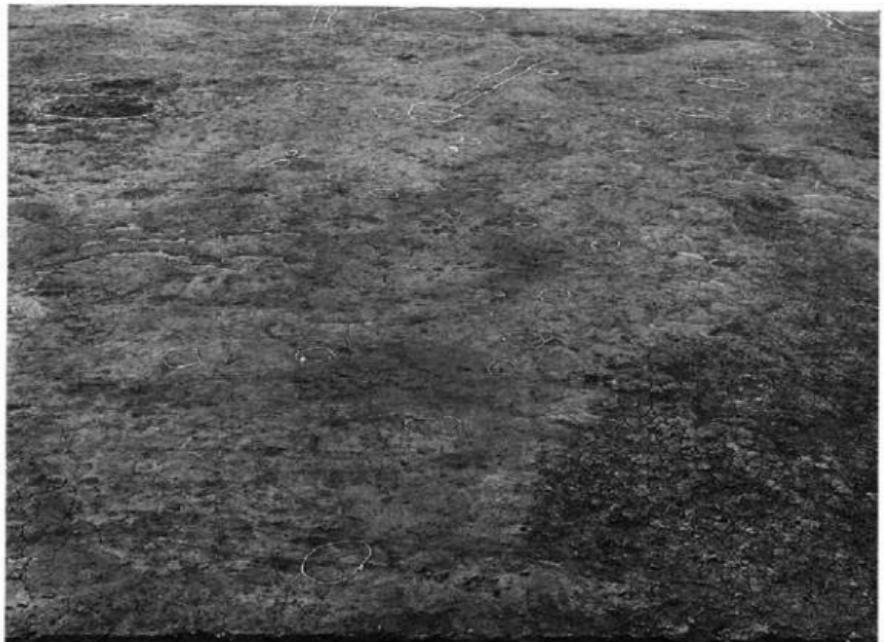




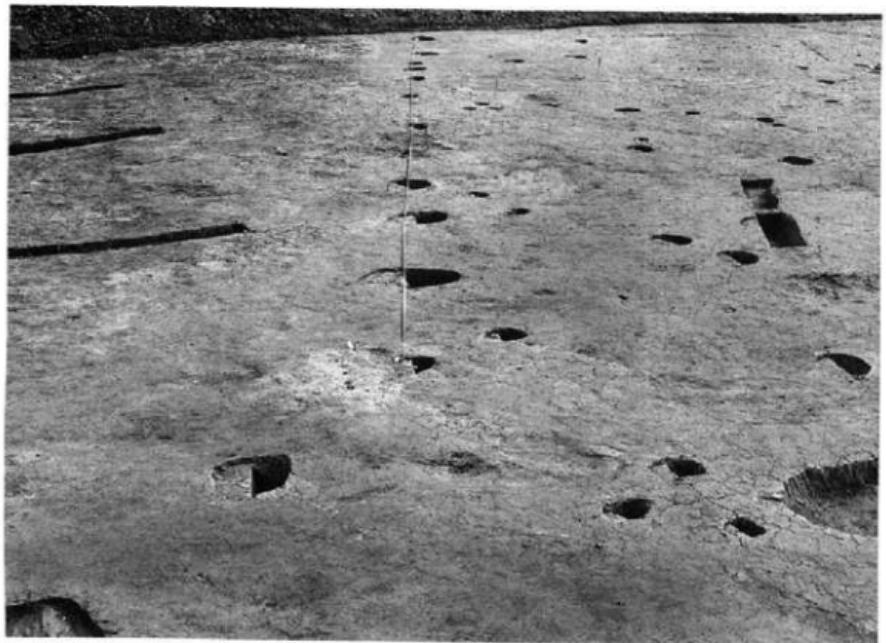
S B 200建物跡検出状況（東から）



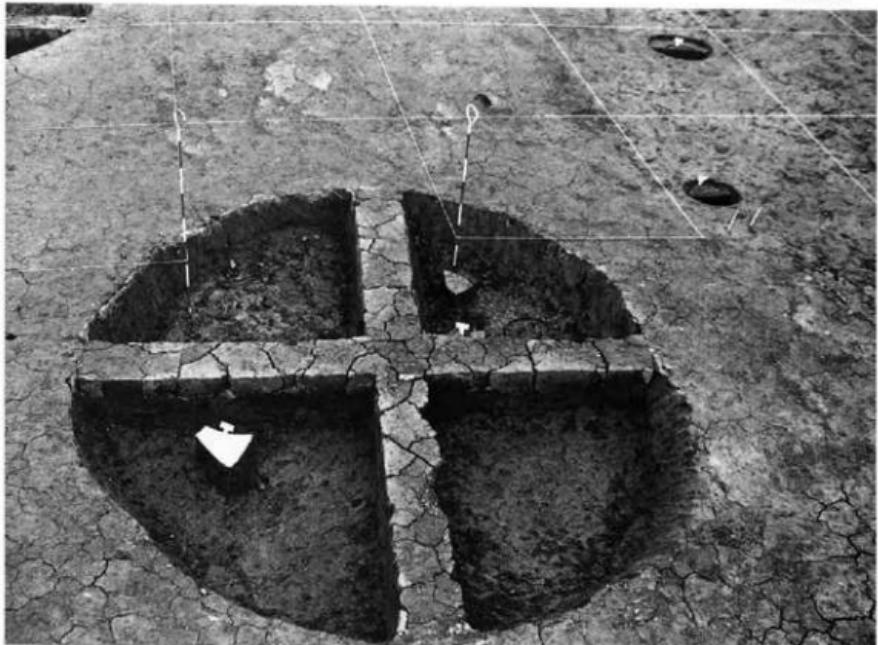
S B 200建物跡（北から）



SB198柱列検出状況（東から）



SB198柱列（西から）



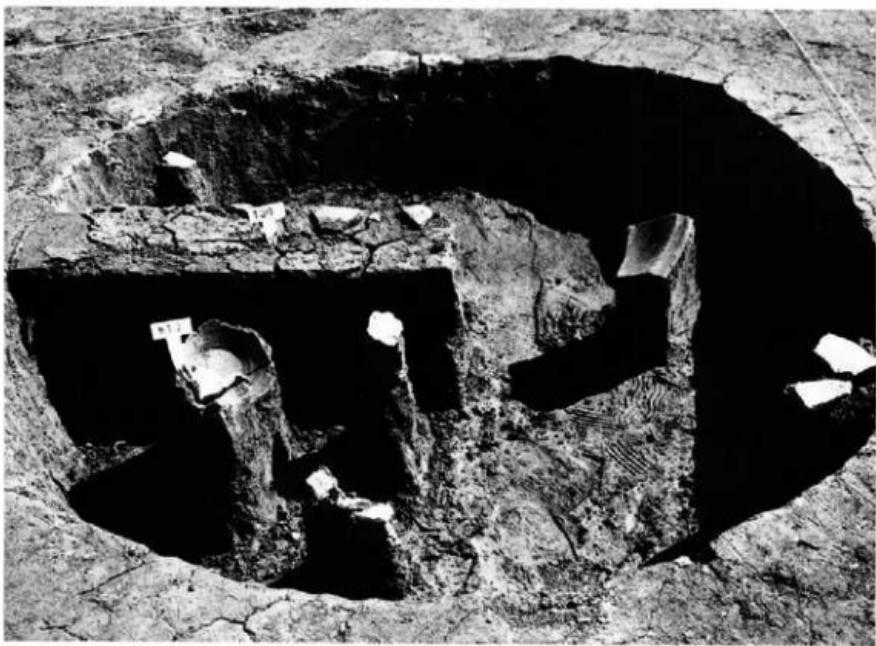
S K 48土壙（南から）



S K 162土壙（東から）



S K 131土壤（西から）



S K 150土壤（西から）



S K 195土壤土層断面（北から）



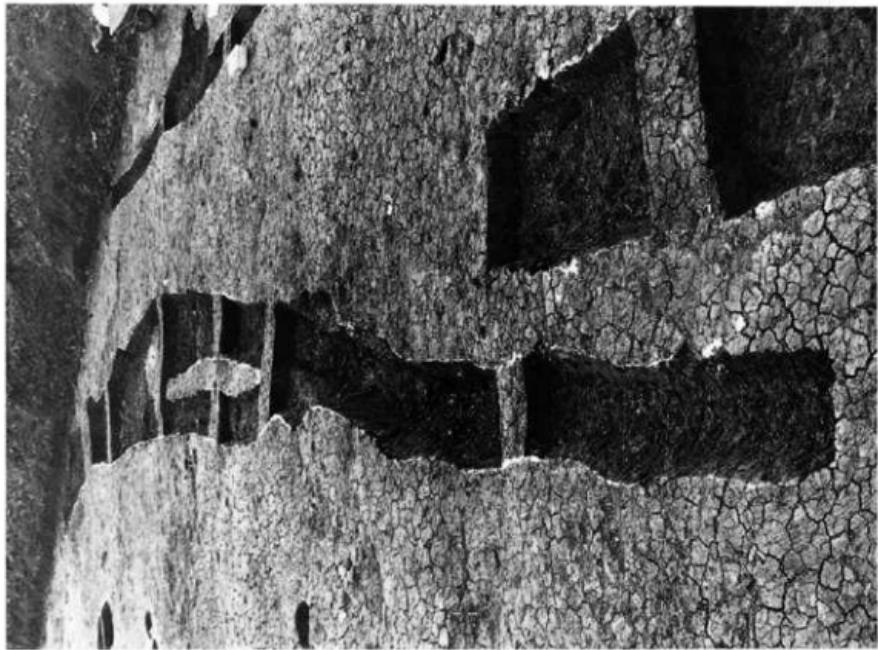
S K 195土壤（北から）



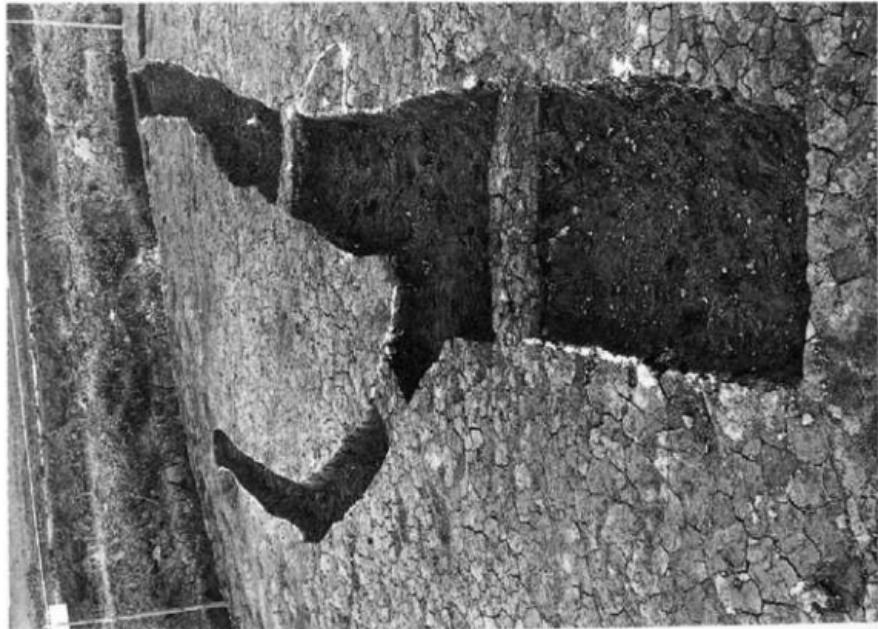
S X 177 落ち込み（西から）



S X 177 土器出土状況（北から）

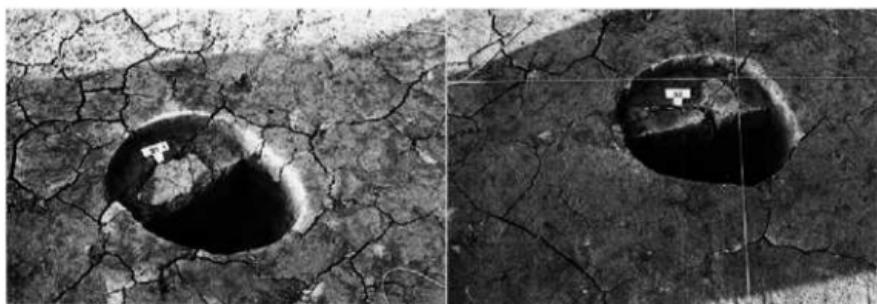


S D139測線 (西から)



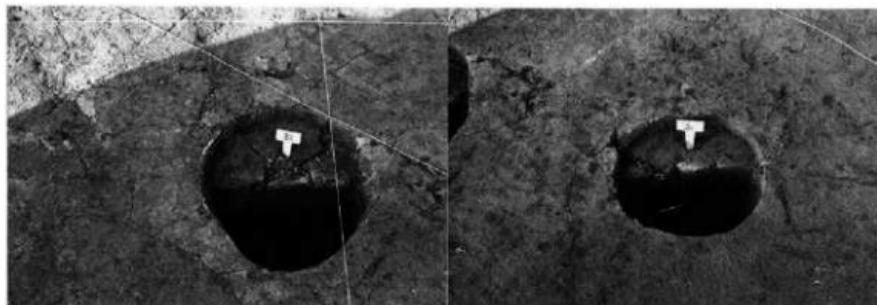
S D141測線 (東から)

図版54



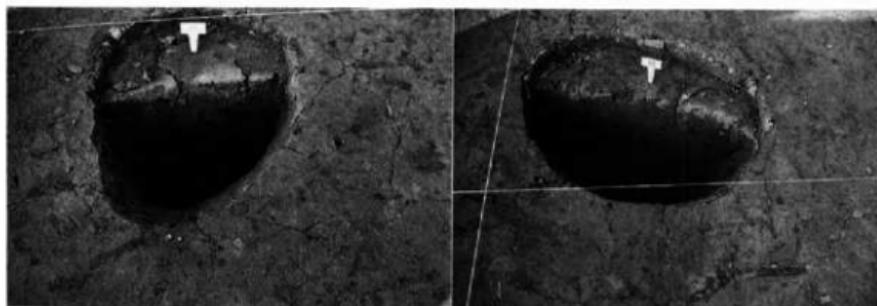
EP31

EP32



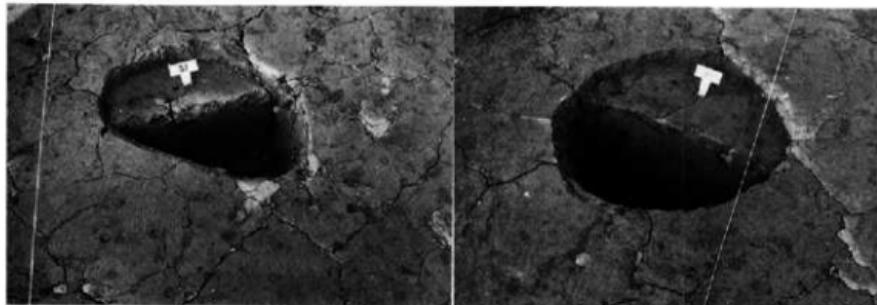
EP33

EP34



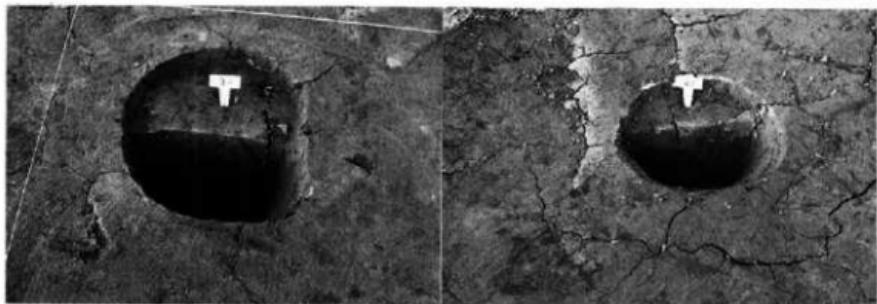
EP35

EP36



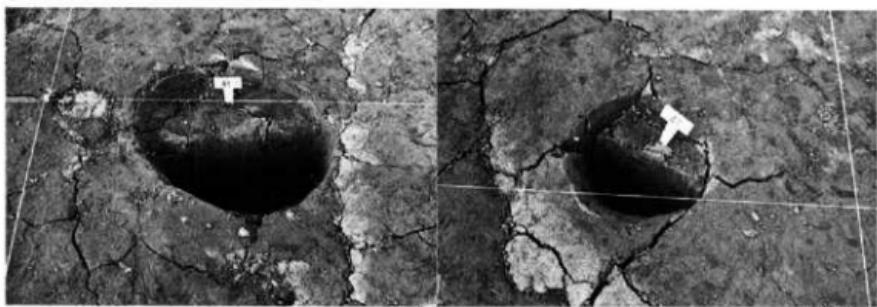
EP37

EP38



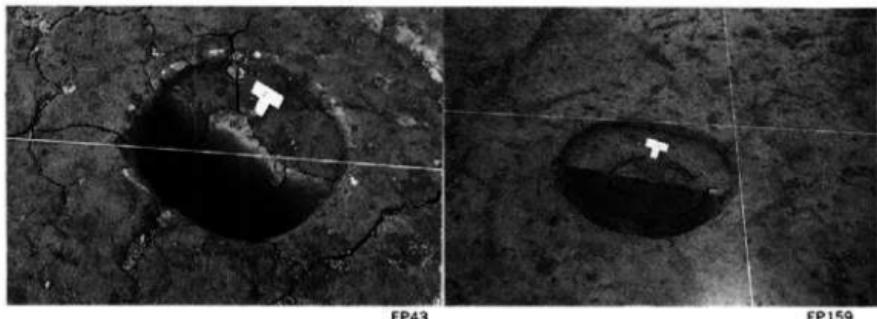
EP39

EP40



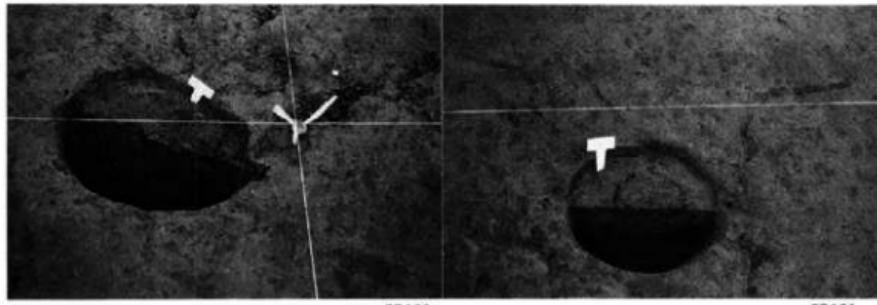
EP41

EP42



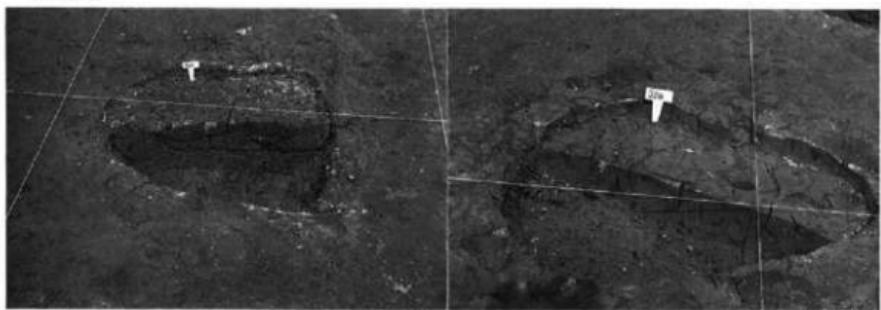
EP43

EP159



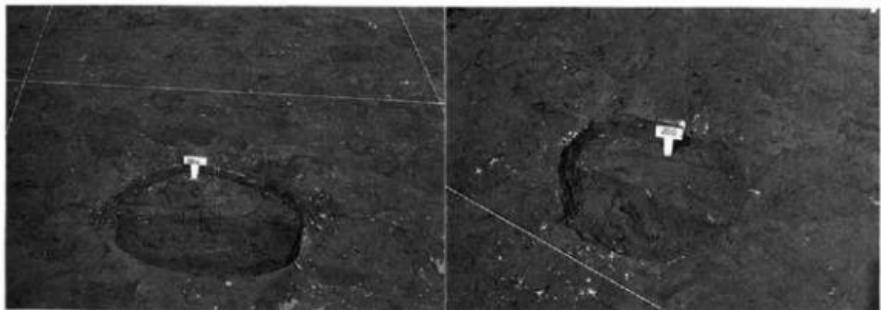
EP160

EP161



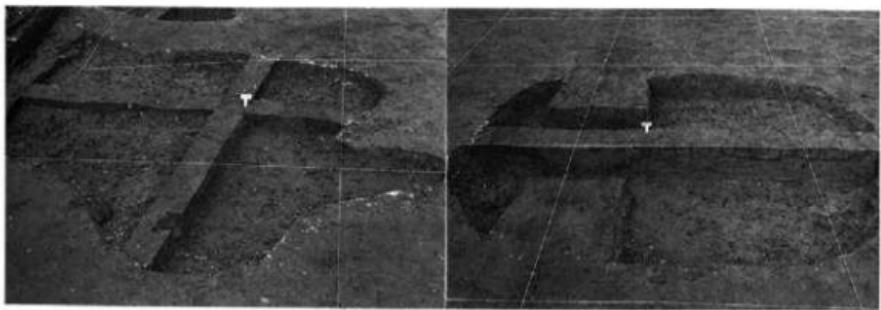
EP326

EP328



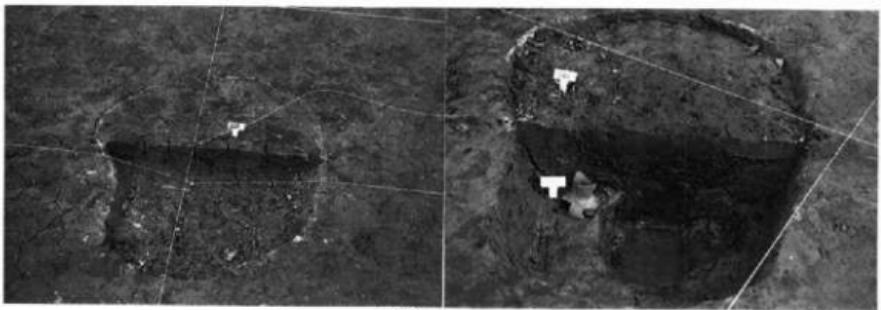
EP329

EP330



EP330

SK337



EP338

EP340



RP10



RP19



RP21



RP60



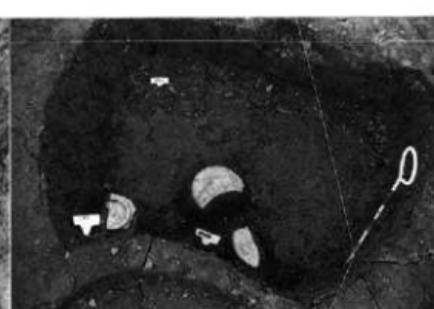
RP22



RP23



RP29・30



RP48・49

図版58 出土土器 (1)



37-1



37-2



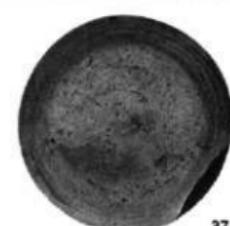
37-5



37-3



37-7



37-6



37-4



37-9



37-8



37-10



37-11



西田遺跡
図版59 出土土器 (2)



38-4



37-12



37-13



39-1



38-3



39-12



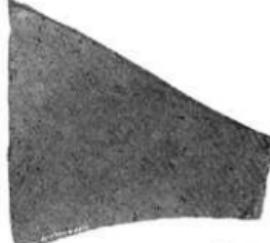
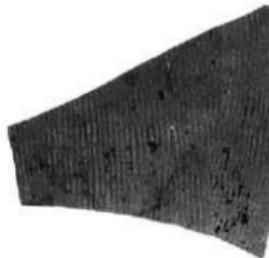
38-2



39-5



39-4



38-1



39-3



39-9



40-5



39-8



39-11

39-10



40-14

図版60 出土土器（3）



39-2



39-6



40-1



40-2



40-3



40-4



40-6



40-7



40-8



40-15



40-9



40-13

西田遺跡
図版61 出土土器 (4)



40-10



40-11



40-12



41-2



41-3



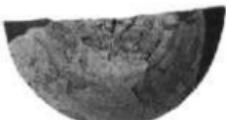
41-5



41-6



41-7



41-8



41-9



41-10



41-11



41-12



41-13

図版62 出土土器 (5)



41-13



41-15



41-16



42-1



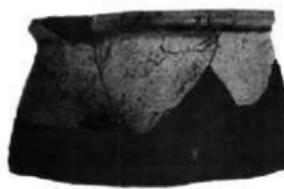
42-2



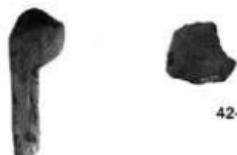
42-4



42-7



42-8



42-10

42-11



42-12



43-2

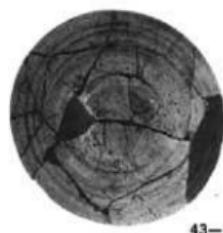


43-5

43-3



43-7



43-12

図版64 出土土器（7）



43-13



43-14



43-15



43-16



43-18



43-19



44-1



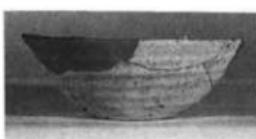
44-2



44-1



44-3



44-5



44-7



44-4



44-8



44-6

山形県埋蔵文化財調査告書 第126集

わ 早 稲 田 遺 跡
きくら せ ん だ い い じ き
さ く 横 林 遺 跡
にし ば や し だ い い じ き
西 田 遺 距
にしだい い じ き

発掘調査報告書

昭和63年3月25日 印刷

昭和63年3月30日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 株 大風印刷
